

○田布施村

橋口 咳 巾



田布施村 橋口 咳市氏  
君は明治五年一月六日田布施村に生る、明治三十年四月區長に擧げられ夫れより農事小組合長、煙草耕作組合長に推さる大正二年以來の村會議員にして普通農事、煙草耕作等に依り村及び專賣局より表彰さる尙ほ君は産業組合理事、造林委員道路委員、農會代議員に擧げらる。

田布施村 二宮 覺之丞氏

君は明治十四年七月十日田布施村大坂に生る、明治三十四年歩兵第四十五聯隊に入營し、同三十六年上等兵に昇進し、全三十七年日露戰役に出征し同三十八年伍長に昇進し同年十月歸國と同時に同聯隊附となり、同三十九年十二月軍曹に昇進す、戰功に依り功七級金鵄勳章並に青色桐葉章を下賜さる。同四十一年歸郷と共に青年會顧問兼會計及び田布施村在郷軍人會幹事兼會計班長等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選し造林委員に選ばれる。

田布施村 二木 源助氏



君は明治三年十二月二日田布施村に生る、明治三十一年鹿兒島縣巡查拜命、同卅九年辭任全年七月東京警視廳巡查拜命同四十二年辭任して同四十三年より代書業に従事し大正八年九月鹿兒島地方裁判所の認可を受け司法代書人となる大正四年大野衛生組副會長、同十三年同組長に推さる、大正二年以來區長、村農事小組合長に擧げられ尙ほ造林委員村會計委員大野産業組合理事等に推さる大正十四年村會議員に當選せり

田布施村 辻 次右衛門氏



君は明治二十年九月十五日田布施村に生る、同四十年歩兵第四十五聯隊に入營、同四十一年滿洲守備隊として派遣せられ巡邏上等兵に昇進し、同四十二年歸隊大正九年大分縣特別大演習に参加し陸軍歩兵伍長に昇進明治十三年田布施村在郷軍人會幹事、評議員及び會計に擧げらる其間十四ヶ年の長きに及ぶ大正十三年一月在郷軍人會鹿兒島支部長より表彰さる、又大野青年會創立當時より副會長、幹事及び會長に推され尙ほ且消防組長を勤む大正十三年大野青年會より感謝狀並に紀念品を送られ大正九年國勢調査員を命ぜらる尙大日本武徳會鹿兒島支部日置南部支所委員青年會顧問たり、大正十四年村會議員に當選せり。

○田布施村



◎田布施村

永池善次郎

君は明治十年十二月十二日伊作村に生る、同三十年歩兵四十五聯隊に入營、同三十三年陸軍戸山學校へ入學一ヶ年にして歸隊下士適任證を受く、全三十七八年の日露役に參加せしが除隊と同時に伍長に昇進す田布施在郷軍人會幹事大正五年區長、同八年青年會顧問並田布施村大坂産業組合副會長兼會計係、學務委員、道路委員、造林委員等に擧げられ煙草耕作組合よりは三回に亘り表彰さる、大正二年より大正十四年迄四回村會議員に推され自治は元より好く農作物の品質向上を計り村民より信望せらる。

田布施村 永池善次郎氏

坂下直吉

君は文久元年五月八日田布施村に生る、農業を屬み居たるが傍ら村内の各方面に力を注ぎ殊に部落の世話人として二期に亘りて其の任を果す尙ほ村會議員に擧げらるゝこと二回村政の爲めに多大の努力をなし一般に信頼せられつゝあり。

田布施村 坂下直吉氏

坂口善右衛門

君は嘉永三年十二月十日田布施村大坂に生る、明治二十二年誤謬訂正の當時より村内に於ける各般の事業にたつさわり農會代議員、煙草耕作組合長、區長、婦人會顧問、同區道路開通委員に擧げられ明治三十八年村會議員に當選して自治の爲め貢献す其の村會議員たる事前後五回、大正十四年の改選に際して又た當選す、同區に於ける今日の交通の便は君の努力の賜と言ふも過言ならず齡七十七の老年なる君は尙ほ壯者を凌ぐ、君は煙草耕作組合農事小組等より表彰されし事一回ならず。

田布施村 坂口善右衛門氏

◎田布施村



東市太郎

田布施村 東市太郎氏  
君は明治八年十月八日田布施村に生る、近衛歩兵第二聯隊に入營日露戦役に出征し一時金五十圓下賜さる、同四十三年村會議員に推され學務委員、建築委員、村農會代議員、耕地整理組合委員に擧げられ大正十四年更に村會議員に當選し好く其の村の自治に貢献せり。

東中村常吉

田布施村 東中村常吉氏  
君は明治二十七年九月十五日田布施村大坂に生る、大正八年區長に擧げられ大正九年農事小組合長、農會代議員に推さる大正十四年村會議員に當選し造林委員に選ばる、君は温厚の士にして殊に農作物の品質向上に努力する所少なからず。

阿多村長 原口榮氏

原口榮  
君は明治七年九月十三日阿多村に生る、村役場書記、收入役助役と歴任し大正十年四月十四日村長に當選し再選され今日に至る。

阿多村助役 有馬佐平太氏

有馬佐平太  
君は慶應三年四月十日阿多村に生る、村役場書記たりしが大正十四年三月助役に推薦され、よく村長を補佐して村政の爲めに努力しつゝあり。

有馬佐平太



○阿多村

花房兼禮

君は元治元年九月阿多村花瀬に生る、明治十三年阿多村小學校に教鞭を取り後同村收入役及び助役に擧げらる、日露戦役の功に依り勳八等白色桐葉章を授けらる、君は夙に農村の風紀改善に努力したるが其の功勞者として大日本農會及縣知事より表彰さる、明治四十二年引退せしが村民は之を惜みて感謝状を送る鹿兒島授産社常議員、南薩鐵道創設に努力せり、君は萬之瀬川上流の水電利用意の如くならず頗る之を遺憾とす、大正六年村長に推さる産業組合創立に際して君の努力忘るべからず大正六年郡會議員に推され同十四年村會議員に當選す。

阿多村 花房兼禮氏

阿多村 西上床常吉氏

西上床常吉

君は明治十六年十月十七日阿多村に生る、大正十年村會議員に擧げられ大正十四年再選せしが、南薩鐵道敷地買収委員、村造林、交通、水利、農會總代、養蠶組合委員等に推さる、在郷軍人としては帝國在郷軍人會長より表彰さる、尙ほ日露戦役の功に依り勳八等瑞寶章を下賜さる、温厚篤實の士にして農作物品質の向上に多大の努力をなす、而して君は公共事業に對しては勞資を惜しむことなく率先して事に當り、村内の信望特に厚し。

阿多村 神野榮二氏

神野榮二

君は明治十三年二月十二日阿多村に生れ、同三十四年熊本輜重兵隊に入營、日露役に出征し勳八等白色桐葉章及一時金參百圓下賜さる、除隊歸村の後農事小組合長、世話人、煙草耕作組合長等に擧げられしが煙草耕作成績の優良なるが故郡より表彰されて銀盃を受く、造林、交通、産業委員、南薩鐵道相談役等に推され大正十年村會議員に當選し大正十四年再選自治のため盡力する處少なからず。

阿多村 高月東五郎氏

高月東五郎

君は明治二十年五月七日阿多村に生る、煙草耕作組合長、農事小組合長、農會總代等に擧げられ大に努力し居たるが大正十四年村會議員に當選自治の爲めに盡瘁する所少なからず、而して君は温厚にして村民の信用殊に厚し。

○阿多村



◎阿多村

中村矢四郎

阿多村 中村矢四郎氏  
君は明治八年九月十五日阿多村中津野に生る、明治三十六年村農事小組合長に擧げられて七年其の任に在り同四十年村農會代議員に推され現任せり、君は何事にも非常なる熱心家にして村農會より表彰されたる事數回、尙ほ耕地整理の如きは卒先盡力し其の効果多大にして村民喜びの的となる、大正十四年村會議員に當選、此の外産業組合理事に擧げられしが模範組合として數回表彰さる明治四十二年東京深川區に於ける米麥の品評會に出品して參等賞を受く。

宇治野 助次郎

阿多村 宇治野 助次郎氏  
君は明治十二年四月八日阿多村に生る、大正四年農事小組合長に擧げられ尙ほ區長に選ばれて現在引續き勤めつゝ在り、大正十四年村會議員に當選す村民の信望厚く篤實の士なり。

阿多村 山口 彌七氏

君は明治八年五月四日阿多村に生る、同三十二年醫術開業免狀を得て開業せしが阿多、白川各小學校醫となり日露役には陸軍參等軍醫として出征正八位に叙せられ勳六等瑞寶章を下賜さる、同四十年郡會議員に當選、同四十四年再選郡參事會員に擧げらる四十五年阿多村在郷軍人分會長となり、大正十三年之れを辭し同年一月南薩鐵道株式會社取締役役に就任同十四年村産業組合長阿多小學校後援會長に推さる、大正十四年村會議員に當選す、尙ほ君は現縣會議員として縣政に參畫しつゝあり。



古城 有吉

阿多村 古城 有吉氏  
君は明治八年一月六日阿多村に生る、明治三十八年歩兵第四十五聯隊に入營し同四十一年滿期除隊、同四十二年一月青年會長に擧げられ、全四十三年在郷軍人分會班長となり、大正六年同評議員となる其の外大正八年區長全十年農事小組合長青年會幹事、水利組合委員、村産業組合理事等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選好く村政に貢獻せり。

◎阿多村



◎阿多村

下大田 治郎助

阿多村 下大田 治郎助氏

君は明治十一年一月十日阿多村中津野に生る、明治四十三年  
煙草耕作組合長に擧げられて十四年の間之に任じ煙草耕作の  
熱心家として郡及び專賣局より數回表彰さる、其の外君は農  
會代議員、區長、阿多信用組合監事、造林委員、大田會計委  
員、中津野耕地整理委員等に擧げらる、大正十年村會議員に  
當選し大正十四年再選さる、村會議員たること三期に及び尙  
ほ瑞光寺門徒總代をもつとめる等公共事業に盡力する處尠か  
らず。

薩 摩 郡



東水

村長 濱田 豊吉氏  
助役 田上 勉助氏  
議員 井上 與右衛門氏

濱田 豊吉氏  
橋口 秀史氏

引村

二牟禮典八氏  
川畑清志氏  
田畑宗一氏  
高木正七氏  
永田清二氏

西水

村長 寺田 良秀氏  
助役 湯田 重次氏  
議員 八丸 伊勢吉氏

西園 森吉氏

引村

外國宇左衛門氏  
田上 禎助氏  
中岡 宇市氏  
中村 清近氏

高城

村長 野村 高實氏  
助役 野間口 犬之助氏  
議員 橋口 良助氏

橋口 吉次郎氏  
戸島 助次郎氏  
小川 孝藏氏  
川畑 公明氏

村

上門 清充氏  
上川 畑庄吉氏  
上村 良之助氏  
上小 鶴正巳氏  
四俣 甚太郎氏  
武田 成美氏  
武田 彦右衛門氏

山元 鶴三氏

山本 精一氏  
山下 文武氏  
木原 金之助氏  
桐原 榮二氏

桐原 十次郎氏

三角 嘉次郎氏  
臺末 吉氏  
瀬戸山 庄太郎氏

山之内 友衛氏  
上妻 理孝氏  
小平 新助氏  
寺田 良秀氏

下山 小次郎氏  
平原 卯市氏

中村 英吉氏

内山 嘉次郎氏  
久保 甚吉氏  
屋久 直人氏  
山田 慶次氏  
山本 末治氏  
松下 直太郎氏

藤 峯 武助氏

御幸 嘉次郎氏  
佐多 直市氏  
宮田 庄太郎氏  
執印 貞衛氏

◎薩摩郡



高江

村

村長 兒玉甚五郎氏  
助役 兒玉三次氏  
議員 家村壯之丞氏  
二ノ宮市助氏

川畑郷右衛門氏  
中川孝右衛門氏  
中村與一郎氏  
中村孝吉氏

内山清之進氏  
山崎良右衛門氏  
有馬慶之助氏

澁谷重雄氏  
末吉半右衛門氏

隈之

城村

村長 折田勇吉氏  
助役 森弘毅氏  
議員 飯田毅氏

折田靜氏  
小山田太七氏  
川原知賀夫氏  
米盛武次郎氏

永田助次郎氏  
上野博正氏  
松本德之助氏  
福永佐太郎氏

有馬敬助氏  
木原武秀氏  
峯元幸次郎氏  
飛田正氏

岩月直彦氏  
稻留半左衛門氏  
濱田時中氏  
堂元平七氏

國田重義氏  
曾木幸輔氏  
永田佐一郎氏

福山文矢氏  
藤原昌之助氏  
有村半助氏

滿永清太郎氏  
森川八之進氏

平佐

村

村長 小原助市氏  
助役 松下清之進氏  
議員 犬馬場百治氏  
井上宗次郎氏  
原田四郎左衛門氏

寶滿嘉藏氏  
堂込平次郎氏  
茶園清市氏  
落合豊吉氏  
小山田卯左衛門氏

川野滿二氏  
神崎藤藏氏  
吉松八郎氏  
久保田伊助氏  
松元吉次氏

瀨上源次郎氏  
有馬仁之助氏  
下脇藤次郎氏  
餅原孝之助氏  
陶山次郎吉氏

永利

村

村長 福永佐次郎氏  
助役 愛甲英之助氏  
議員 今吉仙次郎氏

今村吉藏氏  
若松朝吉氏  
吉永喜次郎氏

永吉紋次郎氏  
福永正夫氏  
福山善五郎氏

木場七之助氏  
宮浦早一氏  
尖野慶之助氏

樋脇

村

村長 松元直市氏  
助役 山下開吉氏  
議員 岩下仙之丞氏  
濱田新太郎氏  
茶園早助氏  
大田太次郎氏

河野退近氏  
上永田仁助氏  
上水口國武氏  
田原仁平次氏  
高原俊夫氏  
内田泰藏氏

山田直四郎氏  
丸山朋助氏  
寺田正吉氏  
有馬清一郎氏  
木下熊吉氏  
菊地孫七氏

三浦等氏  
瀬戸山四右衛門氏

入來

村

村長 宮里榮氏  
助役 今村伊藤次氏  
議員 今藤林之助氏  
池田盛光氏  
若松嘉兵衛氏

川添傳次郎氏  
田中休五郎氏  
中島德次郎氏  
浦橋佐一郎氏  
上野源吾氏

野入喜左衛門氏  
山下武道氏  
眞高小一郎氏  
松井吉之丞氏  
福島德之助氏

紺屋契助氏  
紺屋有右衛門氏  
鮫島政助氏  
宮里榮氏  
重永敬治氏



下東郷

村長 田代十太郎氏  
助役 鳥越巖氏  
議員 石野田彦市氏  
別府嘉右衛門氏

上東郷

村長 緒方惟一氏  
助役 本渡甚兵衛氏  
議員 原袈裟助氏  
道宮仙五郎氏  
知敷兼一氏

下東郷

脇田初右衛門氏  
鎌田仁志氏  
田中庄次郎氏  
上堀慶藏氏

上東郷

海江田盛孝氏  
笠間幸二氏  
書川嘉三太氏  
神門袈裟七氏  
武鐵次氏

批杷布助氏

草留嘉三郎氏  
福山清氏  
後藤正次郎氏  
有西小次郎氏

中村清四郎氏  
村尾重信氏  
上原小次郎氏  
山之内喜一郎氏  
山元源之助氏

古川金之助氏  
深川清一郎氏  
小鷹周八氏  
有川情助氏  
辨彌吉氏

山崎

村長 肝付兼柔氏  
助役 長野勝次氏  
議員 寶滿十助氏  
折小野太平次氏  
川畑森助氏

山崎

上村喜平次氏  
長福善右衛門氏  
宇都十助氏  
宇都宮十次郎氏  
上原正兵衛氏

久留清次氏  
現王園直吉氏  
鮫島孝彦氏  
北野伸太郎氏  
肝付榮氏

新留善助氏  
肥後安千代氏  
森山喜代助氏  
諏訪市之助氏

宮之城

町長 山内清一郎氏  
助役 土持綱吉氏  
議員 新納忠時氏  
西之原勇太郎氏  
東條次郎右衛門氏  
時吉寅吉氏  
中間清左衛門氏

宮之城

假屋榮治氏  
中村吉太郎氏  
久保田源七氏  
楠山吉之進氏  
山下猪之助氏  
松田清次氏  
松崎清吉氏

小西十五郎氏  
是枝榮吉氏  
小牧伊勢吉氏  
江藤源七氏  
有村憲二氏  
湯田彌助氏  
南原萬助氏

東宗助氏  
平田宗徳氏  
關太郎右衛門氏

佐志

村長 林吉之助氏  
助役 久保知之氏  
議員 池之上正之助氏  
田原八左衛門氏

佐志

田島與兵衛氏  
永井實親氏  
宇都喜左衛門氏  
久保泰之丞氏

栗屋野四右衛門氏  
矢野袈裟市氏  
松坂善之丞氏  
小西幸長氏

宮之原令宜氏  
宮尾武氏

鶴田

村長 若松治麿氏  
助役 井上保氏  
議員 市來政徳氏  
岩崎俊氏

鶴田

西川平吉氏  
西田喜一氏  
西之園傳氏  
岡村納吉氏

川口辰次氏  
谷山泰馬氏  
中王子辰右衛門氏  
上園喜兵衛氏

栗野政次郎氏  
久留須長右衛門氏  
福田源内氏  
朝隈豊氏



○薩摩郡  
湯田 忠彦氏

求名

下大迫 伊之助氏

末松金四郎氏

村長 山内喜左衛門氏  
助役 樂川彦一氏  
議員 生駒竹二氏  
半崎彌兵衛氏  
羽有孝右衛門氏

永野

村

村長 佐野太平次氏  
助役 原口慶之助氏  
議員 岩下清志氏  
原口慶之助氏

黒木

村

村長 村原孫七氏  
助役 福永東一氏  
議員 羽島小之丞氏  
大迫兼英氏

加藤一清氏  
竹下清太郎氏  
村原孫七氏  
山川哲士氏

曲藏右衛門氏  
松元廣二氏  
牧田良右衛門氏  
澁谷仲一氏

平松矢之助氏  
元山仲一氏

東郷直衛氏  
領家藤内氏  
脇家榮國氏  
川内嘉内氏  
上園清次氏

神田橋榮吉氏  
吉國榮之丞氏  
父口平三氏  
上野愛次郎氏  
政岡詣次氏

福山 尉氏  
出石孫太夫氏  
下境田仁右衛門氏  
日高直治氏  
持重福之進氏

大村

村長 宮里正治氏  
助役 有馬秀光氏  
議員 春田源之丞氏  
別府萬次郎氏  
轟木喜八氏

千應源助氏  
米盛寅助氏  
高橋四郎太氏  
田島喜右衛門氏  
段次郎氏

中尾東陽氏  
中村孫兵衛氏  
山元孝之丞氏  
豆ヶ野八十八氏  
有馬質氏

齊藤源次氏  
才口與助氏  
湯丸百太郎氏  
久永靜吾氏  
盛山孝之進氏

藺牟田

村

村長 稅所直俊氏  
助役 平原信夫氏  
議員 西村速夫氏  
押領司 忠氏

押領司 矢之助氏  
門脇辰次氏  
金丸厚見氏  
内山茂氏

桑波田堅助氏  
山元直助氏  
小島敬介氏  
坂元哲氏

相良直也氏  
湯之上藏之助氏

里村

村長 大山岩城氏  
助役 溝上忠守氏  
議員 石原清九郎氏  
早瀬孝太氏

橋口滿夫氏  
川添長四郎氏  
梶原景中氏  
村岡真吉氏

野島儀三氏  
鷺山六郎氏  
北園作助氏  
溝上守忠氏

植田忠志氏  
植田人志氏

上飯

村

村長 植田東一氏  
助役 小宮東氏  
議員 石原吉藏氏

西 仙之助氏

○薩摩郡



中間伊三郎氏  
中間常喜氏  
和田小一郎氏  
上村菊太郎氏

下 飯 村

神山彦次氏  
中尾庄吉氏  
中尾莊氏  
成尾佐市氏

柳太郎吉氏  
小段與右衛門氏  
小村惣八氏  
小宮東氏

有谷富助氏  
木原米藏氏  
宮下庄七郎氏  
東榮三氏

村長 江夏實英氏  
助役 橋口精熊氏  
議員 原喜代治氏  
濱崎傳五郎氏  
橋口加運多氏  
西橋 梶配氏  
大毛甚助氏

吉永五郎氏  
吉永秀一氏  
中川早太氏  
中川喜芳氏  
中村源九郎氏  
中村傳之丞氏  
中町彌成氏

中道太平次氏  
町三百助氏  
町弘志氏  
小林紘衛氏  
小倉俊一氏  
小倉神藏氏  
江口正照氏

江口行彦氏  
宮野藤次郎氏  
宮野庄之十氏  
下野作助氏  
東六十氏

濱田豊吉

東水引村長 濱田豊吉氏

君は文久二年八月十五日同村に生る、巡査、執達吏として永年を勤績し、辭して後大正十四年八月同村長に擧げられて現任せるがまた村會議員として一意村政の刷新を計りつゝあり。

田上恕助

東水引村助役 田上恕助氏

君は明治四年三月八日同村に生る、村役場書記たりし事久しく大正十二年八月十三日同村助役に擧げられ現任しました村會議員として村政に努めつゝあり。



◎東水引村

井上與右衛門

東水引村 井上與右衛門氏  
君は明治九年九月東水引村に生る、明治二十八年本縣巡査を拜命し大口警察署勤務を命ぜられ全二十九年詳して熊本野戰砲兵隊へ入隊し二等軍曹に進み滿期除隊、全三十七年動員下令に際し第十四師團に編入せられて日露戰役に出征し第三軍に從い大いに奮戦せり戰功に依り瑞寶章一時金七拾圓を下賜せらる、全三十二年東水引村役場書記となり勤むること三年にして詳し滿鐵社員として彼の地に勤めしが辭職歸郷の後、村會議員に當選すること四回議員中最も有力の人なり。

東水引村 山元鶴三氏

君は明治十二年十一月東水引村に生る、資性温厚にして徳望あり、大正元年より饒耐醸造業を創めその品質の優良なるため賣行良好年々増石をなしつゝあり、大正十四年村會議員に當選せり。

東水引村 山本精一氏

君は明治二十一年裁判所書記拜命水引區裁判所勤務を命ぜられ全四十一年從八位に叙せらる、大正元年村會議員に當選し學務委員として今日に及ぶ、大正四年より郡制廢止まで郡會議員として郡政に參書し全十年東水引村長に擧げられ十四年辭任せり學校建設道路改修等村政に盡瘁し縣より表彰されたり。

東水引村 三角嘉次郎氏

君は明治十年八月東水引村に生る、農事小組合長、薩摩郡蠶種同業組合評議員、鹿兒島縣蠶種株式會社取締役等に任じ、大正五年村會議員に當選以來引きつづき今日に至る、君は又た實業家として名をなせり。

◎東水引村



○東水引村

瀬戸山 庄太郎

東水引村 瀬戸山 庄太郎氏  
君は明治九年八月十六日東水引村下目川路利右衛門氏の六男に生れしが明治三十一年瀬戸山家を相続す、農事に勵み家運の隆昌を計り今日を築き上げたり、大正十年報効農事小組合長に擧げられ、全年村會議員に當選し十四年再選され保愛組合副組長たり、長男功一君は川内中學出身にして目下東京電氣學校在學中。

寺田 良秀

西水引村長 寺田 良秀氏

君は明治八年五月五日西水引村に生る、村會議員として現任せるがさきに全村助役に擧げられ大正九年十一月同村々長に當選し二期を通して村治に努めつゝあり。

湯田 重次

西水引村助役 湯田 重次氏

君は明治十七年八月十五日同村に生る、温厚にして村民の信望厚し大正十四年四月同村助役に推薦せらる。

○西水引村



◎西水引村

八丸伊勢吉

君は明治五年十一月五日西水引村に生る、幼少の頃より父祖に従ひて農事に勵み、報効農事小組合長、區長、國勢調査委員に擧げられ耕地整理副組合長として現任し、大正二年以來村會議員として引續き今日に至る村政に盡す處勤ならず。

西水引村 八丸伊勢吉氏

西水引村 田之上禎助氏

君は明治十七年七月西水引村に生る、三十七年佐世保海兵團に入團し全四十四年滿期飯郷す、小學校教員たる事四ヶ年村青年會長、草道耕地整理委員、産業組合長、村聯合消防組々頭等に擧げらる、大正十年村會議員に當選し全十四年再選せり。

西水引村 田之上禎助氏

中間字一

西水引村 中間字市氏

君は明治十二年八月西水引村に生る、小學校卒業後は郷里を出で海員となり支那近海を航海し三ヶ年にして飯郷す、世話役、報効農事小組合長、衛生代議員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選せり。

西水引村 上妻理孝氏

君は明治十一年十一月西水引村に生る、氣宇宏量夙くより鋒鏘を表はし郡會議員に擧げられ參事會員たりし事あり、大正二年より村會議員として連續當選し、耕地整理委員長、村農會總代、學務委員等に現任し村政刷新に努めつゝあり。

◎西水引村



◎西水引村

小平新助

君は明治五年二月西水引村に生る、父祖の業を継ぎて農事に  
勵み家運の隆昌を計りたり、二十歳頃より村内の各協議に加  
はりて意見を述べ大に用ゐらる、後世話役となり部落に盡す  
所あり、大正十四年村會議員に當選せり。

西水引村 小平新助氏

下山小次郎

君は明治十年十二月西水引村に生る、小學校卒業後は農事に  
勵み、全四十三年區長に擧げられ多年其の任に在りて部落に  
盡し後衛生部長、耕地整理委員、産業組合理事、國勢調査委  
員等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

西水引村 下山小次郎氏



西水引村 平原宇市氏

君は慶應三年一月十六日西水引村に生る、報効農事小組合長  
區長に擧げらる、事數回、造林業に意を用ひ林業家として知  
られ知事より表彰されし事あり、耕地整理組合評議員、衛生  
組合長等に擧げられ村會議員たる事今期を以て二回に及ぶ、  
君の長男龍藏君は縣立鹿屋農學校出身にして縣立農事試験  
場、西水引村技手たりしが目下貯蓄銀行川内支店に勤務中な  
りと。

◎西水引村



○高城村

野村高實

高城村長 野村高實氏  
君は慶應元年八月二十四日同村に生る、温厚にして明敏村民の信望厚し曩きに助役に擧げられしが大正五年四月村長に當選爾來引續き現任し村治に貢献せる所尠なからず。

高城村助役 野間口丈之助氏

君は明治四年九月二十四日高城村に生れ、本縣巡査、全村役場書記、區長、村會議員等を経て大正十二年十二月同村助役に推薦せらる。

野間口丈之助

高城村 橋口良助氏

君は明治十四年四月高城村に生る、小學校訓導として教職に従事せし事あり、其後村吏員となりて全村西方信用組合設立に盡力し設立後常務理事組合長となり、大正十四年村會議員に當選、村自治の爲め及び其他の事業に盡力し居れり。

橋口良助

高城村 戸島助次郎氏

君は明治三年四月高城村に生る、明治四十年耕地整理委員長に推さる、前後五回に及び村會議員に當選して現任村治に盡しつゝあり。

戸島助次郎

○高城村



○高城村

山門清充

高城村 山門清充氏  
君は明治二年十二月西水引村に生る、幼少の頃より家業に努めしが今期にて二期村會議員に當選し現在村治に努力し居れり、君は温厚にして村民の尊敬する事一方ならず。

高城村 上川畑庄吉氏

君は明治元年八月高城村に生る、全地郵便局長として在職する事實に十九年の久しきに及び勳八等を下賜さる、村會議員に擧げらる、事前後四回に及び現任せり。

上川畑庄吉



高城村 上小鶴正巳氏

君は明治十五年高城村に生る、熊本醫專第一回卒業生にして鹿兒島縣立病院に務め後軍務に服せし事あり、目下全村吉川校及び城上兩校々醫を囑託せらる、今期を以て二期村會議員に當選現在村治に努むると共に一般患者の爲め診療に従事し居れり。

四俣甚太郎

高城村 四俣甚太郎氏

君は慶應三年九月薩摩郡高城村に生る、父祖の業を繼ぎ農事に勵み尙ほ村治に意を用ひ、村會議員に擧げらる、事二回現任せり、君は温厚篤實の士にして村民の信望特に厚し。

○高城村



山田慶次

高城村 山田慶次氏  
君は明治十年九月高城村に出生、明治廿七年教導團を出て後日清日露の兩役に出征日露の役には旅順樺太の戦闘に参加し其功に依り従七位に叙せられ功五級金鶏勳章及び旭日章を賜はる、明治四十三年陸軍中尉にて退役し飯郷目下全村在郷軍人分會長たり、前後三回に亘りて村會議員に當選し現在に至り村治の爲め努力しつゝあり。



高城村 山本末治氏

君は明治廿一年高城村に生る、爾來父祖の業に屬み農事小組合長として二期其の任に在り、大正十四年四月村會議員に當選し現在村自治の發展に務むると共に家業に熱心活動し居れり。

御幸嘉次郎

高城村 御幸嘉次郎氏

君は明治十八年六月全村に生れ、兵役後本縣警察界に入りしが退職後湯田校後援會長、區有財産監理員、衛生組長、村農會議員等の任に在り、這回村會議員に當選せり、兵役中朝鮮暴徒鎮壓の功により勳八等瑞寶章を下賜せらる。

佐多直市

高城村 佐多直市氏

君は明治三年十二月薩摩郡高城村に生る、鹿兒島縣警察界に在る事二十餘年間にして後全郡役所に務むる事十一年辭して今回村會議員に當選し現在村治の向上發達を計りつゝあり。



宮田庄太郎

高城村 宮田庄太郎氏

君は明治十六年薩摩郡高城村に賑々の聲を揚ぐ、長じて全村吏員たる事七ヶ年退職後郡畜産組合支所長たり、遠回新選せられて村會議員となり熱心に村治に盡力しつゝあり。

兒玉甚五郎

高江村長 兒玉甚五郎氏

君は明治九年四月八日生る、温厚篤實にして村民の信頼厚く曩きに助役に擧げられしが大正十三年十二月同村々長に當選せり。

高江村助役 兒玉三次氏

君は明治二十一年二月一日同村に生る、本職巡査たる事久しく辭任後村農會副長に擧げられ大正十四年四月同村助役に推薦さる、斯くて村治の向上に努めつゝあり。

兒玉三次



○高江村



高江村 末吉半左衛門氏

君は明治十六年十二月二日高江村に生る、農を業として孜々  
管々怠る所なく郷黨の間にては君の勤勉を稱せざるなきに至  
る、而して君は丁年に達し姫路野砲兵聯隊に入營したるが累  
進して曹長に擢でられて後ち退營歸村せり、其後は農事の傍  
村内に於ける公共事業に盡瘁するもの多く、大正十四年村會  
議員の改選に際し多數にて當選せり

折田 勇吉

限之城村長 折田 勇吉氏

君は明治五年九月十三日生れにして、小學校教員、稅務局、  
村助役等を経て大正八年五月村長に當選二期を通して現任村  
政刷新を計ると共にグレート川内建設に奔走しつゝあり。

限之城村助役 森 弘毅氏

君は慶應三年九月同村に生る、久しく小學校教員たりしが、  
大正十二年六月同村助役に擧げられ村治の向上を計りつゝあ  
り。

森 弘毅

○限之城村



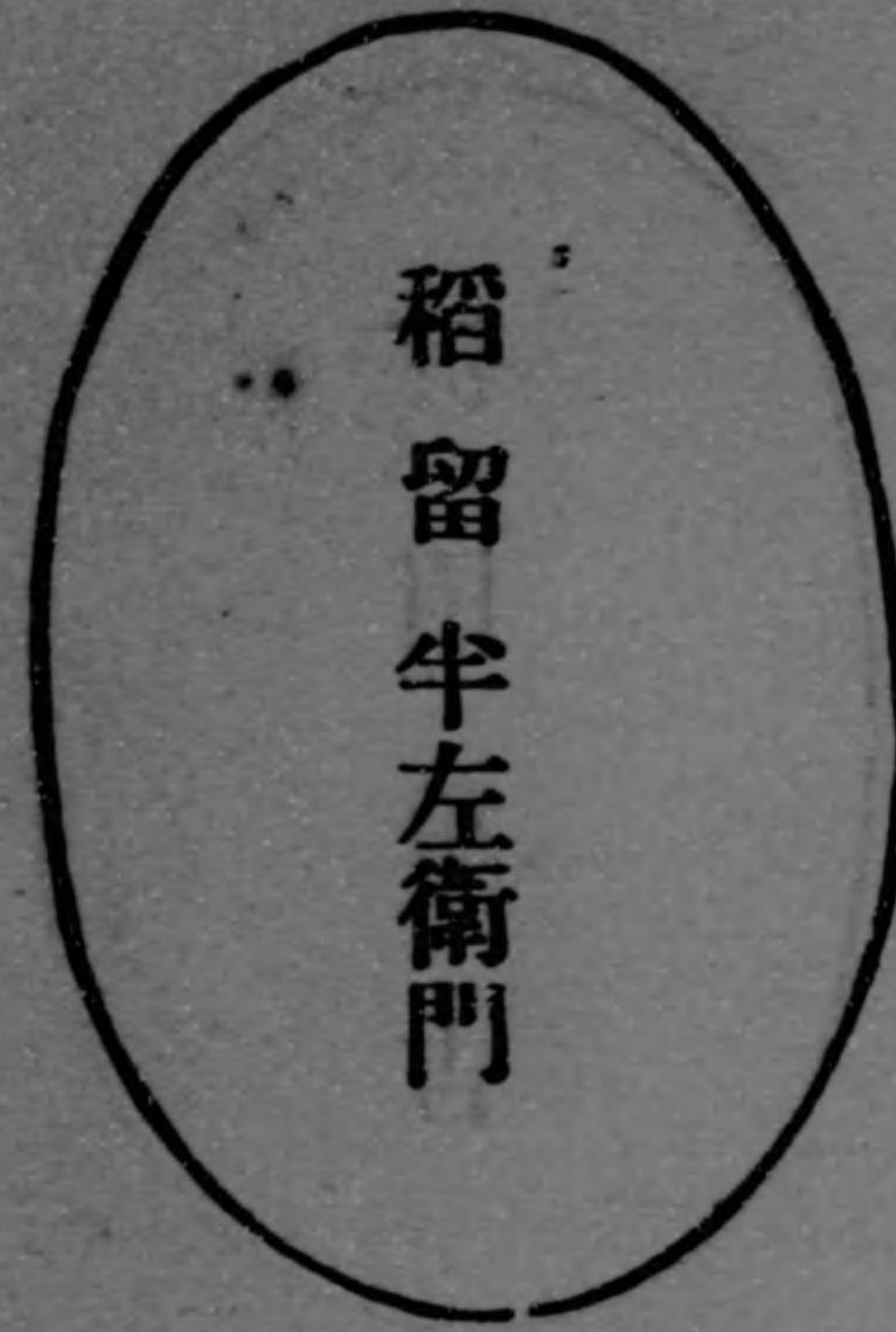
○限之城村



限之城村 飯田 毅氏

君は明治六年三月限之城村に生る。幼少の頃より軍人たらんと志し陸軍士官學校に學び卒業後二十九年歩兵少尉に任官歩兵第四十聯隊附となり、聯隊旗手を拜命、後東京幼年學校教官に任せられ歩兵大尉に進み、三十七八年戰役には歩兵第四十聯隊附として出征せしが名譽の負傷に依り退役となり飯郷す、功に依り功五級金鷲勳章及び勳五等光旭日章を下賜され正七位に叙せらる其の後村にありて區會議員に擧げられ大正六年全十年全十四年の三期村會議員に當選村治の向上、青年の指導啓發に貢獻する處尠なからず。

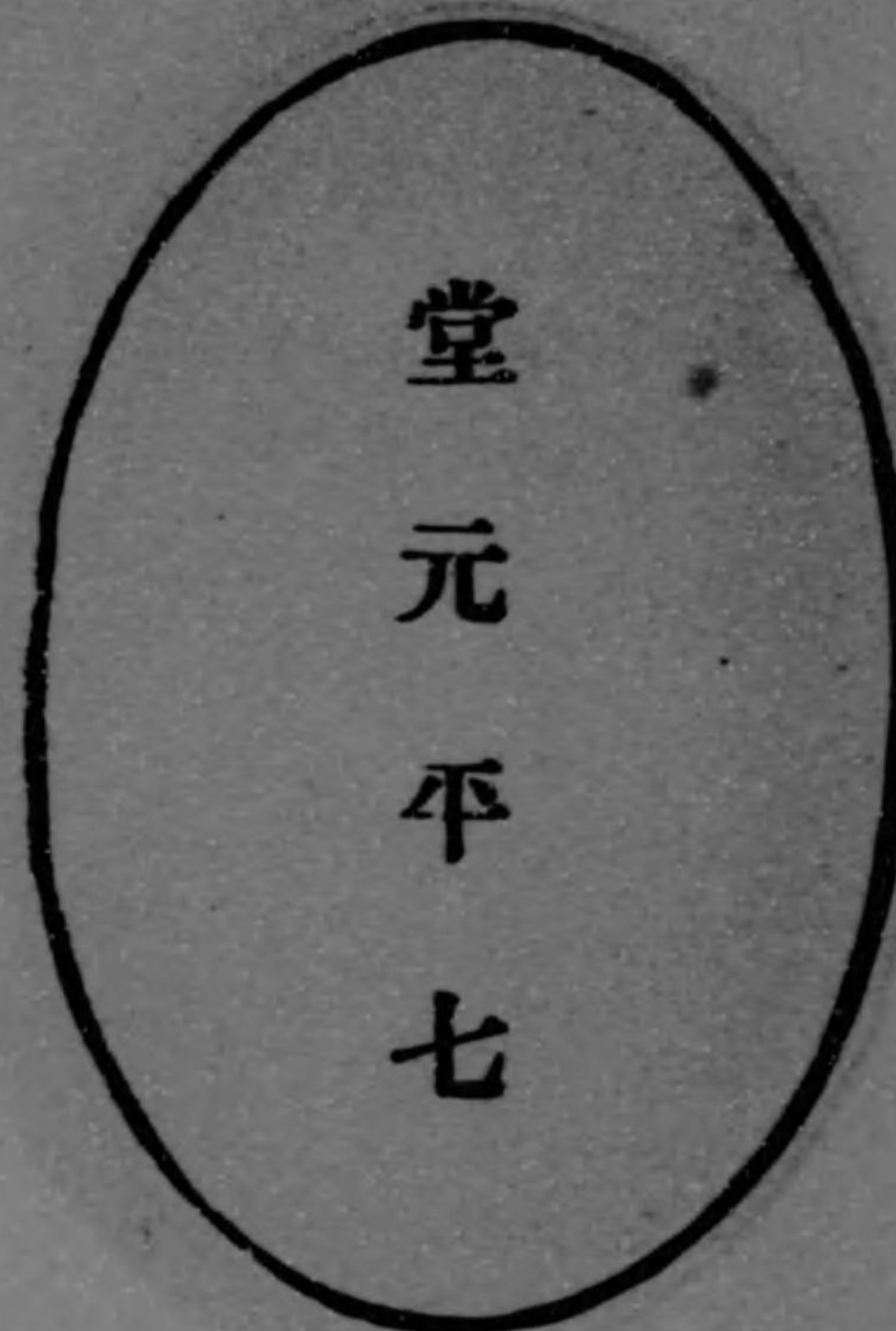
稻留半左衛門



限之城村 稻留半左衛門氏

君は明治十六年四月薩摩郡高江村に生れ、後限之城村に移住せり、明治三十五年海軍志願兵として佐世保海兵團に入團し日露の役に参加し功ありて勳八等白色桐葉章を下賜さる、歸村後在郷軍人薩摩郡海友會長、薩摩郡保安組合長、消防組頭區會議員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選せり。

堂元平七



限之城村 堂元平七氏

君は明治十年二月限之城村に生れしが全村の消防組に盡力すること十六ヶ年に及び大正九年縣知事より縣消防組名譽會員に推選せらる、其他村治に努力するもの少なからず、大正十四年村會議員に當選し自治の爲めに努力しつゝあり。

限之城村 折田 靜氏

君は明治十六年十二月限之城村に生れ、鹿兒島醫學校を卒業したるが其の二十四歳の時醫術開業の免狀を受け後東京醫科大學病院河本博士に就き眼科を研究して歸國全地に於て眼科醫院を開業し名譽の聲高く、大正十四年村會議員に當選したり。

○限之城村







限之城村 小山田太七氏

明治二十一年十一月七日限之城村に生る、温厚篤實にして放  
膽細心内外の信望特に厚く勤儉銀行支店長、川内川電気株式  
會社取締役現任し、村會議員たる事久しく、グレート川内  
建設の主唱者の一人にしてその卓越せる誠見遠大なる抱負は  
刮目して待つべきものとあり。

限之城村 米盛武次郎氏



君は元治元年八月限之城村に生る、父祖に従ひて専心農業に  
勵み刻苦今日を築きたり、村農會總代縣有林監視人に擧げら  
る、大正六年全十年、全十四年の三期村會議員に當選せり、  
因に令息武次氏は現青年會長にして勤勉の人として知られ來  
の範たり、大正八年には明治神宮造營奉仕者として薩摩郡よ  
り選出されたり。

限之城村 園田重義氏

君は明治八年八月限之城村に生る、資性温厚にして英明果斷  
の人、故に村民の信頼する處不尠、限之城村助役として村治  
に盡せし事、十二年、區會議員に擧げられ現に村會議員なり  
養蠶に熱心にして目下蠶種製造に従事せり。

限之城村 曾木幸輔氏

君は限之城村に生る一年志願兵よりして大尉に昇進したる第  
一人者にして薩摩郡西部十四ヶ村在郷軍人聯合分會副會長に  
して薩摩郡畜産組合副組長たり、大正二年より四期連続村會  
議員に當選し村治の啓發に多大の功績を擧ぐ

曾木幸輔





○隈之城村

永田佐一郎

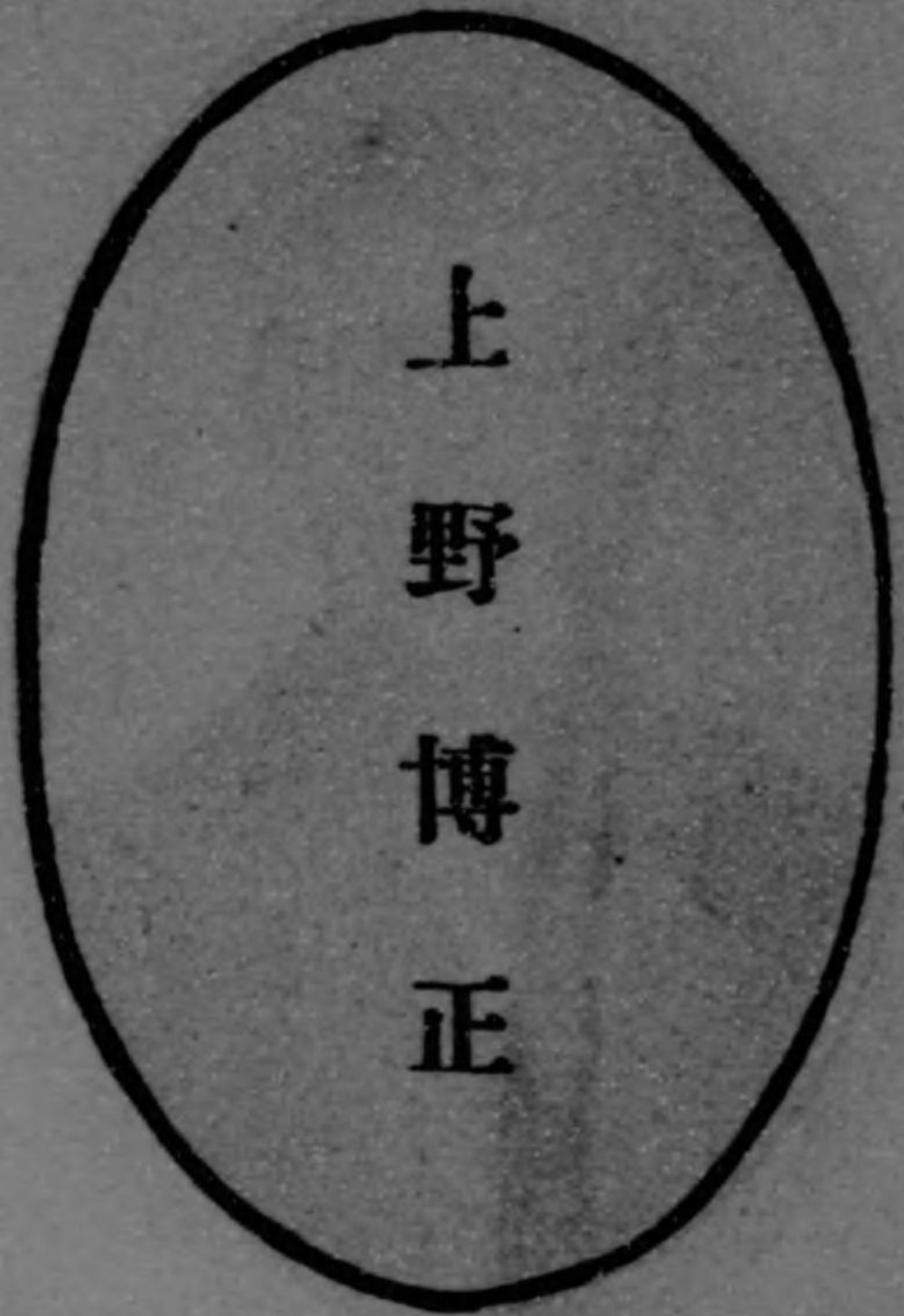


隈之城村 永田佐一郎氏  
君は明治十四年五月五日隈之城村に生る、父新造氏の代より養蠶を營み斯道の研究に餘念なし、大正六年區會議員に擧げられ、全十四年村會議員に擧げらる、長男多一氏は慶應大學經濟科在學中、長女スミ子嬢は奈良高師を卒業京城高等普通學校教諭たり。

隈之城村 永田助次郎氏

君は明治九年七月隈之城村に生る、代々農業を營み君も亦家業に精勵し、宮之里區會議員、報効農事小組合長、村農會總代、衛生組合長、耕地整理組合評議員等に擧げられしが、大正十四年村會議員に當選せり。

上野博正



隈之城村 上野博正氏  
君は明治十五年六月隈之城村に生る、中學校卒業後東京高等商業學校に入學し在學中病氣の爲め中途退學歸郷し明治四十三年川内川電氣株式會社を創立し支配人となり取締役を兼任し現在に至る、目下串木野製氷會社大平運輸會社等の取締役たり、大正十四年村會議員に當選したり。

隈之城村 福山文矢氏

明治十六年六月二十五日隈之城村に生る、小學校卒業後は農業に勵み傍ら川内川電氣株式會社の集金員をなし居たるが、大正十年村會議員に當選し大正十四年再選され、川内小學校後援會委員たり。

○隈之城村





有村半助



君は明治十一年二月十日限之城村に生る、三十五年東京警視廳巡查を拜命し在職十五ヶ年、大正五年辞して歸郷、國勢調査員、報効農事小組合長、衛生代議員に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。長男勳氏は京城醫學專門學校在學中なりと。

限之城村 有村半助氏

限之城村 有馬敬助氏

君は慶應二年十月五日限之城村に生る。明治十二年田島捨藏氏に就きて漢學を學び、全十三年城ノド外三小學校に教員となり、全十九年詳して全二十年鹿兒島縣巡查を拜命、限之城、出水の各警察署に勤務し全二十八年退職す、全三十年廣摩郡役所雇となり、三十一年郡書記となる、全三十九年露の役に功により金六十圓を下賜され、大正五年正八位に叙せられ、勳八等瑞寶章を下賜せらる、全十年一月從七位に叙せらる、郡役所に在勤すること實に二十一ヶ年にして大正十二年辭す、全十四年村會議員に當選し、出納検査員、戸數割調査員に選ばる。



君は高城村麥浦に生れ、幼より實業に志し十二歳にて既に材木商を營み續いて開屋を開業す、尙君は明治二十三年來令弟孝藏氏と共に川内町に峯元鑄工場を設立し目下斯業界の權威者たり、君は幼にして剛能く人を制し機を見るに敏して義侠的精神と君の持つ斯業の才能はすでに完璧の域に達し居たり君の先祖は代々島津公の御用商人を勤めたり、君は公共事業に能く盡し村道の改修に川内川の橋梁工事に中學校社寺の建築等他に顧みず卒先して其業に當り勞資を惜まざるはよく人の知る處齡既に六十餘才なるも壯者を凌の概あり、君は村會議員たる事久しく自治に盡せし事多からず、尙ほ令息は中央大學經濟科を卒業後父の業を繼ぎ實業に身を投じ自家にありて努力し居れり「此父ありて此子あり」令息又前途有望の人なり

限之城村 峯元幸次郎氏

限之城村 滿永清太郎氏

君は明治八年七月限之城村に生れ、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に屬みしが、後村附屬員となり大正六年村會議員に當選し爾來今日迄引續當選し村治に盡しつゝあり。



○隈之城村

森 八之進

隈之城村 森 八之進氏  
君は明治三年二月隈之城村に生る、小學校卒業後は父祖の業を継ぎて農事に勵み報効農事小組合長、衛生組長、區會議員に擧げられ村會議員に選舉されたる事大正十四年を以て二回に及び戸數割標準査定委員たり、君は嘗つて農作物品評會に於ても入賞したる事ありて農事改良には特に熱心なり。

小原 助市

平佐村長 小原 助市氏  
君は明治五年十一月二十三日平佐村に生る、郡書記として多年勤続したるが、大正十四年四月同村々長に當選し、村治の向上に他意なく努めつゝあり。

平佐村助役 松下清之進氏

君は明治五年十二月二十九日平佐村に生る、温厚にして謹嚴村民の信頼厚く大正十四年六月同村助役に推薦され、村治に盡しつゝあり。

松下 精之進

○平佐村



◎平佐村

犬馬場百治



平佐村 犬馬場百治氏  
君は明治十二年六月十日平佐村に生る、小學校を卒へて後は専ら實業に就き屬精怠らず、衛生組長其他公共の事業にたつさわるもの多く何れもよく其の任を果せるが大正十四年村會議員に當選し村政の發展に對して多大の努力を拂ひつゝ、あり尙ほ君は家にありては焼酎釀造及び販賣業をなし居れり。

平佐村 井上宗次郎氏

君は明治九年十二月十三日を以て薩摩郡平佐村に生る、小學校を卒へてのちは専ら農事に精勵し區長、青年會長、衛生部長等其他公共事業に對しては大概君の手に待つ所多く、而してよく其の任を果せり、大正十四年村會議員に當選す、君は自治の爲めに一廉の抱負を有し其の向上發展に努力しつゝあり。

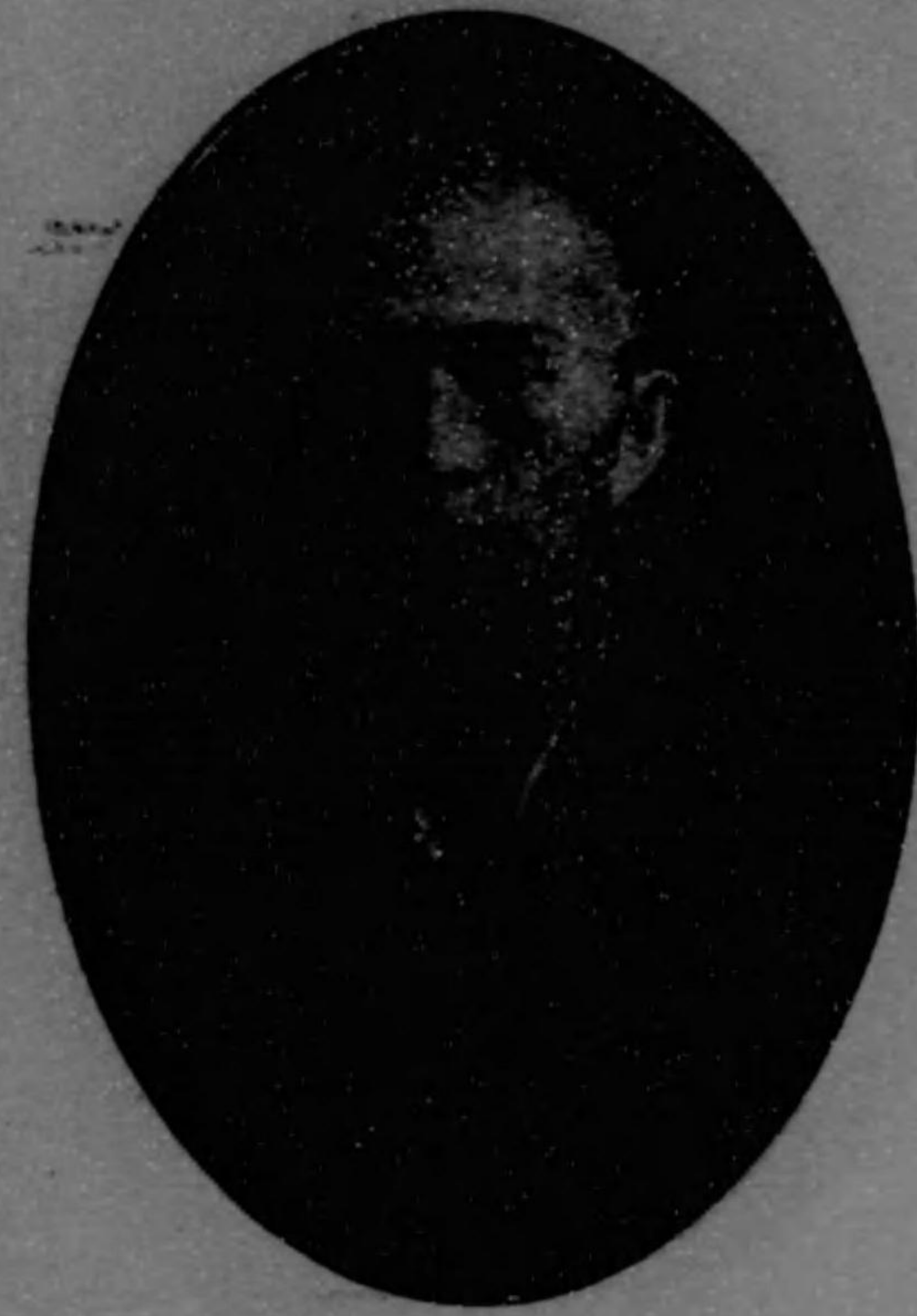


平佐村 寶滿嘉藏氏

君は明治二十年三月二日を以て平佐村に生る、小學校卒業の後は専ら農業に従事し居たるが、長して青年會長に擧げられ、區長に推され其他農會議員、衛生組長、世話人等に任してよく其の任を全ふす、大正十四年村會議員に當選、自治の爲めに多大の貢獻をなしつゝあり。

平佐村 堂込平次郎氏

君は明治十九年十月二十五日を以て平佐村に生る、小學校を卒へてのちは専ら父祖の業をつぎて農事に屬精せり、而して青年會長、農會議員、區長等の任に當りてよく其の責務を果す、大正十四年村會議員の改選に當り多數にて當選、自治の爲め努力しつゝあり。



◎平佐村



◎平佐村

落合豊吉

君は明治六年六月九日平佐村に生る、小學校を卒業して農事に勵み居たるが幾何ならず管林署に奉職致々として其の職務に屬精したれば其の功績の見る可きもの多く良吏として遇せられしも最年辭任歸村せり、大正十四年村會議員の改選に際し多數を以て當選したり。

平佐村 落合豊吉氏



平佐村 小山田卯右衛門氏

君は明治四年正月廿八日平佐村に生る、肥料販賣及び製材業を管み居れるが夙に村内に重きをなし各方面に對し奉仕するもの少なからず而して又た能く其任務を遂行せるが故に村民の信頼殊に厚し、大正十四年村會議員の改選に際し眞望の歸する所多數を以て當選自治の爲めに貢獻し居れり。

平佐村 久保田伊助氏

君は明治三年七月朔日を以て薩摩郡平佐村に生る、曾つて警察界に入りて其の任にあるもの多年、辭任歸村の後は農事に屬精し、而して公共事業の爲め身心を賭して之に當り能く其の任を完ふす、大正十四年村會議員に當選し村政の發展改善に向つて大に奮戦し居れり。

平佐村 杉元吉次氏

久保田伊助



◎平佐村

君は明治元年正月二十九日を以て薩摩郡平佐村に生る、曩時警察界に入りてよく其の職務を遂行せしが辭任歸村の後は専ら父祖の業を受けて之に屬精したるに依り一般に於ては大に君を信頼するに至る、大正十四年村會議員の改選に際し多數にて當選す、尤も議員としては屢次に任して自治の向上發展に努力するもの少なからず。



福永佐次郎

永利村長 福永佐次郎氏  
君は明治十一年五月二十日同村に至る、性温厚篤實英敏にして衆望あり、大正十四年五月同村々長に擧げられ村政刷新を計りつゝあり。尙ほ全年村會議員に當選せり。

永利村助役 愛甲英之助氏

君は明治三年九月十日同村に生る、同村收入役稅務屬、逓査村役場書記を経て大正九年三月同村助役に擧げられて再任し大正十四年二月村會議員に再選さる。

愛甲英之助



永利村 若松朝吉氏

君は明治廿三年八月十七日矢之助氏の長男に生る。小學校卒業後鹿屋農學校に入り、明治四十三年同校卒業同年鹿兒島農事試験場に入り大正元年辭し、大正二年村農會書記小組長榎草耕作組合惣代等に擧げられて現任し、大正五年以來區常設委員に擧げられ、大正十四年産業組合監事となる、大正十一年八月村會議員に當選し引き續き今日に至れり、尙ほ君は農作物の品質向上、造林等に盡力する處尠からず。

永利村 吉永喜次郎氏

君は明治元年十二月二十日永利村山田に生る、明治四十年より同四十一年迄、大正三年より翌四年迄の貳回耕地整理委員に擧げられ、明治四十年以來現在に至り區常設委員を勤め大正七年以來産業組合評議員、永樂寺門徒惣代村統一委員となり造林業には特に盡力せり、大正二年村會議員に當選し大正十一年再選以來引きつづき當選せり、君は家貧にして下男奉公せしがよく勵みて現在を築きたる立志傳中の人なり、君の長男は鹿兒島實業學校、二男も又川内中學校在學中なり。

吉永喜次郎

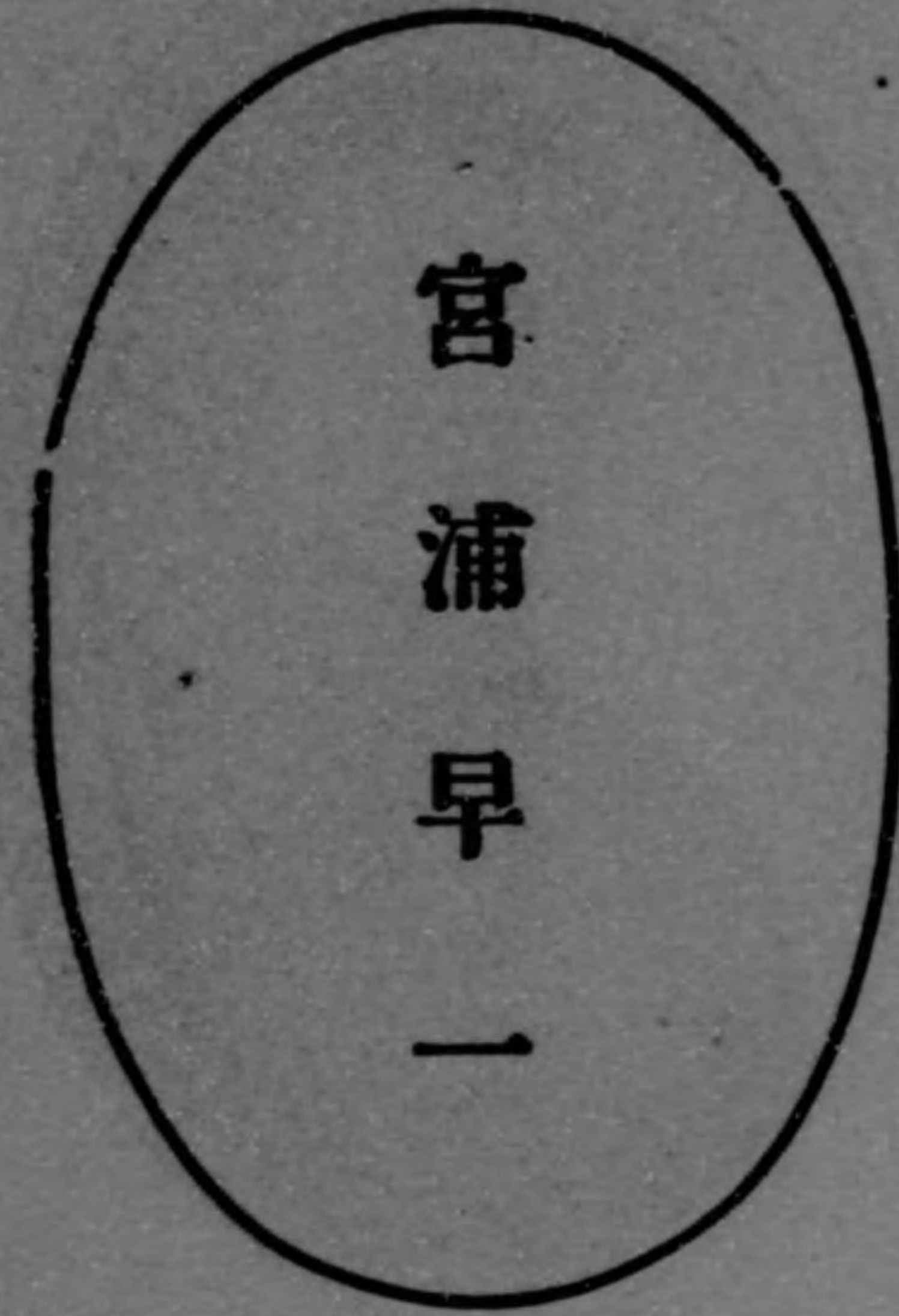




永利村 福永正夫氏

君は明治二十三年五月十七日佐市氏の長男に生る、小學校卒業後川内中學校に入り明治四十一年同校卒業、年十八歳にして北米に渡り米國商業學校を卒業後シャートルにて三年間商業に従事しグライグウト食品外諸式の販賣業に従事せしが大正九年末歸郷し大正十一年以來區常設委員、原野統一委員たり、大正十一年村會議員に當選す、舎弟正義氏は醫學卒業後目下川内にて醫院開業中なり。

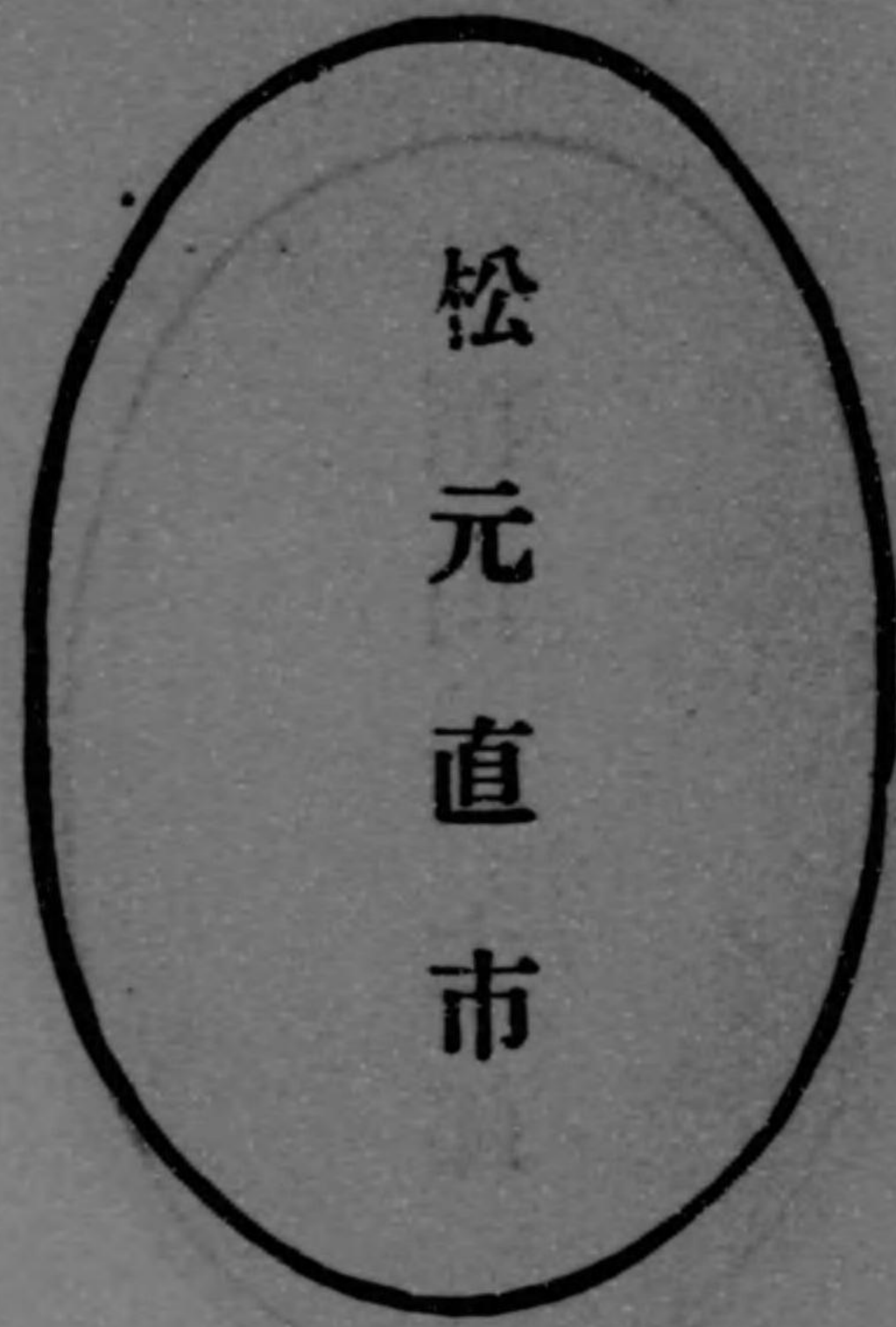
宮浦早一



永利村 宮浦早一氏

君は明治二十年十月二日永利村石神に生る、明治四十三年以來區常設委員、大正三年より大正十一年迄村農事小組合長として農作物の改良向上を計りて優勝旗を授けられし事あり、大正十四年以來産業組合理事、永樂寺門徒總代、村統一委員等に任し農業方面には特に功勞者なり、農作物品評會に於て郡二等賞を受くる事四回、大正十一年村會議員に當選し好く村政に貢獻せり。

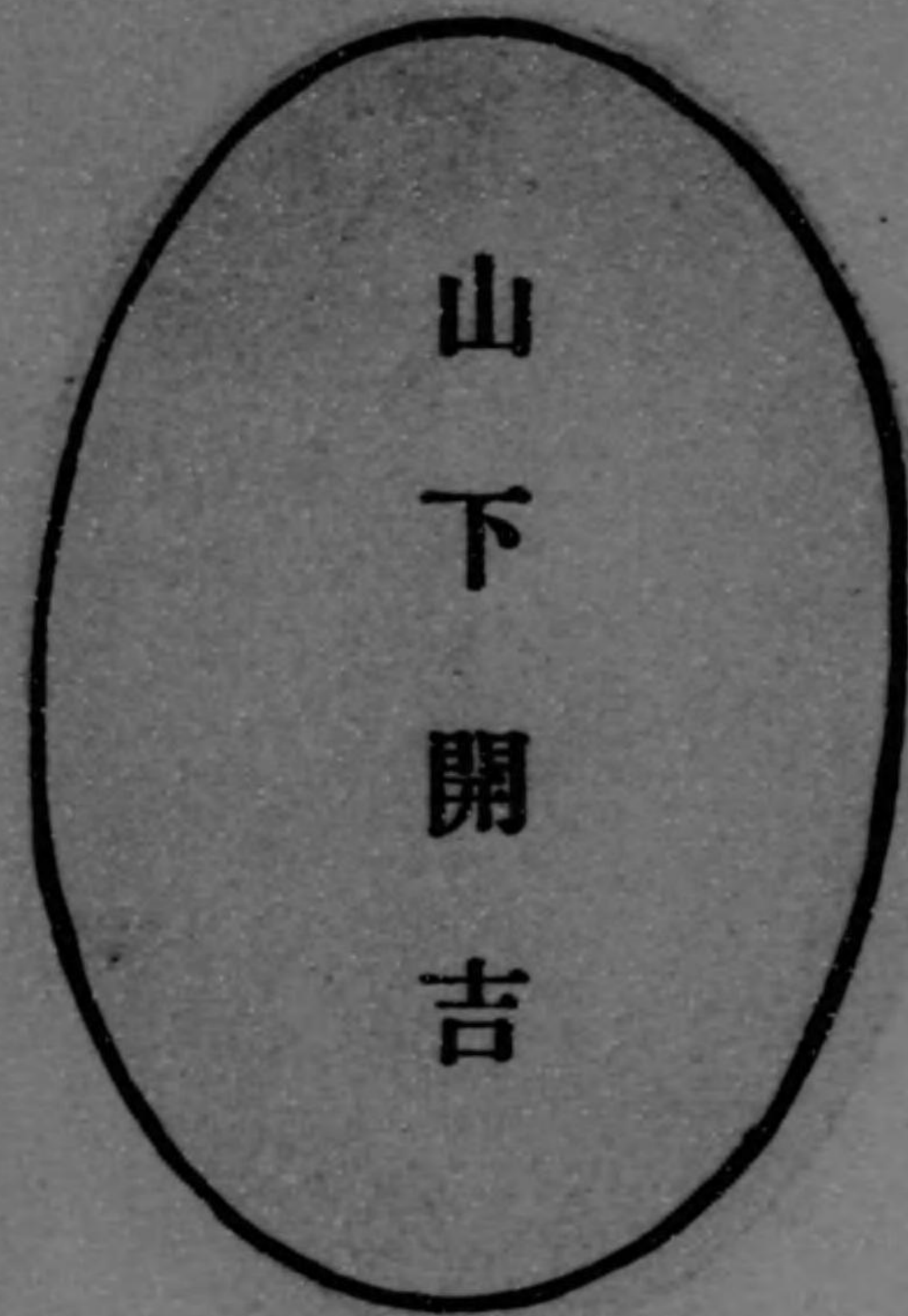
松元直市



彌脇村長 松元直市氏

君は明治四年七月十四日彌脇村に生る、小學校教員、學務委員收入役に歴任し大正十年十一月同村々長に擧げられ二期を通じて現任し村治に盡しつゝあり。

山下開吉



彌脇村助役 山下開吉氏

君は明治七年六月二十二日彌脇村に生る、小學校々長、郡會議員、全參事會員、學務委員等に歴任し大正十一年四月同村助役に擧げられ村治向上に努めつゝあり。





種脇村 岩下仙之丞氏

君は明治三年五月一日種脇村市比野に生る、全二十一年尋常  
小學授業生となり市比野小學校に教鞭を執り全二十三年熊本  
歩兵第二十三聯隊に入營し、全二十六年品行方正にして他の  
範たりしを以て善行證書を附與され滿期歸郷す、日清役には  
出征して歩兵軍曹に進級して歸郷、全三十年鹿兒島縣巡查を  
拜命し、全三十一年辭し村役場書記たりしが日露の役に召集  
されて鹿兒島歩兵第四十五聯隊に編入され出征功に依り勳七  
等青色桐葉章並に一時金參百圓を下賜され歸郷、全三十九年  
種脇村専任學務委員に擧げられ大正元年同村助役に推薦さる  
大正十一年辭任、明治四十年、大正十四年の兩期村會議員に  
當選、市比野信用組合監事たり。

種脇村 濱田新太郎氏

君は元治元年四月四日種脇村市比野に生る、青年時代には嶺  
山王たらんとてその經營に多額の出資をなせしも遂に失敗に  
歸せり、市比野第一區世話人、全區長たる事久しく大正十四  
年選ばれて村會議員となる。

濱田新太郎

種脇村 茶圓早助氏

君は明治十二年十月十日種脇村市比野に生る、市比野小學校  
卒業後、全二十九年農事傳習生として修業し、種脇村米穀檢  
査員、報効農事小組長、村農會委員、煙草耕作組合組長、  
市比野第四區々長等に擧げられ、大正十年、全十四年の兩度  
村會議員として當選す。

種脇村 太田太次郎氏

君は明治十四年六月十七日種脇村に生る、明治三十四年鹿兒  
島歩兵第四十五聯隊に入營し日露の役に出征して殊勳あり、  
功七級金鷄勳章並に勳七等青色桐葉章を下賜さる再役志願し  
て歩兵曹長に進み、全四十一年滿期歸郷す、大正元年有志數  
名と謀り倉野製糸場を創立し委員となる其の後常務委員、會  
計を経て社長に就任し爾來社運の隆昌策に腐心し今日の旺盛  
を見るに至れり、また女工の優遇法に就て研究し今日には  
模範工場として知らるるなど君の功大なりと云ふべし、大正  
十年、十四年の兩期村會議員に當選し倉野信用組合理事、學  
務委員たり、君はまた村教育には絶大なる後援者として盡し  
つゝあり。





◎種脇村



種脇村 河崎良近氏

君は安政四年十一月四日種脇村に生る、西南の役起るや南洲翁の許に馳せ参じ肥薩の野に奮戦せしが利あらずして敗れしかば意を決して上京す、府立病院に勤務し醫學の研究に専念し明治十五年歸郷醫院を開きたるが傍ら萬ひる人ありしかば鑛山業を經營せしも不幸失敗に歸したり。明治三十二年大正十年、全十四年の三期村會議員に選ばれる村人君に對するに元老を以て退す。



種脇村 上永田仁助氏

君は明治二十年八月二日種脇村塔ノ原に生れ、幼少の頃より父祖の業を繼ぎて専心農事に勵みし結果今日の君あるを得たり、君は報効農事小組長、煙草耕作組合總代、塔ノ原信用組合相談役、塔ノ原第一區々長、衛生部長等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。

上水口國武

種脇村 上水口國武氏

君は明治二十二年三月二十六日種脇村市比野に生る、資性快活明敏果斷にして仁侠に富むの人川内中學に學び居たりしが家事の都合に依り半途に退學し、青年會長に擧げられ大正三年種脇村役場書記となり大正十一年辭して海江田銀行市比野支店主任となりしが全十四年辭す、全年村會議員に當選せるが將來有望の士として矚目され居れり。

種脇村 田原仁平次氏

君は明治三年六月三十日種脇村に生る、幼少の頃より父祖に従ひて農業に勵み家運の隆昌に努め、塔ノ原第二區々長耕地整理組合委員、丸山耕地整理組合會計、煙草耕作組合總代、塔ノ原信用組合相談役等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。

◎種脇村





○種脇村



種脇村 高原 俊 夫氏

君は慶應二年五月二十五日種脇村市比野に生る、小學校卒業後は警察官たらんと志し本縣巡查を拜命、市來、大口の各警察署に勤務すること十七ヶ年にして辭職、後は郷里に在りて農業に勵む、市比野共有財産監査役、國勢調査員、永照寺門徒總代等に擧げられ大正二年、全十年、全十四年の三度村會議員に當選せり。



種脇村 内田 泰 藏氏

君は明治九年三月十五日種脇村塔ノ原に生る、小學校卒業の後は尙ほ勉學怠らず後警視廳巡查を拜命し全三十六年辭し、全年朝鮮の有望なるに着眼して渡鮮、實業に従事し艱難刻苦漸くにして基礎を築き機を利用して蓄財、大正三年功成りて歸郷し、市比野温泉場に温泉旅館を經營せり、大正六年、全十年、全十四年の三期村會議員に當選し村治の向上に努めつゝあり、尙ほ塔ノ原信用組合理事たり。

種脇村 山田直四郎氏

君は明治十五年三月十五日種脇村塔ノ原に生る、全三十五年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營し日露の役には第四軍に參加奮戦し功七級金鷄勳章並に勳七等青色桐葉章を下賜され、全四十一年滿期歸郷す、全四十二年隈之城稅務署に勤務し大正五年辭して種脇役場書記となり、大正十年迄在職、鹿兒島縣木炭同業組合検査員、塔ノ原信用組合相談役等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選す。

種脇村 丸山 朋 助氏

君は明治六年十二月一日種脇村に生れ、全二十六年近衛歩兵第三聯隊に入營し全三十五年陸軍三等主計に任官退後歸郷す日露の役に出征し凱旋と共に歸村し、塔ノ原信用組合監事、國勢調査員種脇村助役に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。

丸山 朋 助

○種脇村





種脇村 有馬精一郎氏

君は明治十二年三月廿七日種脇村に生る、温厚實直の人にして小學校卒業後、全三十一年對馬要塞砲兵隊に入營し、全三十五年滿期歸郷す、日露の役に召集されて對馬警備の任に就き砲兵軍曹に進み勳七等瑞寶章を下賜され歸郷す、全四十年種脇村役場書記となり全四十五年辭して、衛生組合長、報効農事小組合長に擧げられ大正十年村會議員に當選し、全十四年再選せり。



種脇村 木下熊吉氏

君は明治十五年三月種脇村塔ノ原に生る、醫學專門學校を卒業して明治四十四年市比野に開業す、大正十年、全十四年の二期村會議員に當選し、市比野小學校々醫たり、君は資性温厚にして實直、而も仁侠に富みて多忙なる身にもかゝわらず公共のために働き、村治の向上啓發に貢献する處尠なからずまた政治には深き趣味を持つ人にして能辯を以て知らる。

種脇村 菊池彌七氏

君は明治十年四月十八日種脇村塔ノ原に生る、全三十年陸軍教導團に入團し、全三十一年歩兵第二十聯隊に入り全三十五年歩兵軍曹に進みて歸郷し、日露の役には召集され出征第四軍に加はり功ありて、功七級金鷄勳章並に勳七等青色桐葉章を下賜さる、全四十年渡臺し臺中郵便局に勤務、大正元年通信手試験に合格し總督府に勤務、大正九年病氣の爲め辭して歸郷、大正十四年村會議員に當選せり。

種脇村 三浦等氏

君は明治十年七月卅日種脇村に生れ、全二十九年警視廳巡査を拜命し、全三十四年轉じて宮内省皇宮警察署に勤務し、全三十六年辭して歸郷、全三十八年再び警察界に入るべく志し鹿兒島縣巡査を拜命し刑事巡査となり、全四十四年辭して全年熊本縣に入り刑事巡査を拜命各種難事件の檢察には令名あり、大正七年辭して歸郷、種脇村役場書記となり、大正九年迄勤務し、大正十四年村會議員に當選す。



君は明治十年七月卅日種脇村に生れ、全二十九年警視廳巡査を拜命し、全三十四年轉じて宮内省皇宮警察署に勤務し、全三十六年辭して歸郷、全三十八年再び警察界に入るべく志し鹿兒島縣巡査を拜命し刑事巡査となり、全四十四年辭して全年熊本縣に入り刑事巡査を拜命各種難事件の檢察には令名あり、大正七年辭して歸郷、種脇村役場書記となり、大正九年迄勤務し、大正十四年村會議員に當選す。





種脇村 瀬戸山四右衛門氏

君は明治十七年五月二十三日種脇村に生れ、小學校卒業後現役志願兵として全三十四年近衛歩兵第一聯隊に入營す、日露の役には第一軍に参加し殊勲あり、功七級金鷲勳章勲七等青色桐葉章を下賜され、全四十四年歩兵曹長に進み満期歸郷、全四十五年同村役場に入りて書記となり、大正八年辭任、大正九國勢調査員に擧げられ、大正十年村會議員に當選し、大正十四年再選され林野委員たり。

富里 榮

入來村長 富里 榮氏

君は元治元年三月六日入來に生る、小學校教員より逡巡となり歸郷、村會議員に擧げられ現任し、村長となり詳任後郡會議員に選出さる、大正七年三月再び村長に當選し三期引續き現任せり。

入來村助役 今村伊藤次氏

君は明治四年四月十八日入來村に生れ、小學校教員たりし事久しく大正十三年一月同村助役に推薦さる、尙ほ産業組合理事たり。

今村伊藤次



◎入來村

今藤才之助

君は明治九年二月十八日全地に生れ、小學校卒業後鹿屋農學校に入り明治四十一年蠶業専門科を卒業し、翌四十二年京都蠶業講習所技手田邊傳太郎氏に付き桑樹栽培法、蠶病及び消毒法、夏秋蠶飼育法の講習を受く全二十八年入來大馬越尋常小學校教員となり、全卅二年入來村役場書記、全四十一年四月鴨喉郡大崎村短期蠶業教師、全四十一年十一月日置郡下伊集院村蠶業教師、全四十五年黒木村蠶業教師、大正二年小根占村蠶業教師となりしが家事の都合に依り辭して歸村し大正四年より五年迄入來村蠶業教師となる、大正二年より引續き現在に至る迄四回に亘り村會議員に當選し村常務學務員たり

入來村 今藤才之助氏

入來村 池田盛充氏

君は安政六年六月二十八日全地に生れ、明治十四年三月副田小學校教員補、全十五年副田戸長役場用係、全十八年浦之名副田村衛生委員、全十九年入來小學校授業生、全十九年沖繩縣巡查拜命依願免官、全二十一年浦之名登記所雇、全二十一年鹿兒島縣巡查拜命、全二十五年依願免官、全年入來村書記となり收入役兼稅務係、全年十一月入來村長に就任し全二十七年十一月病氣の爲め辭し、全三十年十一月臺灣嘉義縣並務署主任全三十一年蕭瀨瀨臺南縣蘇厝水灣等の辨務署會計官更三十八年一月依願免官歸村全三十九年入來村長に推舉さ

れ爾來引續き三期に亘る、大正七年三月滿期退任尙ほ大正二年村會議員に當選せしより今日に至るまで其の任にありて村治に努力するの外副田製糸組合長として養蠶界に貢献しつゝあり。

入來村 若松嘉兵衛氏

君は明治五年五月十七日日置郡日置村に生れ、日置小學校に學び二十五年近衛歩兵第四聯隊に入營し、日清戰爭に参加し勳八等瑞寶章を下賜され歩兵伍長に進級し凱旋の後臺灣守備となり、全二十九年滿期歸郷せしが全年入來村に移住し呉服商を營む、全三十七年日露の役に召集されて出征し功ありて軍曹に進み勳七等青色桐葉章並に一時金二百五十圓を下賜さる除隊歸村後は村農會總代、國勢調査員、消防後援會長、薩摩郡營業稅調査委員等に擧げられ現村會議員たり、君はまた入來温泉場に自己の姓を附して若松町を建設して物質的に精神的に共に同町に盡しつゝあり。

◎入來村





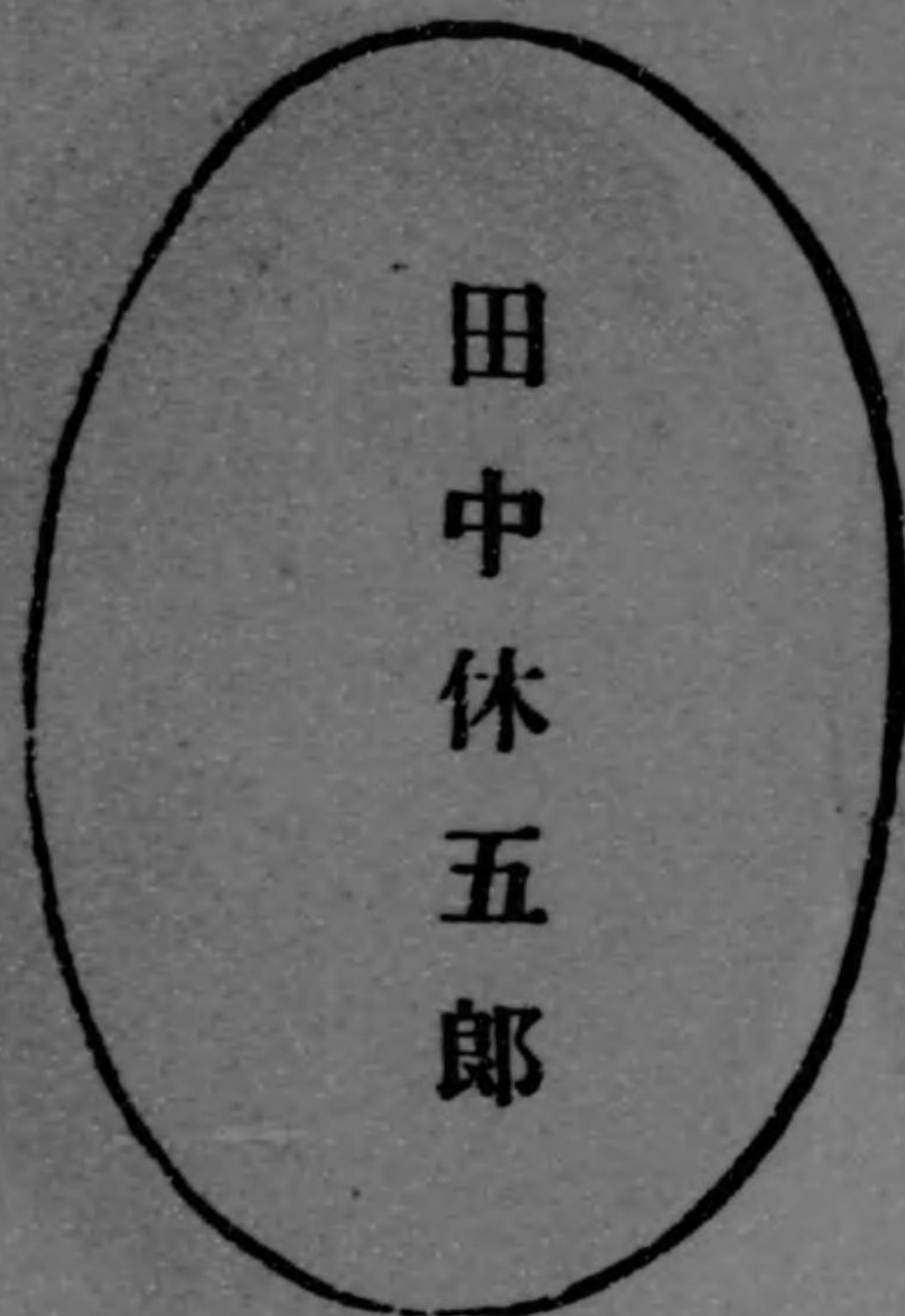
◎入來村



入來村 川添傳次郎氏

君は明治七年六月十日薩摩郡本佐村に生れ、明治三十四年入來村に轉居し、全三十五年消防組を創設して組頭となり、全四十年より蠶種製造を創め副田共同製絲場を創立するなど同地蠶業發展策に腐心しその理事となる、目下副田區長に任ぜるが一面に於ては自働車運輸業を營み交通の便を計りつゝあり、大正十四年村會議員に當選す、君は曾て三堂家に入りしも大正十三年川添家に復籍なしたり。

入來村 田中休五郎氏



君は明治五年九月十三日全村に生れ、全三十六年八月村役場書記に任し、全四十四年九月に至りて辭す、後小組合長となり、大正八年入來小學校改築委員に擧げられ大正五年八月土地測量講習を受け土地山林調査と共に不用地拂下境界調査等の爲め其勞を慰し村役場より錫器を贈らる、又大正十四年には村教育部より硯箱を受く、明治三十一年、大正六年、大正十四年の三回村會議員に當選せり。

入來村 上野源吾氏



君は明治九年六月十九日源次郎氏の長男に生れ、明治二十九年八月佐世保海兵團に入り全三十二年七月選拔されて敷島回航員を拜命、英國に至り全三十三年一月英國發歸航後大演習に参加し善行證を賜はる、全年十一月北清事變に出動す、全三十七年三月上野善助氏の養子となり、全年日露戰役に参加旅順口封鎖の爲め決死隊に應じ機關長の責任を帯び水雷を沈置すること前後三回にて成功したれば參謀司令官より 成功を祝するの賞詞あり、全三十八年五月一等機關兵曹となり、明治四十年四月現役滿期除隊戦功に依り勳八等に叙せられ功七級金鷄勳章並に瑞寶章を賜ふ、歸村後浦ノ名在郷軍人分會長農事小組合長として表彰さる、入來國有林杉造林に當り組合長として盡力し尙ほ縣木炭同業組合検査員となる、大正十四年四月村會議員に當選せり。

入來村 野入喜左衛門氏



君は明治十四年三月十日全地坂元勇之進氏の六男に生れ、明治三十四年歩兵四十五聯隊に入營、全三十七年勳員令下命其の年七月征途に上る、全年十月伍長昇進全三十八年一月選ばれて機關銃隊へ編入、全三十九年三月凱旋す、戦功に依り功七級金鷄勳章勳七等青色桐葉章を下賜され歩兵軍曹に進む、歸郷後報効農事小組合長、兼煙草耕作組合長、入來高等小學校後援會創立當時より評議員として其任に在り、大正十四年四月村會議員に當選す君は明治四十五年一月野入家を相續す

◎入來村



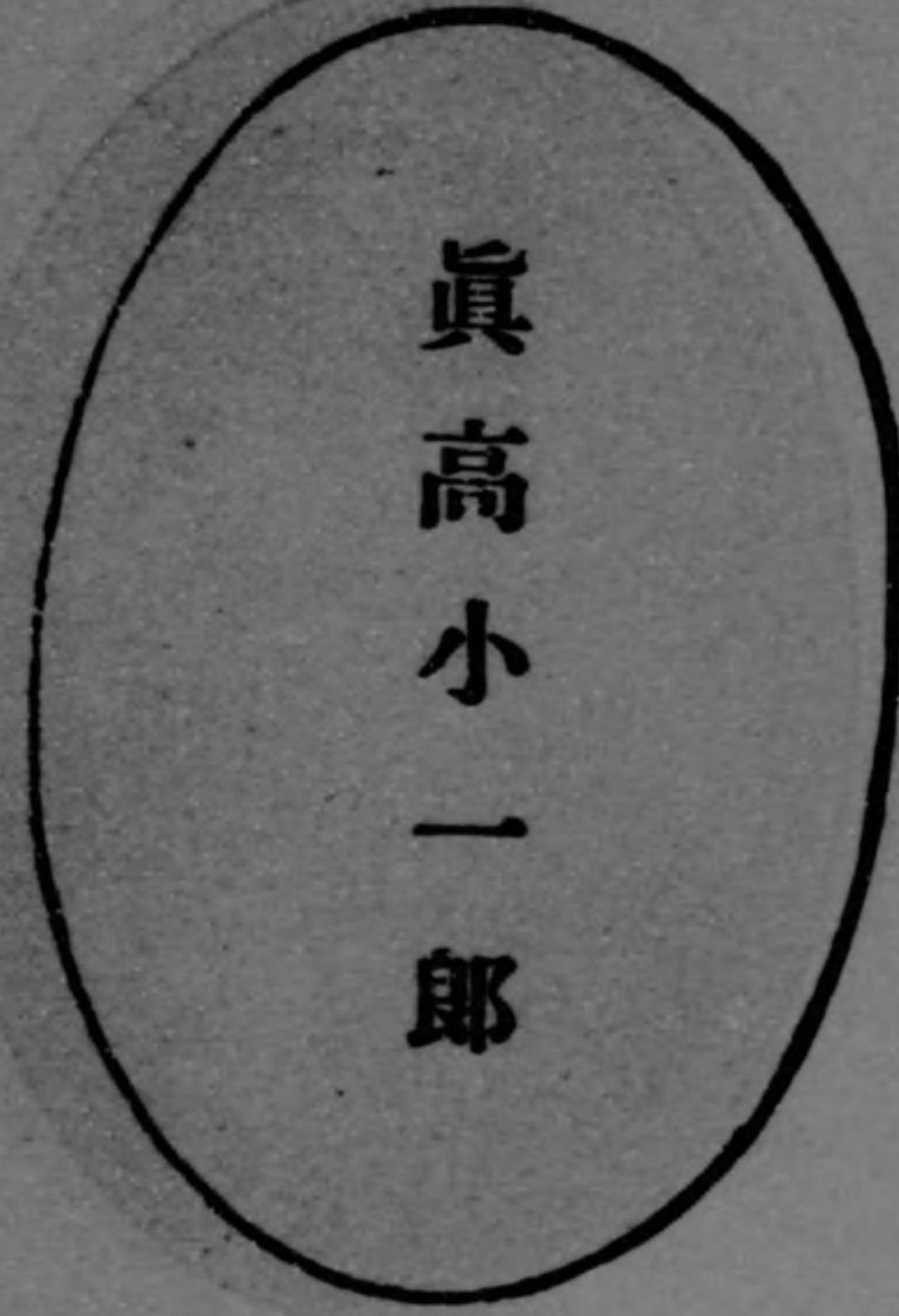
◎入來村



入來村 山下 武道氏

君は明治二十三年十二月十五日入來村字副田に生る、全四十二年南滿洲鐵道株式會社に入社し大正二年辭して歸郷現在の山下旅館を開業す、青年會長報効農事小組合長、消防組小頭衛生部長、國勢調査員等に任し大正十四年村會議員に當選せり、君は仁俠の士少壯議員として將來を囑目されて居る。

眞高小一郎



入來村 眞高小一郎氏

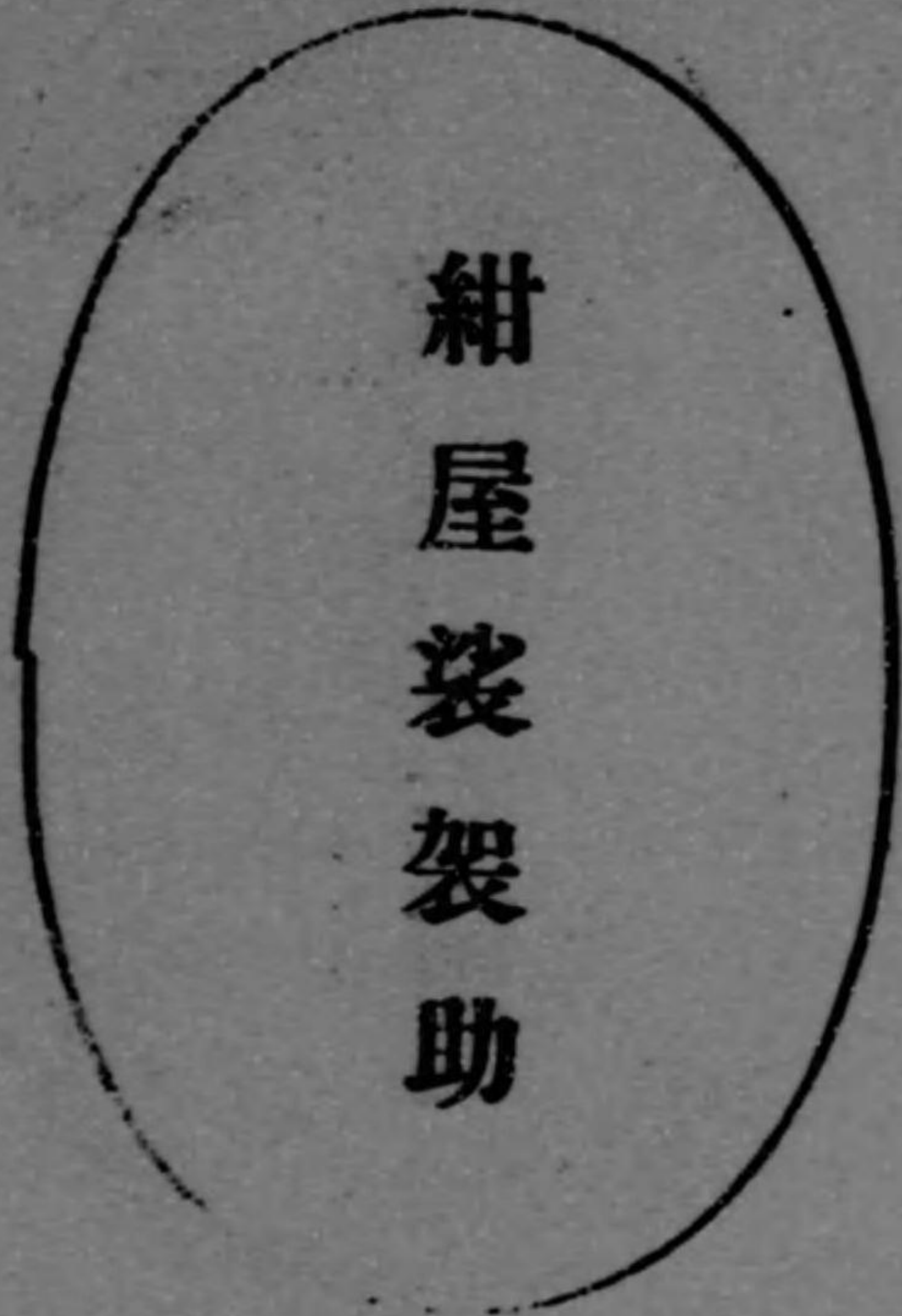
君は明治十七年十二月十六日入來村字浦浦に生れ、小學校卒業後は父祖の業に従ひて農事に勵みしが、農事小組合長、衛生部長、村農會惣代等に擧げらる、大正十四年村農會議員に當選自治の爲め盡しつゝあり。

入來村 松井吉之丞氏



君は安政五年正月三日を以て入來村に生る、農業に従事し大に地方農民の爲めに其範を示せるが會て警察界に入りて奈良縣警部となり次いで奈良警察署長に任ぜらる退職後歸村して入來村助役に擧げられ爾來引き續き今日に至るまで其の任にあり自治の爲め貢献し居れり

入來村 紺屋袈裟助氏



◎入來村

君は明治七年七月二十日入來村字浦名に生る、幼年の頃よりして父祖に従ひ農業に勵み殊に副業たる煙草耕作には一入の研究をなし、專賣局より表彰されし事數度、報公農事小組合長、蒲原區世話人、煙草耕作組合總代、村農會議員、源正寺建築委員等に擧げられ大正十四年村會議員に當選せり、嘗つて君の長たる小組合は成績優良にて縣より表彰されし事あり。



◎入來村

紺屋有右衛門



入來村 紺屋有右衛門氏  
君は明治十八年三月十五日入來村字副田に生る、小學校卒業後は専心農業を屬み家運の隆昌に努めたり、全四十年農事小組合長に擧げられ煙草耕作組合總代、衛生部長、副田信用組合評議員等を経て、大正十四年村會議員に當選せり。

入來村 鮫島政助氏

君は明治八年十一月十六日入來村字浦名に生る、小學校卒業後獨學して小學教員となり、大馬越及び入來小學校に約二ヶ年奉職し辭して入來村役場に入りて書記となり無田耕地整理組合副組合長、古川耕地整理組合長、報効農事小組合長等に擧げられ大正二年、大正十四年の兩度村會議員に當選す。



◎入來村

入來村 重永敬治氏

君は明治十五年四月二十三日を以て入來村に生る、縣立川内中學校を卒業したるのち、入來郵便局長に任ぜられ通信事務に執掌するもの多年現在尙ほ其の職はあり、大正十四年村會議員に當選す、君は辯護士重永善榮氏の令弟なりと



◎下東郷村

田代十太郎

下東郷村長 田代十太郎氏

君は元治元年五月同村に生れ、小學校教員、戸長役場用係より収入役となり助役に擧げられ明治四十一年十月村長に當選五期の久しきに亘りて現任し村治に貢献せし處枚舉に遑あらず、村民の君に對するはあたかも慈父の如く敬慕せり。

—(372)—

鳥越巖

下東郷村助役 鳥越巖氏

君は慶應元年十二月七日同村に生る、郡書記たる事久しく後中學校書記となり、大正七年助役に擧げられ三期を通過して現任し村治に努めつゝあり。

—(373)—



下東郷村 石野田彦一氏

君は明治十二年九月十二日下東郷村に生れ、全三十五年大阪府巡査を拜命し在職八ヶ年にして辭任歸郷、農事に屬じ、報効農事小組合長、産業組合理事等に擧げられしが、大正十年村會議員に當選し、全十四年再選せり。

下東郷村 別府嘉右衛門氏

君は明治二年十一月二十一日下東郷村に生る、小學校卒業後は父祖に従ひて農事に屬みしが、君の着實振は村民の信用する處となり、衛生組合長、煙草耕作組合長に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり。

別府嘉右衛門

◎下東郷村





下東郷村 脇田 初右衛門氏

君は明治四年十一月二十九日下東郷村に生れ、父祖の業を繼ぎて農事に勵み、區長、報効農事小組合長等に擧げられ部落の向上啓發に努めしが大正十年村會議員に擧げられ全十四年再選せり。

下東郷村 福山 清氏



君は明治二十一年九月十三日下東郷村に生る、實業學校出身にして明治四十一年熊本騎兵第六聯隊に入營し漢口守備となり、全四十二年豊橋騎兵第二十六聯隊に轉じ特務曹長に進み大正九年退職年金五百圓大正八年勳八等に叙し、瑞寶章を下賜さる、大正十三年在郷軍人分會長に擧げられ、農會議員となり、大正十四年村會議員に當選す、君は劍道の達人、豊橋在營中劍道試合に優勝し聯隊長より日本刀を授かりし事あり。



下東郷村 草留嘉三次氏

君は文久元年三月廿八日を以て下東郷村に生る、農を業として専ら勵精する所あり優に富を造成して村内羨望の的となり益々はげみ居れり、而して君は往年區長代理に擧げられ今尙ほ之に任しつゝあるが、大正十四年の改選に於て村會議員に當選し自治の爲めに奮闘し居れり。



◎上東郷村

緒方惟一

上東郷村長 緒方惟一氏

君は明治十二年三月六日上東郷村に生れ、村役場書記より助役に擧げられ、四期を勤めて大正十五年十一月村長に當選し村治向上を計りつゝあり。

本渡甚兵衛

上東郷村助役 本渡甚兵衛氏

君は明治五年一月八日下東郷村に生る、勤七等海軍主計兵曹長にして、久しく村役場書記たりしが大正十五年十二月助役に推薦さる。

上東郷村 道宮仙五郎氏

君は元治元年八月十六日全地に生れ農業を屬み副業として養蠶を營ひ、世話人として明治二十五年より全二十八年に至り小組合長として全三十七年より大正六年に至る、其他區評議員、農會議員として九ヶ年其任に在りて、村造林三十五町歩植附の監督をなす、大正三年より今日迄村統一委員たるが學校、諏訪神社改築委員となり大正二年村會議員に當選引續き現在に至り能く村政に努力す、長男は川内中學校卒業後川内區裁判所に勤務中なり。

上東郷村 知敷兼一氏

君は明治二十年七月八日上東郷村中馬保之助氏の次男に生れ明治四十年熊本歩兵二十三聯隊に入營し朝鮮守備として全地に駐屯し暴動鎮撫に任ず、明治四十二年滿期除隊功に依り勳八等瑞寶章並に一時金三十圓を下賜さる、歸村後村役場稅務係となりしも在職一年にて辞任、區長、青年副會長、村評議員となる大正十四年村會議員に當選し村政に努めつゝあり。

◎上東郷村

道宮仙五郎





◎上東郷村

上東郷村 海江田盛孝氏

君は明治十二年十一月二十三日上東郷村木場家に生れたるも出で、海江田家を相続す、明治二十九年陸軍教導團に入り全三十年八月歩兵科卒業二等軍曹となり全三十一年四月陸軍教導團附、全年十月歩兵一等軍曹、全三十四年歩兵曹長となり全三十七年日露の役出征全三十八年二年歩兵少尉に任官、戦功に依り勳六等單光旭日章並に一時金三百圓を下賜さる、全四十年十二月正七位に叙せされ中尉となる、大正二年七月沼津御用邸御滞在の皇太后陛下の供奉を命ぜられ、全三年五月勳五等瑞寶章を賜ふ、全五年一月露國ウキツチ大公殿下御滞在の中露ケ關離宮儀仗兵に派遣せらる、全年二月歩兵大尉に進み近衛歩兵聯隊中隊長となり神鷹スタニスラス第三等勳章受領と全時に佩用を允さる、全六年二月天皇皇后兩陛下葉山御用邸御駐蹕問守衛、儀衛兵司令とし派遣、全年四月免本職、近衛歩兵第一聯隊附八月六日待命全年十二月豫備役となり従六位に叙せらる大正七年村在郷軍人分會長に任じ、全十一年薩摩西部分會副會長、學校後援會長、保安課員等となし大正十四年四月村會議員に當選し専ら村政に努力す。

笠間 宰 二

上東郷村 笠間 宰 二氏

君は明治十年四月二十五日仲太郎氏の長男に生れ、小學校卒業、全三十年山田小學校教員となり、全三十二年辭任、其の後小組合長として二ヶ年、明治三十八年より全四十年迄村役場稅務委員となり、全村斧淵區評議員として十五ヶ年、其の他村農事審査員、煙草耕作組合總代、山林整理等に擧げらる大正十四年村會議員に當選せり。

上東郷村 書川 嘉三 太氏

君は明治六年五月五日上東郷村に生れ、小組合長、區評議員世話人、區長、學務員、農會議員、國勢調査員に擧げられ、大正八年畜産馬匹品評會に馬一頭を出品し入賞せる事あり、其他村路の整理等に盡力せしが大正六年村會議員に當選し引續現任せり、君は温良にして村民の信頼厚く二男五女あり、長男は目下熊本十三聯隊軍曹として在營中なり。

書川 嘉三 太

◎上東郷村



神間袈裟七

君は明治十五年四月上東郷村に生れ、小組合長として明治三十四年より全四十五年に至り、區評議員として全四十三年より大正六年に至る、區長として大正八年より全十年、耕地整理組合員として大正九年より大正十年、農會議員として大正十三年より現在に至る、大正十年村會議員に當選引續き今日迄現任せり、君は造林に熱心の士なり。

上東郷村 神間袈裟七氏

上東郷村 武 欽 次氏

君は明治九年十二月二十日上東郷村清助氏の二男に生る、明治三十一年福岡縣巡查となり、全三十九年巡查部長、全四十二年職を辭し歸郷と共に織物業を起し東郷餅の製造販賣を開く品質優良にして益々發展を示しつゝあり、大正十四年四月村會議員に當選し學務員たり橋梁委員に擧げられ村政に盡しつゝあり君は敏腕快活の士として知らる。

武 欽 次



上東郷村 中村帖四郎氏

君は明治十二年十月四日上東郷村に生れ、農業を營む、後鹿兒島博約義塾に入り明治二十九年卒業し教育界に身を投じて二ヶ年其職にあり、全三十二年對州要塞砲兵隊に入營全三十五年伍長に進級し滿期歸郷、全三十七年日露戰役に召集され長崎守備隊に入り、全三十九滿期除隊、勳七等青色桐葉章一時金三百圓を下賜さる、後小組合長、青年會長、農會議員産業組合理事として創立以來引續き現任し又耕地整理組合長に擧げられ、大正二年村會議員に當選引續き現在に至る、君は學務委員に選ばれる。

上東郷村 村尾重信氏

君は文久三年四月廿四日上東郷村に生れ、東郷先生に就き漢學を學び、十八歳の時高知縣警察署に勤務し、後大阪小濱辯護士に就て法律を研究し廿歳にして東京警視廳に奉職し警部となる、明治二十八年七月臺灣暴動鎮撫に派遣され全二十九年負傷し東京に歸り全三十一年病氣の爲め退職し歸郷せり、大正十四年四月村會議員に當選し學務委員たり、君は剛健にして徳望高し。





上原小次郎

君は上東郷村の舊家たる半左衛門氏の長男として明治七年六月一日生る、明治四十三年小組合長となりて大正元年に至る能く其任を盡し、郡より表彰されし事あり、大正四年世話人となりて大正十三年迄を其の職に在り、産業組合會計として大正八年より現在に至る、大正十四年村會議員に當選せり、君は至て快活の士にして三男一女ありて家庭は至て圓滿なり

上東郷村 上原小次郎氏

山之内喜一郎

君は明治九年五月二十七日上東郷村に生れ、青年會長、煙草耕作組合長、農會議員、小組合長、部落評議員等に任し大正九年及び大正十四年國勢調査員に擧げられ村及び區の林業に功あり、大正二年村會議員に當選し、四期に亙り引續き當選能く村政に努力せり。

上東郷村 山之内 喜一郎氏

上東郷村 山元源之助氏

君は明治十三年七月三日上東郷村南瀬に生る、資性温厚にして篤實精勵家として知らる、全三十三年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營、日露の役に出征し奮戦中負傷して除隊となる、功に依り功七級金鵄勳章並に勳八等白色桐葉章を下賜さる、歸郷後は部落改善に努め南瀬區協議員、世話人、區長、在郷軍人分會會計等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

上東郷村 古川金之助氏

君は明治七年五月十五日上東郷村に生れ、小學校を卒へて農業を營み副業として養蠶をなす、明治三十九年より全四十二年迄區長となる尙ほ小組合長、部落評議員、其他の組合長等に任ぜしが大正二年村會議員に當選し、前後三期に亙り村政に努力し村民の信望厚し。

古川金之助



◎上東郷村

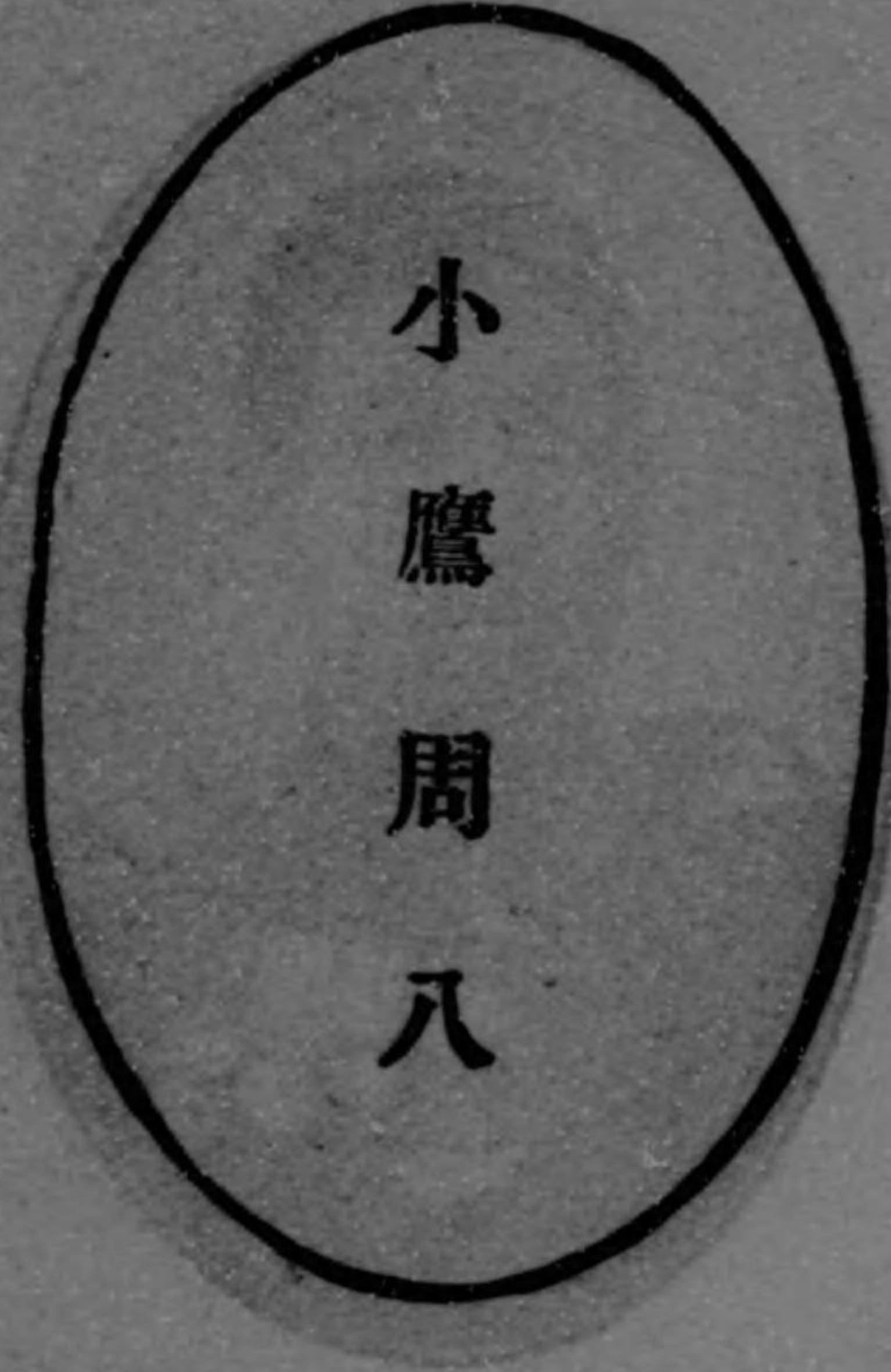


上東郷村 深川清一郎氏

君は明治十七年二月廿日喜太郎氏の二男に生る、明治三十五年志願兵として鹿兒島四十五聯隊に入營、全三十七年日露戦後に出征、全三十九年三月歸隊功に依り功七級金鷲勳章勳八等白色桐葉章を下賜され歩兵伍長となる、全四十年朝鮮守備に派遣され、全四十二年曹長となり、全四十四年十一月滿期除隊、勳七等瑞寶章を賜はる、大正三年三月村役場書記任命大正八年十一月辭し全時に勤儉銀行川内支店東郷代理店書記となり今日に至る、大正十四年四月村會議員に當選し村出納検査員たり。

上東郷村

小鷹周八氏



小鷹周八

君は明治十八年十二月四日上東郷村喜左衛門氏の長男に生れ明治三十八年十二月現役志願兵として鹿兒島歩兵四十五聯隊に入營、全四十年十二月伍長となり、全四十一年十月朝鮮駐劄として渡鮮其の年十二月歩兵軍曹に進み、全四十二年十二月六師團司令部附となり全四十四年十二月歩兵曹長となり、大正四年一月勳八等瑞寶章下賜され全十一月從軍記章並に大禮記念章下賜され、全六年八月歩兵特務曹長となり退役歸郷す、大正九年國勢調査員となり、大正十年四月郵便局に勤務し全年十上東郷郵便局長代理となり、大正十四年四月村會議員に當選せり、長男は縣立加治木中學校在學中。

上東郷村

有川情助氏



君は明治十八年二月二十五日幸右衛門氏の長男に生れ、明治三十七年熊本十三聯隊に入營し日露戦役に出征、三十九年二月解隊と共に歸隊し功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金百五十圓下賜さる、明治四十年九月村役場書記となりて十三ヶ年間勤績大正八年辭任、山田信用組合長及び監理事事となり小組合長、青年會長、養蠶組合長等に任し、大正十四年四月村會議員に當選し村會計出納検査委員たり。

◎上東郷村





肝付 兼 夫

山崎村長 肝付 兼 夫氏

君は明治十六年十月九日山崎村に生る、温厚篤實にして明敏村民の信望特に厚し、大正十五年五月同村々長に當選し村治の向上を計りつゝあり。

山崎村助役 長 野 勝 次氏

君は明治二十八年九月十五日生れなるが村役場書記として久しく事務に執掌す、大正十三年十一月同村助役に推薦せられ村長を補佐して村治の向上に努めつゝあり。

長 野 勝 次

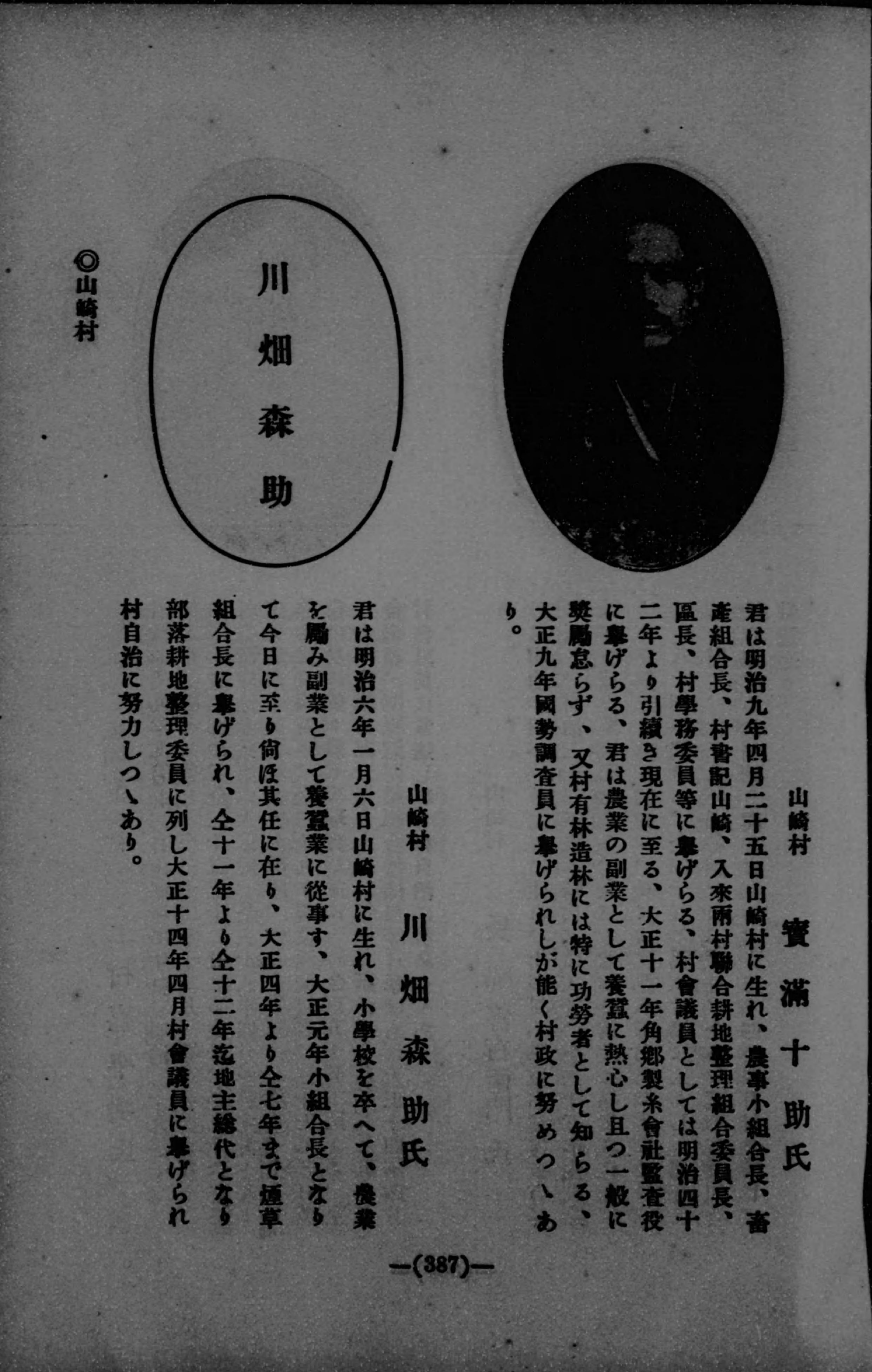
山崎村 寶 滿 十 助氏

君は明治九年四月二十五日山崎村に生れ、農事小組合長、畜産組合長、村書記山崎、入來兩村聯合耕地整理組合委員長、區長、村學務委員等に擧げらる、村會議員としては明治四十二年より引續き現在に至る、大正十一年角郷製糸會社監査役に擧げらる、君は農業の副業として養蠶に熱心し且つ一般に獎勵怠らず、又村有林造林には特に功勞者として知らる、大正九年國勢調査員に擧げられしが能く村政に努めつゝあり。

山崎村 川 畑 森 助氏

君は明治六年一月六日山崎村に生れ、小學校を卒へて、農業を屬み副業として養蠶業に従事す、大正元年小組合長となりて今日に至り尙ほ其任に在り、大正四年より全七年まで煙草組合長に擧げられ、全十一年より全十二年迄地主總代となり部落耕地整理委員に列し大正十四年四月村會議員に擧げられ村自治に努力しつゝあり。

川 畑 森 助





◎山崎村



山崎村 上村嘉平次氏

君は明治九年九月廿二日山崎村に生れ、明治二十九年十二月熊本歩兵隊へ入營し、全三十二年十二月一等軍曹長となり、第二大隊本部附、全三十五年十二月二等主計、全三十六年三月臺灣守備歩兵第六大隊附、全三十八年四月一等主計となり鹿兒島四十五聯隊補充大隊附、六月全聯隊司令部附、全七月熊本豫備病院附、全三十九年現役滿期歸郷、三十七八年日露役の功に依り勳七等瑞寶章並に一時金百五十圓下賜さる、全四十年役場書記となり大正二年四月辭任、全八年區長其他農會議員、郡養蠶同業組合代議員等に擧げられ大正十四年四月村會議員に當選し専ら村自治に努めつゝあり。

山崎村 長福善右衛門氏



君は明治十四年一月二日に生れ、山崎村小學校卒業後教育界に入り、明治三十三年熊本騎兵隊に入營、全三十五年滿期除隊歸村後役場書記となる、全三十七年日露役に召集され全三十九年解隊と共に歸村す、功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金八十圓下賜さる、全四十五年再び役場に入りしも都合に依り辭す、大正九年國勢調査員、區長、全八年荒瀬産業組合長に擧げられ引續き現在に至る、大正十四年四月村會議員に當選せり。

字都十助



◎山崎村

山崎村 宇都十助氏

君は明治九年十一月二十八日山崎村に於て生れ、教育界に在職すること數年、國勢調査員、農會議員に擧げられ大正六年村會議員に當選し、引續き現任せり、君の祖父は明治二十年頃養蠶業を一般に獎勵し桑苗の無代配給等をなして能く知られたる人なり、君の長男は早稲田大學卒業後東京時報社在中。

山崎村 宇都宮十次郎氏

君は明治貳年四月六日山崎村に生れ、明治廿二年東京近衛歩兵聯隊に入營、全廿四年軍曹に昇進し滿期除隊、全二十七年日清戦役の際熊本六師團に召集され曹長となり司令部書記拜命、全二十八年八月解隊となり同時に歩兵科士官適任證書を受く尙ほ戦功に依り勳七等瑞寶章並に金五十圓を下賜さる、全二十九年四月二日、十三聯隊に入營し豫備見習士官、全年十一月歩兵少尉に任じ正八位を賜る、全三十一年鹿兒島第一中學校教授、全三十二年四月川邊中學に轉任、全三十二年八月歩兵十三聯隊附となり全三十三年八月歩兵中尉に進級、勳



○山崎村

六等瑞寶章を下賜され退役歸郷、全三十三年山崎村在郷軍人分會長に擧げられ大正十一年辭し時の總裁より功ありとして表彰さる、尙明治三十七八年戰役に召集され六師團副官に任ぜられ解隊と共に歩兵大尉に進級正七位に叙せらる、功に依り勳五等旭日章並に金五百圓を下賜さる、村宅地調査員に擧げられ、株式會社山崎製糸場社長として明治四十年より全四十二年迄就任し、大正元年山崎村長に當選全五年退職、村有地造林の功績者なり後耕地整理組合長となり大正八年角郷製糸會社社長となり現任し全六年以來村會議員として村政に盡す其功績少なからず。

山崎村 久留清六氏

君は明治十年二月十五日岩右衛門氏の五男に生れ、世話人、衛生組合長、青年會長等に歴任し明治四十年農事小組合長となり、明治四十二年辭す、大正十一年區長となり大正十二年辭す、二渡耕地整理組合委員となり大正十四年四月村會議員に當選し専ら村政に努力しつゝあり、君は三男二女ありて長男は青年會長たり。

久留清六



山崎村 現王園直吉氏

君は明治二十一年四月八日宮ノ城に生れ、山崎村の現王園市兵衛氏の養子となる、養父市兵衛氏は二十四年間村會議員の任にありし人なるが君は山崎小學校卒業後、村役場に入りて勸業主任となり、大正八年より全九年に至る、大正九年宮城殖産銀行員たりしも家事の都合に依り大正十二年辭し、全十一年農會議員、全十三年より土木委員、全十四年三月區長に推され越へて翌月村會議員となり現在に至る。

山崎村 鮫島孝彦氏

君は明治七年十月五日山崎村に生れ、明治三十三年四月内務省醫術開業試験に合格し東京帝大學醫科大學附屬醫院、東京順天堂、東京顯微鏡院等に於て内科、細菌學を研究し、全三十四年六月歸村して開業、全三十八年三月臺灣總督府公醫拜命、全四十二年六月辭して歸郷現住地に於て開業し大正五年より山崎村各學校々醫を囑托さる、鹿兒島縣醫師會議員たる事十五ヶ年、薩摩郡醫師會副會長として六ヶ年、那答院醫師會長として十二ヶ年、全村實業補習學校後援會長にして大正六年、村會議員に當選以來引續き今日に至る、三期間村政に努めつゝあり、君の長男は慶應大學在學中なり。

○山崎村





◎山崎村



山崎村 新留善助氏

君は明治十五年一月十八日山崎村に生れ、山崎小學校卒業後農學校に入學したるも病氣の爲中途退學、明治三十九年三月農會令改正と共に農會書記となり、全四十一年四月書記兼農會技手に任ぜられ、大正三年辭任し、全六年衛生組合副組長全十年組合長となりて現任、全七年區長に擧げられ、全九年辭し、全十一年農會議員に擧げられ、大正十四年四月村會議員に當選し造林二百町歩の植附に際して特に功勞ありと。

山崎村 森山喜代助氏



君は明治十二年二月一日山崎村に生れ、明治二十九年八月佐世保海兵團入團、全三十三年六月十九日佐世保出發北清事件に参加し功に依り一時金五十圓下賜、全三十七年二月日露役に参加し全三十八年七月一等信號兵曹となる、戦功に依り功七級金鷄勳章並に勳七等青色桐葉章を下賜され、全四十三年十月現役満期となり十一月豫備役に編入同時に服役成績の賞状を受く、全四十四年村書記、全四十五年辭し大正十年衛生副組長、全十四年四月村會議員に當選し専ら村政に努めつゝあり。

山内清一郎

宮之城町長 山内清一郎氏

君は文久元年八月十一日宮之城町に生れ、全町助役、町會議員として町政に盡す處不尠、大正十五年六月町長に當選し町政刷新に努めつゝあり。

宮之城町助役 土持綱吉氏

土持綱吉

君は慶應三年二月二日宮之城町に生れ、村役場書記より收入役に擧げられ町會議員として町政自治に盡す處不尠、大正十五年七月同町助役に擧げられたり。

◎宮之城町



新納忠時

君は明治十三年四月九日宮之城町虎居に生る、中學を卒えて明治三十年長崎醫學專門學校に入學せしが不幸病を得て中途退學せり、全三十五年沖繩縣巡查拜命、全三十八年巡查部長に進み、那覇、首里、納々米島の各警察署に勤務しダイナミト事件檢舉に功ありて知事より表彰されたり、大正六年整理組合長に擧げられ、大正十一年町會議員に當選し全十二年宮之城町役場書記となり在動中。

宮之城町 新納忠時氏

宮之城町 東條次郎右衛門氏

東條次郎右衛門

明治八年一月を以て薩摩郡宮之城に生れたる君は資性温良能く家業に奮勉して一般の尊崇する所なるが年二十四歳の時青年會長に推され専ら青年の指導に當り二十七歳にして世話役及び農事小組合長となり大に勵む所あり、大正九年に至り大林區署より國有林の看守を囑托せらるゝあり越へて、大正十一年町會議員に推選せられしかば専ら自治の爲め貢獻する所少なからず一般の範とするに足る所なりと云ふ。

宮之城町 時吉 虎吉氏

君は慶應三年一月八日宮之城町に生る、幼少の頃より父祖に従ひて農業に精勵し家運の隆昌を計り、前岡區評議員たる事四回、世話役、區長に擧げられ、大正十一年町會議員に當選せり、君は世話役の在任中内務省より表彰され金五十圓の賞を受けし事あり。

宮之城町 中間清左衛門氏

君は明治二年二月宮之城町に生る、全二十二年熊本騎兵第六聯隊に入營し、全二十四年上等兵に進み善行證書を附與せられて歸郷、日清の役に出征して勳八等瑞寶章並に一時金五十圓を下賜され、全二十七年日露の役に再び召集され出征して功あり勳七等青色桐葉章並に一時金貳百圓を下賜さる、歸郷後は家業に精勵し、區長、耕地整理委員に擧げられ、明治四十二年村會議員に當選し引續き町會議員として現任し道路委員たり。

中間清左衛門





◎宮之城町



宮之城町 假屋 榮 治氏

君は明治十九年一月十五日宮之城町太右衛門氏の長男として生る、小學校卒業後上京して育文館中學に入り全三十九年同校を卒業し、慈惠醫學專門學校に學び大正三年卒業し大正四年歸郷して開業、鶴田村柴尾には出張所の設けあり、大正十年村會議員に當選し、全十一年町會議員となり學務委員として教育に意を用ひつゝあり。

宮之城町 中村 吉太郎氏

君は明治四年十月八日宮之城町に生る、父祖の業を繼ぎて農業に勵み居たりしが、全三十四年燒酎醸造業を創め同時に味噌製造も營み、一意優良品の製出と販路の擴張に努め夙くより鋒銳をあらはし今日の富を築き上げる成功者にして且つ素封家にして村治に盡すところもまた多く現町會議員たり、燒酎は品質優良にして各種品評會、共進會に於ては優等賞、一等賞に入選せし事一再ならず。

中村 吉太郎

宮之城町 久保田 源七氏

君は明治三年一月宮之城町に生る、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に勵み、世話役、區會議員に擧げらるゝこと久しく、大正六年村會議員に當選し以來引續き町會議員となり排水委員として盡しつゝあり。

久保田 源七

宮之城町 山下 猪之助氏

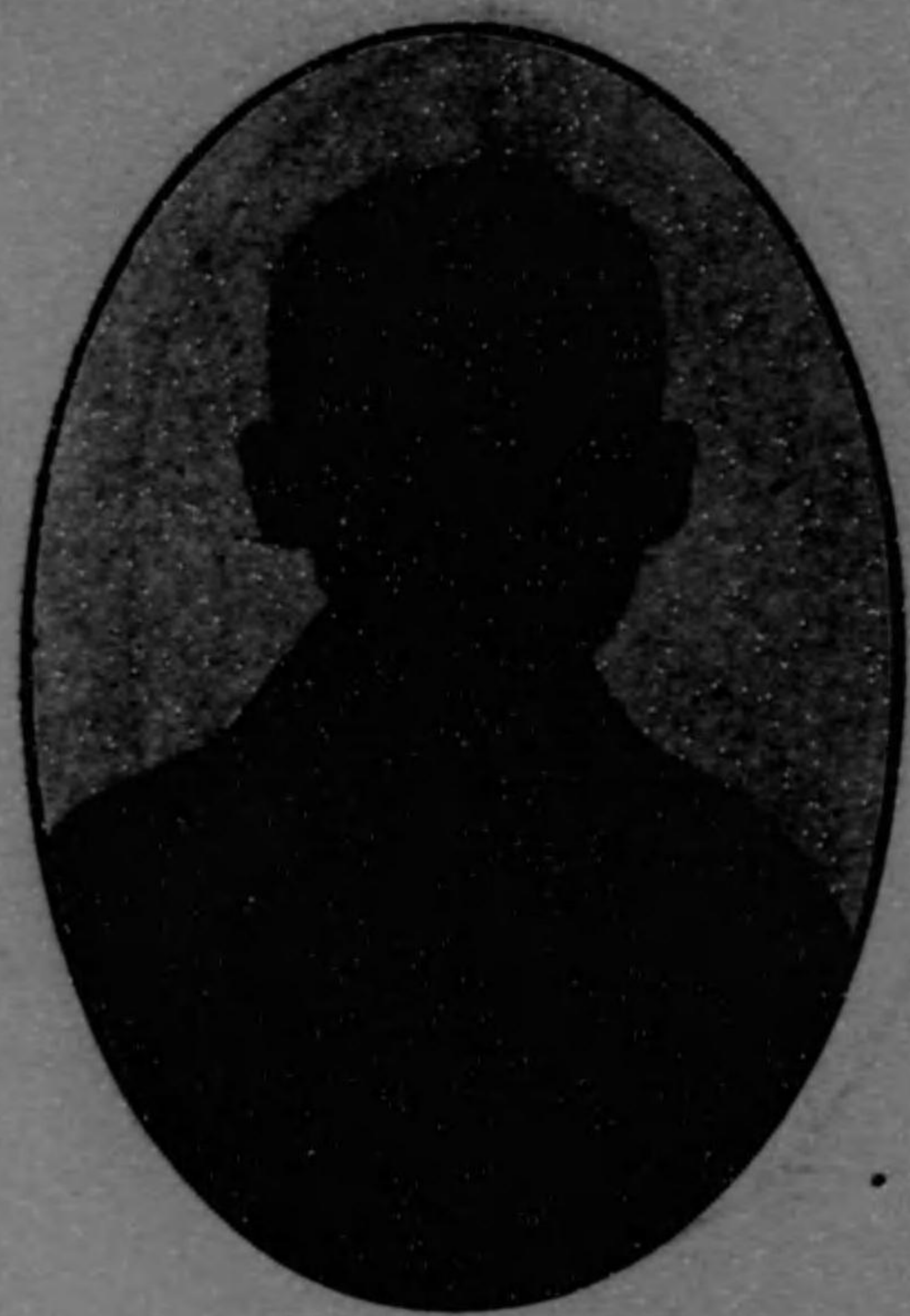
君は明治十二年十二月を以て薩摩郡宮之城町に呱呱の聲をあげたるが小學校を卒へて後は父祖傳來の業務に服し孜々として倦む所なく屬む内徴兵適齡に達し体格丈夫なるに依り明治卅三年歩兵第四十五聯隊に入營修練怠りなく、滿期歸郷後一年にして日露戰爭の始まるや奉天方面に出動し奮戦功を擧げ勳八等に叙し白色桐葉章及び金百五十圓を賜はる、大正六年區長となり、大正十年村會議員に推選せられ町制實施に當り功勞あり更に町會議員に推されて今日に至る君は猶ほ農事小組合長として或は青年會長として各方面に躍動し居れり、君の長男千本氏は一中に學び女ミチエ女史は興業學校を卒へて中山小學校に教鞭を採りつゝあり。

山下 猪之助

◎宮之城町



◎宮之城町



宮之城町 松崎清吉氏  
君は明治十七年五月宮之城町に生る、全三十六年熊本醫學校に入り後上京して東京醫學校に轉し同校を卒業し、全四十三年醫術開業免狀を受け歸郷して川内病院及び熊本市にて内科の研究をなし、全四十五年現在地に於て開業す、大正四年青年會長に擧げられ、全五年三井病院及び順天堂病院に入り再び研究して歸郷、全十一年町會議員に當選し衛生組合評議員に擧げられ現任せり。

宮之城町 小西十五郎氏



君は明治六年五月五日宮之城町に生る、全二十六年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し日清の後に出征歸郷後は専心農業に屬みたり、全三十五年村會議員に當選し、區長、穀物検査員に擧げられ大正十年村會議員に再選され全十一年町會議員となり、學務委員、道路委員たり。

宮之城町 是枝榮吉氏



君は明治七年二月七日宮之城町に生る、全三十七年臺灣に赴き臺北貯蓄銀行に奉職せしが幾何もなく歸郷し、全三十九年米穀商を始め傍ら商を營む、大正十一年町會議員に當選せり。

宮之城町 小牧伊勢吉氏



君は明治五年五月十六日平佐村に生れ後現住地に轉籍せり、小學校卒業後鹿兒島學校を経て博約義塾に學び、全三十九年薩摩郡所得稅調査員に擧げられ、全四十二年より焼酎釀造業を開始し全四十三年薩摩郡酒造組合郡答院支部長、鹿兒島縣酒造聯合組合代議員、第一回國勢調査員に擧げられ、大正十一年町會議員に當選せり、君の釀造せる焼酎「喜」は品質優良にして各品評會、共進會に出品して入賞せし事數度にしてその名の如く聲譽轟けり。

◎宮之城町



◎宮之城町

江藤源七

君は慶應元年五月四日宮之城町に生る、十八歳の時平川小學校に職を奉じて育英の業に勉むること三年辭じて家業に従事せしが直ちに區長に推され部落の爲めに盡すこと七年、三十歳に至りては水車事業の有利なるを看取し之を經營して水力利用の範を示す、大正三年村會議員に當選爾後村自治に盡すところ少からず、大正十一年町制實施と共に町會議員となり道路委員、學務委員たり、君はまた養蠶業に熱心なり、長男仁氏は東大農科出身にして農商務省の工業試験場旭化學工業の主任にして九州農科大學の助手たり。

宮之城町 江藤源七氏

宮之城町 有村憲二氏

君は明治二十六年六月十日宮之城町嘉次郎氏の長男に生る、大正二年熊本歩兵第二十三聯隊に入管上等兵に進みて全國年滿期歸郷、青年會長、虎居區協議員國勢調査員に擧げられ大正十年村會議員に當選し、全十一年町會議員に再選さる。君は大規模に養蠶を營ひ、一木部落に於ける資産家なり。

有村憲二

宮之城町 湯田彌助氏

君は明治四年六月三日宮之城町に生る、小學卒業後一意家業に精勵し温厚篤實を以て人に知られ、信用日と共に厚く終に今日を築きたり、大正七年消防組組頭に擧げられ、大正十年村會議員に當選し全十一年町會議員となる。

宮之城町 南原萬助氏

君は元治元年七月宮之城町に生る、明治二十七年より植林事業を計畫して熱心之に當り他に範を示すに至りしが全三十四年には全町虎居の地主総代となり更に區議員に擧げられ農事小組合長に推されて各其の任を辱かしめず猶ほ君は部落民に對して大に貯蓄を奨勵し農事の改良を高唱する等専ら部落民の指導啓發に勉むる所あり其の成績顯著なるに依り郡長より其の篤行を表彰せられし事もあり、猶ほ養蠶業に特に熱心にして蠶種製造に心血を盡ぎ毎年優良の蠶種を斯界に提供し居れり曩きには九州沖繩八縣聯合會にて受賞したり、大正十一年町會議員に擧げられ村自治の爲めに大に貢献し居れり。



◎宮之城町





東  
宗  
助

宮之城町 東 宗 助氏

君は明治十八年三月十八日宮之城町、仲助氏の長男に生る、父祖の業に従事して農事に屬みしが、全三十九年水車業を經營し骨粉製造をなし肥料一切の仲買をなせり、大正十一年町會議員に當選し町政刷新に努めつゝあり。

宮之城町 平 田 宗 德氏

君は明治二十一年二月九日宮之城町に生る、全四十二年鹿兒島縣立第一中學校を卒業し、早稻田大學に入り政治經濟科を修めつゝありしが病氣のため中途にて退學歸村實業に従事し町會議員に當選すること二期にして現在學務委員たり、大正十四年西薩殖産銀行取締役に就任せり、信用組合理事にして体育方面に大なる趣味を有し盛に之を鼓吹しつゝあり。

宮之城町

關

峠氏

君は明治十二年十月二十九日宮之城町開坂家に生れしが全三十二年關家の養子となる、全年縣立鹿屋農學校を卒業し、全三十七年日露の役に輻重輸卒として召集に應じ従軍二ヶ年功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金貳百圓を下賜さる、全三十九年宮之城村役場に入り書記となり村農會副會長に擧げらる、大正八年辭して東亞産業株式會社創立に盡力す、大正十年村會議員に當選し町制實施に伴ひ町會議員となる、君はまた産業組合創立に際して貢献する所少なからず。

宮之城町

關

太郎右衛門氏

君は慶應三年一月十八日宮之城町山之内善兵衛氏の二男として生れ十八歳にして關家に入りて養子となる、二十二歳にして區長に擧げられ三期を務め區會議員にして村會議員たる事二回にして町會議員に當選し學務委員たり。また耕地整理に就て其の盡せしところ尠なからず。





◎佐志村



佐志村長 林 吉之助氏  
君は明治元年三月十五日佐志村に生る、全十二年より十四年迄を東京に過し全十六年熊本大江義塾に入り徳富猪一郎氏の許に學ぶこと四年にして家事担当の爲め歸郷す、全二十一年村長に擧げられ現在にて三回其の任に在り全三十九年縣會議員に當選一期を務めしが村會議員に當選すること四期に及ぶ、全四十一年廣田耕地整理組合長に擧げられ九十町歩の整理をなし、大正十一年三たび村長に就任するや部落有土地整理を完成し、官行造林二百五十町歩の植栽施行に勉め餘す處六十町歩にて完了の域にあり、君は温厚篤實而も英明果斷村治の刷新に向ひ献身的の努力を惜まず活動し居れり。

佐志村助役 久保知之氏



君は明治十三年八月同村字廣瀬に生る、二十七年佐志小學校を卒業し後村役場に入り書記となり、多年其の任にあるが精勵の故を以て表彰せられし事あり、大正十四年四月同村助役に擧げらる、温厚にしてよく村長を補佐し村治に功あり。

佐志村 池之野 正之助氏



君は明治二年四月二十日同村池之野に生る、資性温厚にして仁侠に富み篤農家として縣下に名を成せり、同部落は村内にても生活の程度最も低く常に納税滞納勝なるを遺憾とし、荒地の開墾、勤儉を奨励し、肥料の共同購入組合を組織して只管増殖の道を講じ農事の改善に努めたり、故に部落民は慈父の如くに敬慕せり、村會議員としては大正十四年を以て六期に亘り當選しよく村政に盡し貢献する處尠なからず。

佐志村 田原 八左衛門氏



君は明治五年八月佐志村に於て生る、全二十七年日清の役に出征し勳七等青色桐葉章を下賜され砲兵曹長に進みて歸郷多年の軍隊生活により今尙軍人精神の充實せる活潑の入として知らる、大正二年村會議員に當選爾來引續き當選し學務委員農會議員に現任して村治に盡しつゝあり。

◎佐志村



◎佐志村



佐志村 田島與兵衛氏

君は明治十三年十二月佐志村字廣瀬に生れ、代々農を以て業となす、明治三十七八年の日露の役に召集されて出征し功ありて勳八等白色桐葉章を下賜さる、君は村内の信用厚く、大正六年、全十年、全十四年の三期村會議員に當選し村の自治に努めつゝあり。

佐志村 永井實親氏



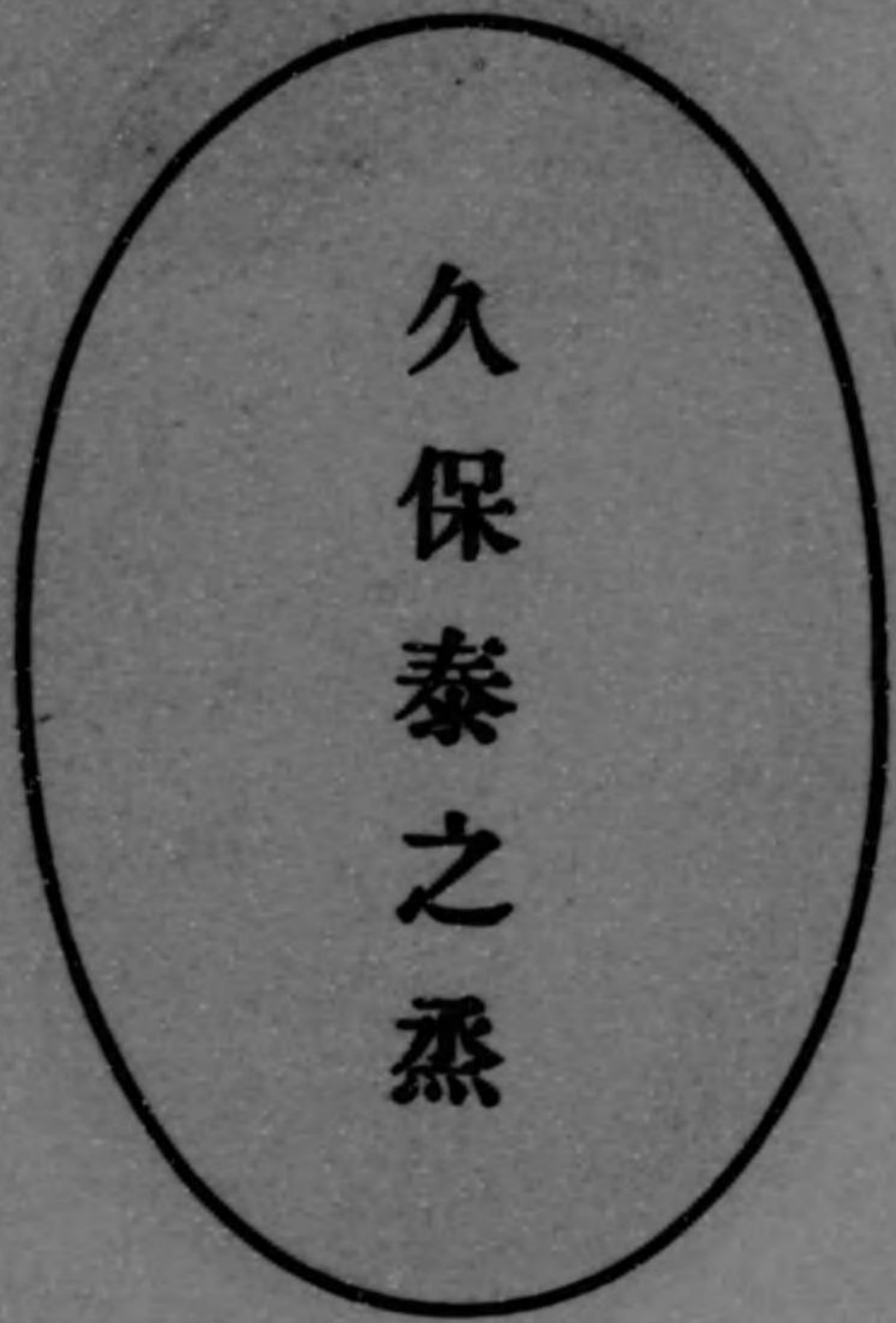
君は明治二十五年一月佐志村田原に生れ、建築請負業を営む性温厚にして放膽而して仁侠の人、斯業に熱心にして同業者間にも徳望あり、大正十四年村會議員に當選せり。

佐志村 宇都喜左衛門氏



君は明治六年六月佐志村字廣瀬に生る、日清の役に出征して一時金二十五圓を下賜され、日露の役には再び召集され出征して功あり勳八等白色桐葉章並に一時金百五十圓を下賜さる除隊後は農會評議員、村役場書記となり、明治四十年收入役に就任し、大正六年村會議員に當選し、全十四年再選され耕地整理委員たり。

佐志村 久保泰之丞氏



久保泰之丞

君は明治元年九月六日薩摩郡佐志村麓に生る、温厚にして徳望あり多年村役場吏員となり後ち村長に擧げられしが其の職務に熱誠なること他の範とするに足る、曾ては郡會議員として郡政に參畫し、村會議員としては明治三十年當選以來引き続き今日に至るまで三十餘年の長きに亘る、其の他學務委員、村農會總代、耕地整理組合委員等に擧げらる、君は日露戰役當時の功勞あり勳七等に叙せられたり、君の男女雄氏は長崎醫科大學を卒へて全附屬病院に入り研究中なりと。

◎佐志村



◎佐志村



佐志村 栗屋野四右衛門氏

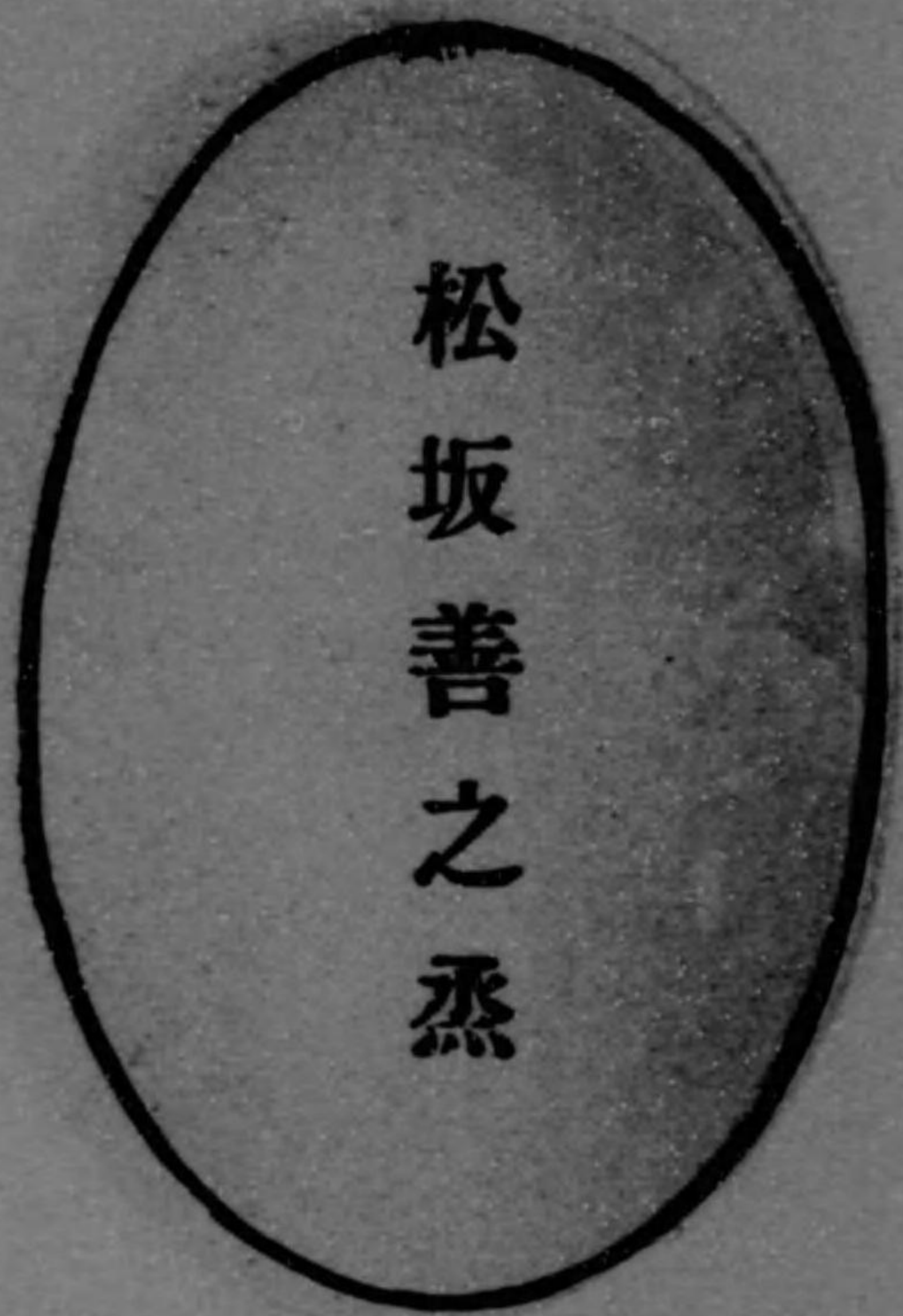
君は明治十年一月佐志村に生る剛健にして着實幼少の頃よりして父祖に従ひて農事に精勵し今日あるを得たり、大正十四年村會議員に當選し村治の向上に努めつゝあり。

佐志村 矢野袈裟市氏



君は明治十七年九月佐志村字小川田に生る、全三十八年五月補充兵として鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營し留守隊に殘留し、一時金三十五圓を下賜さる、青年會長、農事小組會長、區長に歴任し、大正十四年村會議員に當選し、村治に努めつゝあり。

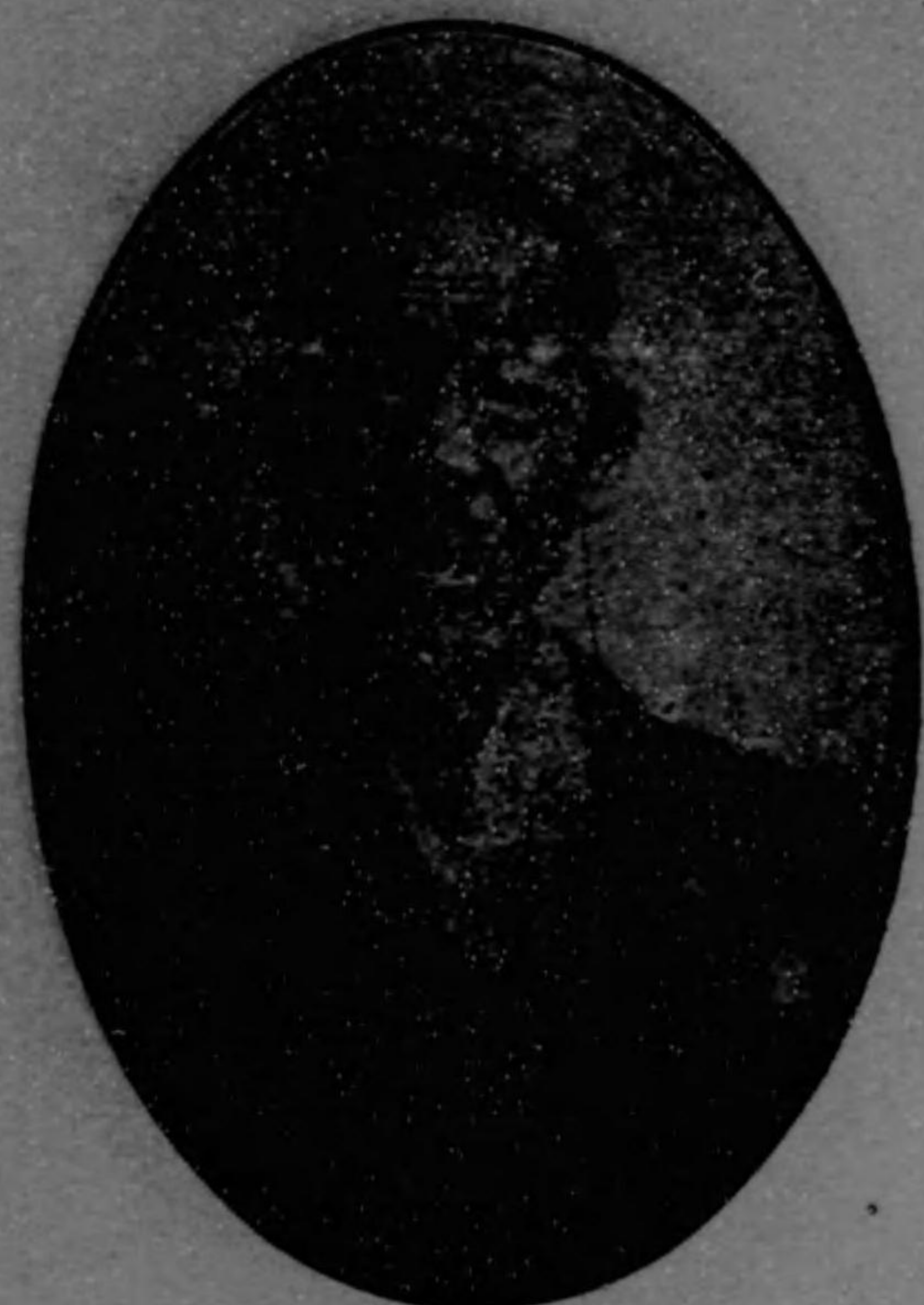
松坂善之丞



佐志村 松坂善之丞氏

君は明治十二年九月上東郷村に生る、名古屋中學校卒業後更に明治四十年京都醫學專門學校を卒業して歸郷佐志村に於て開業し専ら斯業に努力すると共に佐志校々醫を囑托せらる大正十四年村會議員に當選し村政に盡力しつゝあり。

佐志村 小西幸長氏



君は明治元年二月佐志村字田原に生る、村場役場書記より村助役に擧げられ耕地整理組合長、衛生組合長に選ばる、收入役たる事二期にして今期村會議員に當選し學務委員たり。

◎佐志村



◎佐志村



佐志村 宮之原令宜氏

君は明治十四年十一月佐志村字麓に生る、明治三十七八年戦役に出征し特に拔群の功あり上等兵にして功六級金鷲勳章並に勳八等白色桐葉章を下賜さる、嘗つて鹿見島縣巡査奉職中明治四十年縣知事より賞状を受けし事あり、後佐志村助役に擧げられ一期を勤め大正十四年村會議員に當選せり。

佐志村 宮里 武氏



君は明治十七年三月黒木村字廣瀬に生る、村役場書記たりし事あり。廣瀬部落共有地整理委員長に擧げられ、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる、君は徳望高き人にして村自治のため盡す處多からず。

若松活鷹



鶴田村長 若松活鷹氏

君は万延元年三月十五日鶴田村に生る、温厚篤實を以て知られ同村收入役に擧げられ明治四十二年村長に當選し大正二年迄在任し、村會議員としては大正十五年五月再選されて現任し同村養蠶組合長、村農會長たり。

鶴田村助役 井上保氏

君は明治十二年薩摩郡鶴田村に生る、夙くより村の自治に努力せしが大正二年に全村助役に推薦せられ全十年辭任、全村會議員に當選す、大正十四年八月再び村助役に推薦せられ現在其の任にあり。

◎鶴田村





市來政徳

君は明治十一年三月全村に生れ性温厚にして郡會議員たりし事あり、全村の自治に努力せるもの少なからず、村會議員として五期に亙り連續當選し現在に至る、尙ほ君は家業に努むると共に公共事業に熱心の士なり。

鶴田村 市來政徳氏

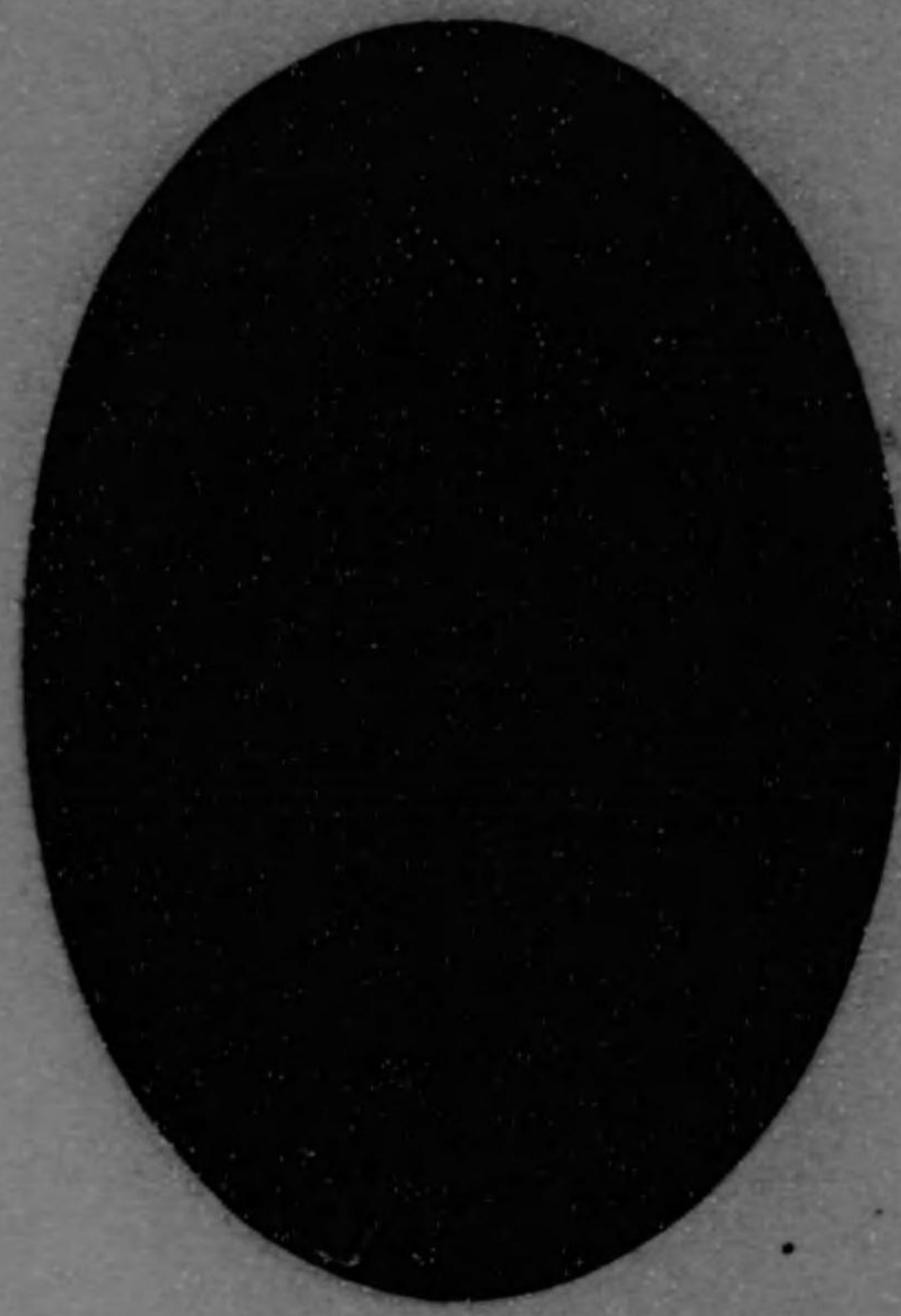


鶴田村 岩崎峻氏

君は明治元年九月鶴田村に生る、町村制施かゝるや十八歳にして初代の區長に擧げらる、農事の傍ら養蠶業を屬み隣郡養蠶組合市場設置に就き君の努力與つて力あり、今期を以て三回村會議員に當選し村治に盡すところ少なからず。

三回村會議員  
鶴田村 西田喜一氏

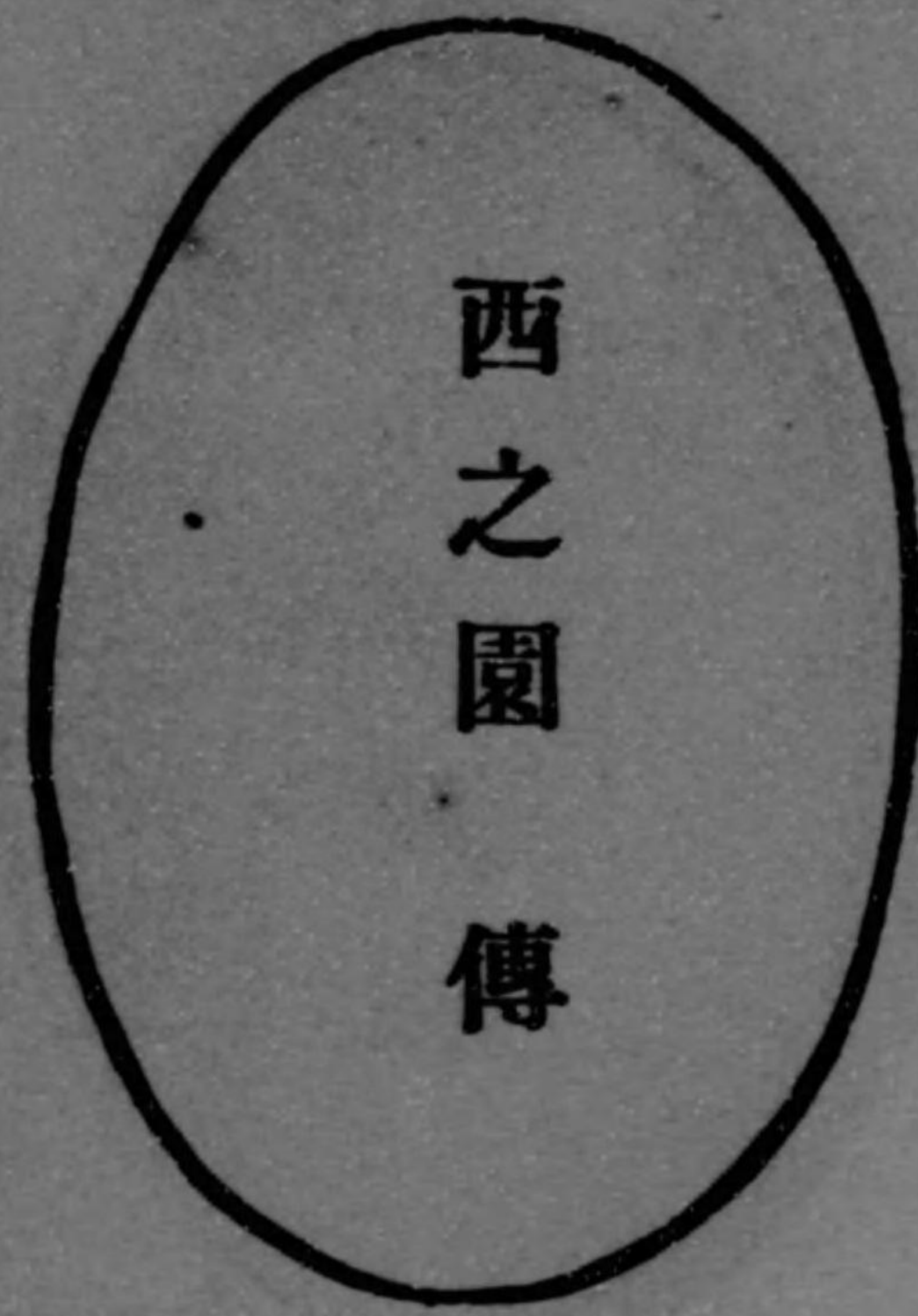
君は明治十一年鶴田村に出生し父祖の業を繼ぎ農業に努力し村農會議員にして斯界に盡す所多く這回選ばれて村會議員となり村自治の發展に努力しつゝあり、尙ほ君は敬神の念深く柴尾神社改築には勞資を惜しむことなく盡力せり。



鶴田村 西之園傳氏

君は明治二十三年一月全村に生れ、農業を營み村農會議員、青年團長に擧げられ盡す事少なからず、村會議員に擧げられる事今期を以て二回よく村治に努力し居れり。

西之園傳







鶴田村 岡村 納吉氏

君は明治二十六年五月鶴田村に生る、父祖の業を繼ぎて家業に精勵し只管家運の隆昌に努め今日を成したり、大正十四年村會議員に當選し村治に盡しつゝある前途有爲の士なり。



鶴田村 谷山 泰馬氏

君は明治八年九月鶴田村に生る、温厚の士にして村民の信望厚く、大正六年以來連續擧げられて村會議員として村治に努めつゝあり。



鶴田村 中玉子辰右衛門氏

君は明治十二年六月全村に生る、父祖の業を繼ぎて農業を營み村農會議員に擧られること前後二回、村會議員となり現在に至る、尙君は日露戰役に從事し功に依り勳八等白色桐葉章下賜されたり。



鶴田村 上園 喜平次氏

君は明治十年十一月全村に生れ、父祖の業を繼ぎて農事に屬み村農會議員の任にあり、大正十四年村會議員に當選し村治に努力しつゝあり、尙君は質實剛健にて快活を以て知らる。



○鶴田村



鶴田村 栗野政次郎氏

君は明治廿年鶴田村に生れ、父祖の業を継ぎて農業に従事し家運の隆昌を計る、今回村會議員に當選し村治に努めつゝあり、君は温厚着實の士として知らる。



鶴田村 朝隈豊氏

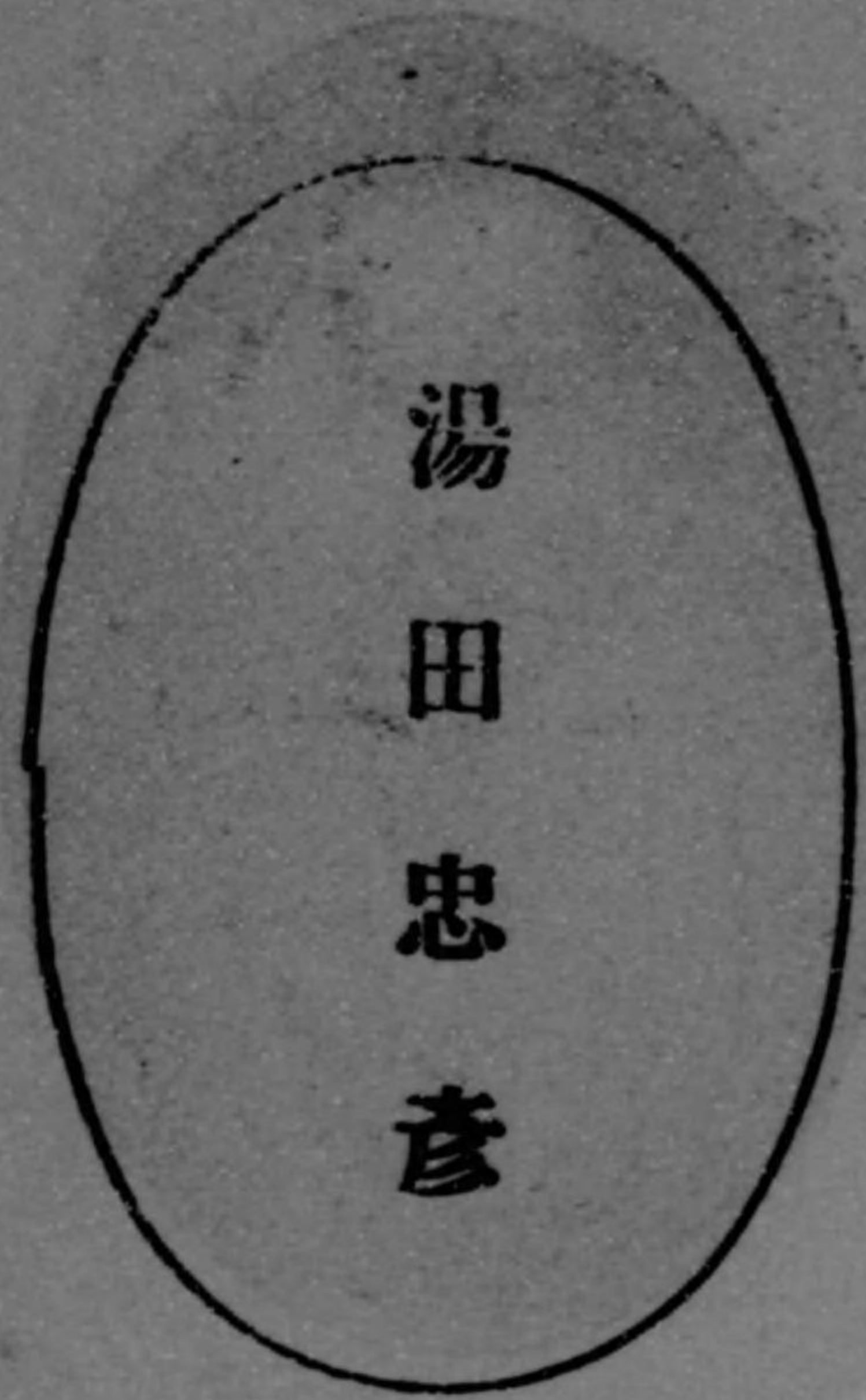
君は明治三年二月鶴田村に生る、代々農業を營み副業として養蠶に力を用ひ養蠶組合の組織せらるゝと共に第一期同組合長に選ばる、鶴田區々長たること久しく、大正十四年村會議員に當選せり

茶子



鶴田村 湯田忠彦氏

君は明治二年十二月鶴田村に於て生る、醫業を開きて神子、鶴田兩校の校醫たるが猶ほ懇切を以て患者に接し仁快にして豪放慈心ありて徳望高く且つ雄辯快活の人として知らる、村會議員たる事今期を以て四回よく村政に盡しつゝあり。



湯田忠彦

○鶴田村

鶴田村 湯田忠彦氏

君は明治十二年八月全村に生れ、父の業を継ぎて農事を屬し薩摩郡々會議員、村農會議員たりし事あり、村會議員として前後五回當選して村農事産業改發に盡力しつゝあり。

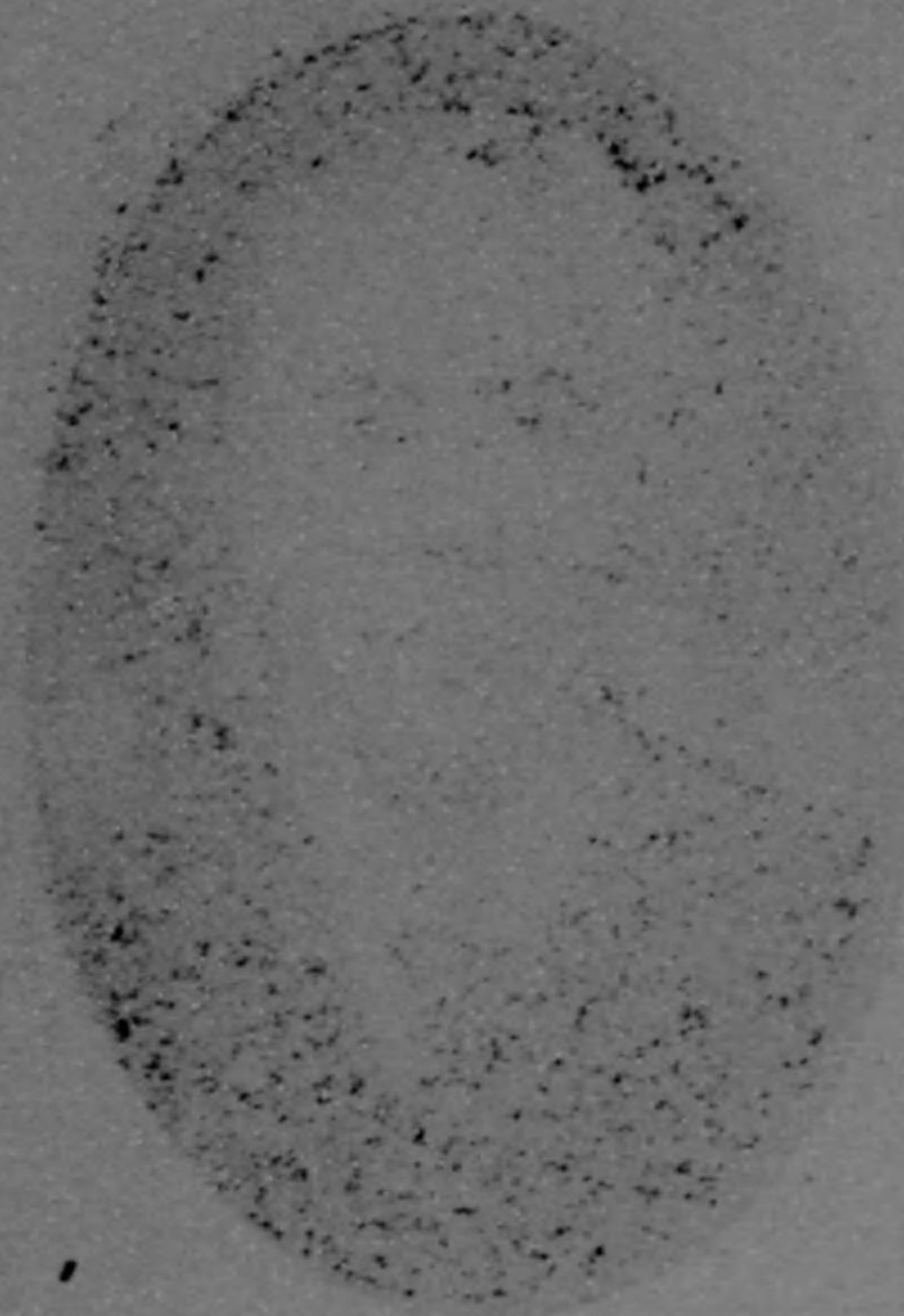


◎鶴田村



鶴田村 下大迫 伊之助氏

君は明治十二年九月全村に生れ、明治三十七八年日露戦役に出征し功に依り功七級金鷄勳章並に勳八等白色桐葉章を下賜せらる、明治三十九年恩給法に依り給助金を附與せらる、尙大正十四年村會議員に當選し、村治に盡しつゝあり。



山内喜左衛門

求名村長 山内喜左衛門氏

君は明治十二年三月八日求名村に生る、温厚にして英明村民の信望厚く大正十五年二月同村々長に擧げられ一意村政刷新を計りつゝあり。

求名村助役 染川彦一氏

君は明治十四年八月十五日求名村に生る、明治三十二年より求名尋常高等小學校教員として奉職する事久しく後辭して、區長に擧げられ、大正十一年村會議員に當選し更に同年助役に推されて就任し村政刷新に意を注ぎつゝあり。

染川彦一

◎求名村



◎求名村



求名村 生駒竹二氏

君は明治十七年六月求名村伍右衛門氏の長男に生る、小學校卒業後は鹿兒島市博約義塾に學び、全三十八年福岡縣八幡に赴き製鐵所に奉職、全四十一年辭して歸郷す、求名總代、衛生組合長、區會議員、報効農事小組合長等に擧げられ不斷の努力を各方面に致せり大正十一年村會議員に當選、學務委員、道路委員等を兼ね十二年には部落有林野の統一委員に推さる君は大正元年司法代書人の認可を得て新業に従事しつゝあり

◎求名村



求名村 羽有彦兵衛氏

君は薩摩郡求名村に生れしが小學校卒業後は父祖の業たる農事に勵精し郷里に其範を示し、のち農事組合長、農會議員、衛生組合長其の他公共の事業に盡瘁し居たるが大正十三年村會議員に擧げられ大に自治の爲めに力を致したり

◎求名村 東郷直衛氏



君は明治八年五月宮之城町湯田に生る、全二十七年東郷家の養子となる、全二十八年熊本騎兵第六聯隊に入營し、全三十一年二等軍曹に進み、全年滿期退營、全三十二年九州鐵道株式會社に驛手見習として入社熊本驛に勤務し、全三十六年助役に進み有田、門司驛等に勤務し、全四十年辭して歸村、大正八年西薩殖産銀行求名支店長に就任し地方金融の圓滑を計り現任せり、大正十一年村會議員に當選せり。

◎求名村 上園清次氏



君は明治二十一年一月十四日求名村今東甚右衛門氏の三男に生れしが後、上園家に入りて養子となる、全四十一年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し上等兵に進み全四十三年滿期退營家業に屬む青年會長、報効農事小組合長、在郷軍人分會理事等に擧げられ、大正十一年村會議員に當選し區長、全區基本財産取締員にして村政に盡しつゝあり。

◎求名村



◎求名村

神田橋 榮吉

求名村 神田橋 榮吉氏  
君は明治十三年十二月求名村に生る、明治三十一年熊本醫學專門學校卒業後上京して小兒科専門の某病院に入りて研究すること三年、同地に於て開業せしが全四十一年歸來現住地に於て開業す、大正六年郡會議員に當選し、大正十一年以來村會議員に擧げられ村醫校醫たり、患者に對しては懇切誠意を以て施療し且つ衛生思想の普及に努め、學務委員として教育振興にも意を用ひつゝあり、君は尙西薩殖産銀行取締役として地方經濟界にも重きをなせり。

求名村 谷口平三氏

君は元治元年六月十日求名村に生る、大正三年宮之城町分村以前よりの宮之城町會議員にして分村問題には大いに盡す處ありて全十一年第一回求名村會議員に擧げらる、君は青年時代より種々の役員に擧げられよく其の任を全ふし新徳寺建立以來門徒總代として多大の力を致し實直の故を以て知らる。

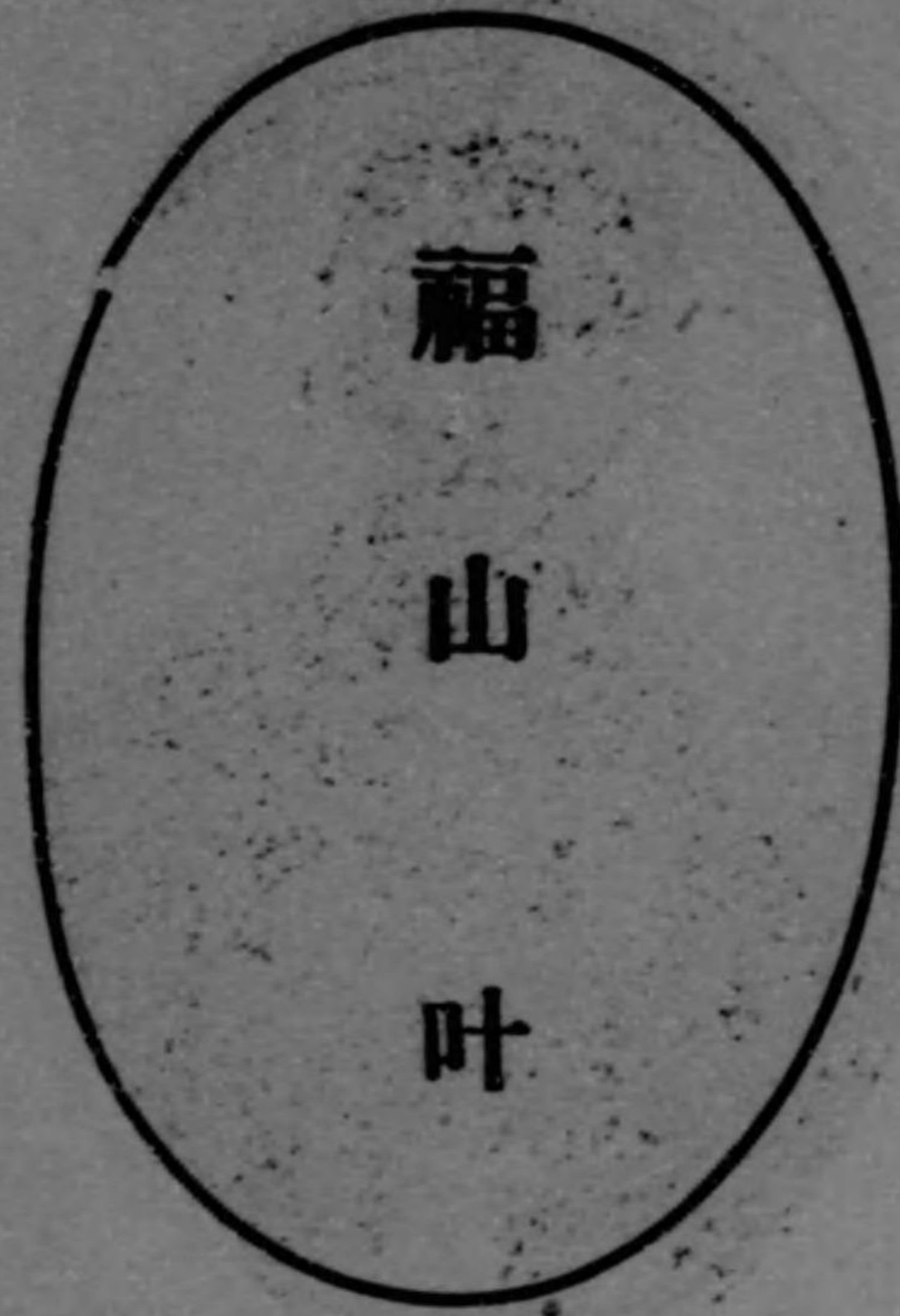


求名村 政岡詣次氏

君は明治九年一月求名村に生る、全二十三年度兒島縣逦査を拜命、警察部に勤務し全三十七年逦査部長に進みて辭し郷里に歸りしが、大正二年一月求名郵便局長に就任爾來通信事務に従事し、大正十三年八月勳八等瑞寶章を下賜せられたり、大正十一年村會議員に擧げられ土木委員たり。

求名村 福山叶氏

君は明治十九年七月二十日求名村に生る、小學卒業後復々負ふて宮崎に到り宮崎縣立宮崎農學校獸醫科に入り全三十八年卒業して歸郷直ちに開業畜産業に力を盡す、青年會長に擧げられ、分村前の宮之城町會議員たりしが分村後第一回村會議員選舉に當選し學務委員に推され教育振興には特に努めつゝあり。

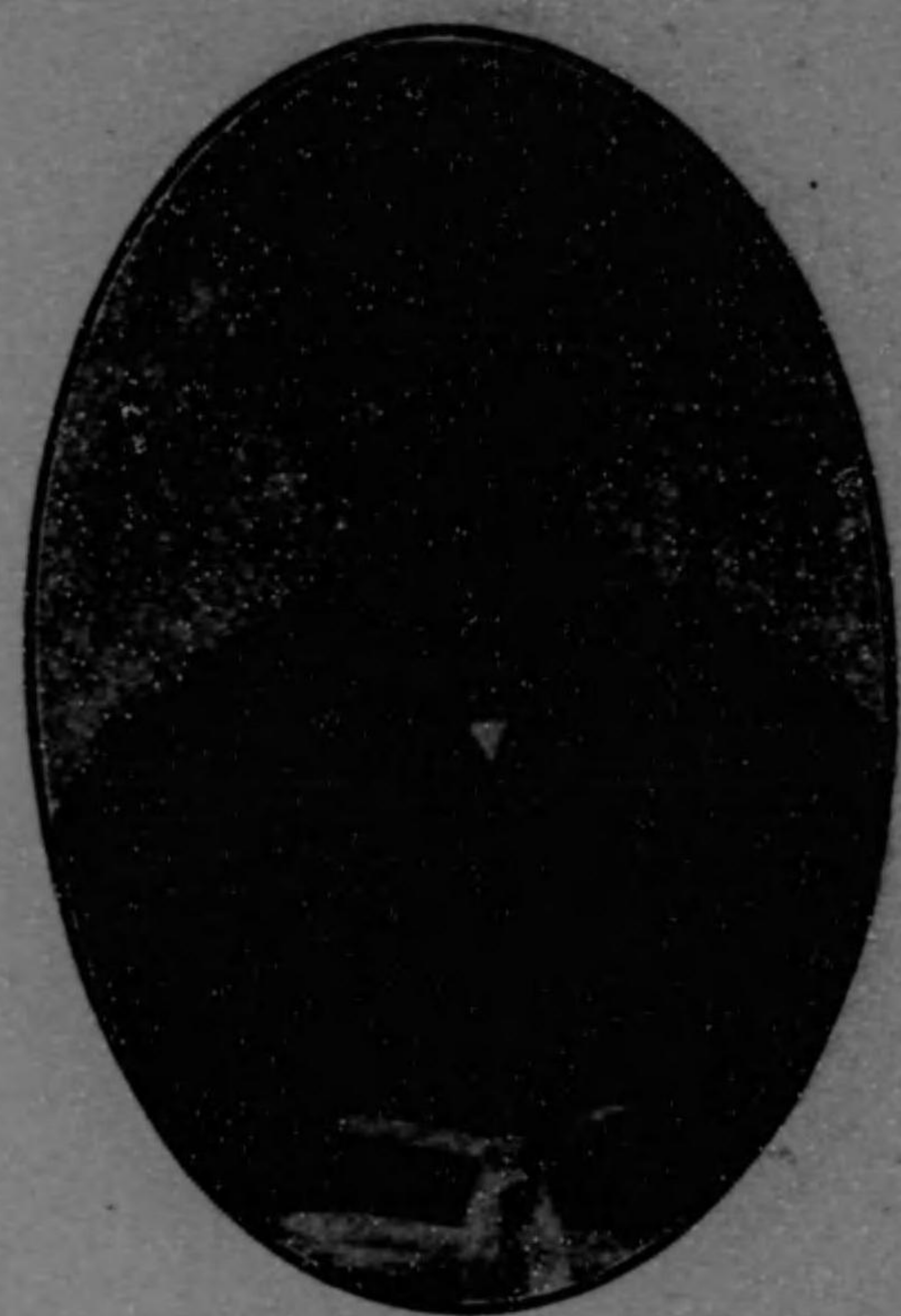


◎求名村

福山 叶



◎求名村



求名村 持田福之進氏

君は明治六年十二月求名村に生る、誠實にして公共的精神強  
く村民の信望厚し、全二十七年以來區會議員、報効農事小組  
合長たること數回、全三十九年宮之城村會議員となり全村町  
制實施に功勞あり、また求名村分村にも多大の功あり、大正  
十一年第一回村會議員に當選舉務委員として教育發展に資し  
つゝあり。

佐野 太平次

永野村長 佐野太平次氏

君は明治元年六月八日永野村に生れ、同村助役、村會議員と  
して村治に努めたりしが大正九年十一月擧げられて村長とな  
り二期を通して現任せり。

原口 慶之助

永野村助役 原口慶之助氏

君は明治十年一月二日永野村に生る、小學校訓導として教育  
界に在りしが大正十二年一月卅日同村助役に擧げられ二期を  
通して現任、また村會議員に擧げられよく村政に盡しつゝあ  
り。

◎永野村



永野村 岩下清志氏

君は明治二十四年三月一日永野村に生れ、資産家として知られたる義徳氏の養子となる、温厚篤實の士にして農業に屬み傍ら養蠶、畜産に熱心にして村民に對し斯業を奨励しつゝあり、全四十四年熊本歩兵第二十三聯隊に入營、大正二年滿期歸郷す、大正十四年村會議員に當選し土木委員たり。

永野村 三浦能助氏

君は明治九年一月十八日永野村に生る、小學校卒業後鹿兒島市博約義塾に入り全二十九年卒業し、全三十一年村役場に入りて書記となり全三十七年収入役に就任し、大正元年辭す、大正七年村助役に擧げられ、全十一年迄就任し、國勢調査員村農會議員たり、大正二年より村會議員たる事四期にして村治向上に努めつゝあり。

三浦能助

黒木村長 村原孫七氏

君は明治五年一月一日黒木村に生れ、同村助役として、村民の信望を得、大正十四年五月十九日同村々長に當選し村政刷新を計りつゝあり、尙ほ村會議員たり。

黒木村助役 福永東一氏

君は明治十四年十月二十二日生れにして、温厚篤實村民の信頼厚く大正十四年六月同村助役に擧げられ能く村政を補佐して村治の向上に努めつゝあり。

村原孫七

福永東一



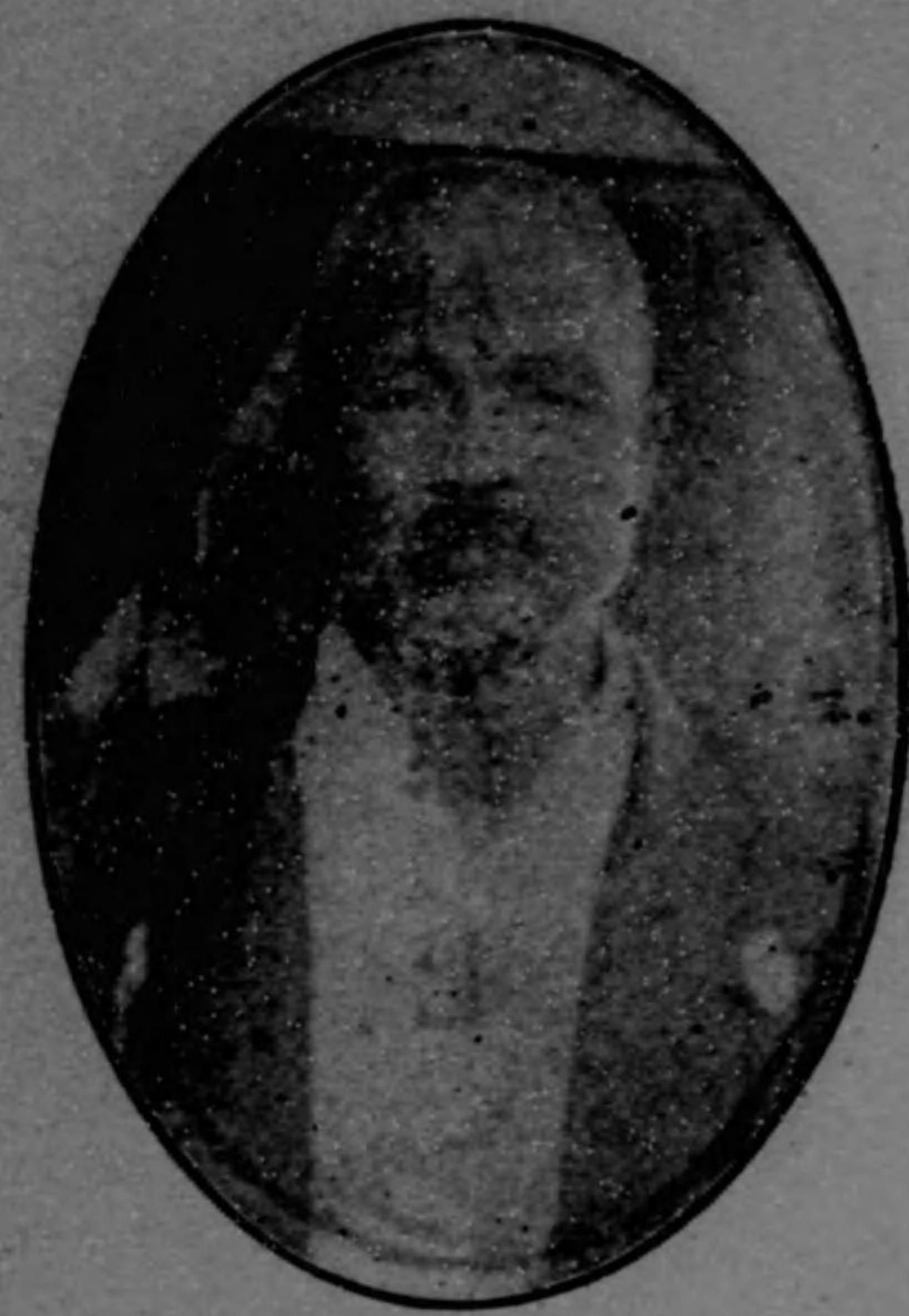
◎黒木村



黒木村 竹下清太郎氏

君は明治九年二月黒木村字麓に生れ、小學校卒業後は父祖の業を継ぎて農事に勵み、村農會議員、報効農事小組合長に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

黒木村 元山仲一氏



君は明治九年十一月黒木村字麓に生る、神職を勤む、衛生組合長、報効農事小組合長、農會議員に擧げられ官有林巡視員として三十ヶ年を務む、大正二年、全六年、全十年、全十四年の四期村會議員に當選し村治に貢献する處少なからず。

宮里正治

大村々長 宮里正治氏

君は明治十二年三月二十二日大村に生れ、村役場書記より助役に選ばれ、大正十一年十一月村長に當選し二期を通して現任し献身的に村治の刷新を計りつゝあり。

有馬秀光

大村助役 有馬秀光氏

君は明治十八年三月十七日大村に生れ、村役場書記より收入役となり、大正十二年三月助役に擧げられよく村治の向上に盡しつゝあり。

◎大村



○大村

別府万次郎

君は明治六年六月大村字上手に生る、村治功勞者として知られ嘗ては縣より表彰されし事あり、大正十四年村會議員に擧げらる村民の信望厚し。

大村 別府万次郎氏

千竈源助

君は慶應二年八月大村字下手に生る、煙草耕作組合長として多年斯端に盡し、區長代理たる事前後三回、大正十四年村會議員に當選し村治に盡しつゝあり。君は温厚篤實を以て知らる。

大村 千竈源助氏

大村 高橋四郎太氏

君は万延元年十一月大村字上手に生る、明治二十二年村制實施と共に選ばれて村會議員となり、次で全村役場に書記として十數ヶ年を勤め、全三十四年以來引續き村會議員に當選し村治に貢獻せし處大なり、また全四十年耕地整理委員長に擧げられて能く其の目的を完成したり。

大村 中尾東陽氏

君は文久三年四月大村下手に生る、良國手として一般に識られ殊に患者に對する懇切丁寧なれば其の信用特に加わる、目下村會議員として村の自治に精進しつゝあるが會つては郡會議員として二期に亘り能く其の任を果たし、又た縣會議員として縣政に參畫する所あり縣參事會員にも擧げらる、君の専門の醫術界に於ては薩摩郡の醫師會長に擧げられ、縣醫師會の副會頭となる等斯界に盡す所又た鮮少ならず。



○大村



○大村

豆ヶ野 八十八

大村 豆ヶ野 八十八氏

君は明治二年八月大村字下手に生る、幼少の頃より父祖の業を承けて農事に屬み、家運の隆昌を計ることに餘念なかりき大正十四年を以て二回村會議員に當選せり。

大村 有馬 質氏

有馬 質

君は明治八年九月大村字下手に生る、性質實剛健にして久しく小學校訓導として教鞭を執り、目下産業組合の理事にして尙ほ殖産銀行大村代理店を經營し地方金融の圓滑を計りつゝ、あり、村會議員に當選すること二期よく村政に盡せり。

才口 與助

大村 才口 與助氏

君は明治十一年十一月大村字上手に生る、小學校卒業後は父祖に従ひて農事に屬む、後村農會議員に擧げられ、今又た村會議員として村治の向上に意を用ひつゝあり。

○大村



税所直俊

蘭牟田村長 税所直俊氏

君は明治十七年八月十五日蘭牟田村に生れ、収入役より助役に擧げられ大正十一年八月村長に當選し二期を通して現任せり。

平原信夫

蘭牟田村助役 平原信夫氏

君は明治十六年一月八日同村に生る、村役場書記として久しく勤務し温厚にして明敏なるを以て村民の信望厚く大正十一年九月助役に擧げられ村治に努めつゝあり。

蘭牟田村 西村速夫氏

君は慶應二年四月二十日蘭牟田村に生る、區長、小組合長、郡答院地方産馬組合書記、全組合蘭牟田村支所長に就任し、村役場書記及び収入役たる事五ヶ年にして大正九年村産馬組合理事となり現任し、大正二年、大正十年、全十四年の三期村會議員に當選せり、君は熱心なる造林家として知られ村有林七百餘町歩の植付などは君の與るところ大なるものなるべし、傍ら精米業を営めり。



蘭牟田村 押領司 忠氏

君は慶應元年五月二十四日蘭牟田村に生る、明治二十三年村地所調査員となり、全二十二年鹿兒島市に出て養蠶並に製糸の講究をなし、全二十四年村立蘭牟田製糸場、米穀検査員となり、全二十七年村有米金取扱員たること一ヶ年辭して約十ヶ年相良家の帳簿整理に従事し、後區長となる、村不要存置調査員に擧げられ、明治四十二年、大正四年、全六年、全十四年の四期を村會議員に當選したり、明治四十四年より今日迄て引續き村農會議員として現任せり、令息は東京齒科醫學專を卒業し目下東京にて齒科醫開業中。







蘭牟田村 門脇辰二氏

君は明治二十七年四月八日蘭牟田村豊實氏の長男に生れ、農  
業を営む、大正三年熊本騎兵第六聯隊に入營上等兵に進み  
て大正六年滿期歸郷す、在郷軍人分會班長、世話人に擧げら  
れ在郷軍人分會副會長、衛生組長、村農會議員に現任し大正  
十四年村會議員に當選せり。

金丸厚見

君は明治十六年一月十六日蘭牟田村に生れ、農業を営む、  
報効農事小組合長、世話役、土地調査員、山林整理委員等に  
擧げられ地所測量の講習を受け明治三十六年より七地調査に  
従事し地目變更、山林整理等をなすに勉む、大正十年村會議  
員に當選し、全十四年再選さる。

蘭牟田村 金丸厚見氏

山元直助

君は明治十年二月七日蘭牟田村山元貞利氏の長男に生れ、資  
性温厚小學校卒業後は鹿兒島博約義塾に學び全三十年東京警  
視廳巡查を拜命し、全四十一年辭して歸郷す、大正十一年薩  
摩郡々會議員に當選し、村會議員たる事大正六年より三期に  
亘り現在に至るまで引き續き自治の爲めに努力せり。

蘭牟田村 山元直助氏

蘭牟田村 小島敬介氏

君は明治九年十二月十九日蘭牟田村山口家に生れしが小島市  
之進氏の養子となる、全二十九年熊本聯隊に入營全三十一年  
二等軍曹に進み大隊書記となり、全三十二年一等軍曹に進み  
滿期歸郷す、日露役には出征し全三十八年砲兵曹長となり全  
三十九年歸郷功に依り勳七等青色桐葉章並に一時金三百圓を  
下賜さる、在郷軍人分會長、世話役、報効農事小組合長に擧  
げられ産業組合理事、同村農友會長、村農會議員等に現任し  
大正十四年村會議員に當選せり、尙君は傍ら柑橘を栽培して  
村民にその有利を説き奨励しつつあり。





○蘭牟田村

相良直也

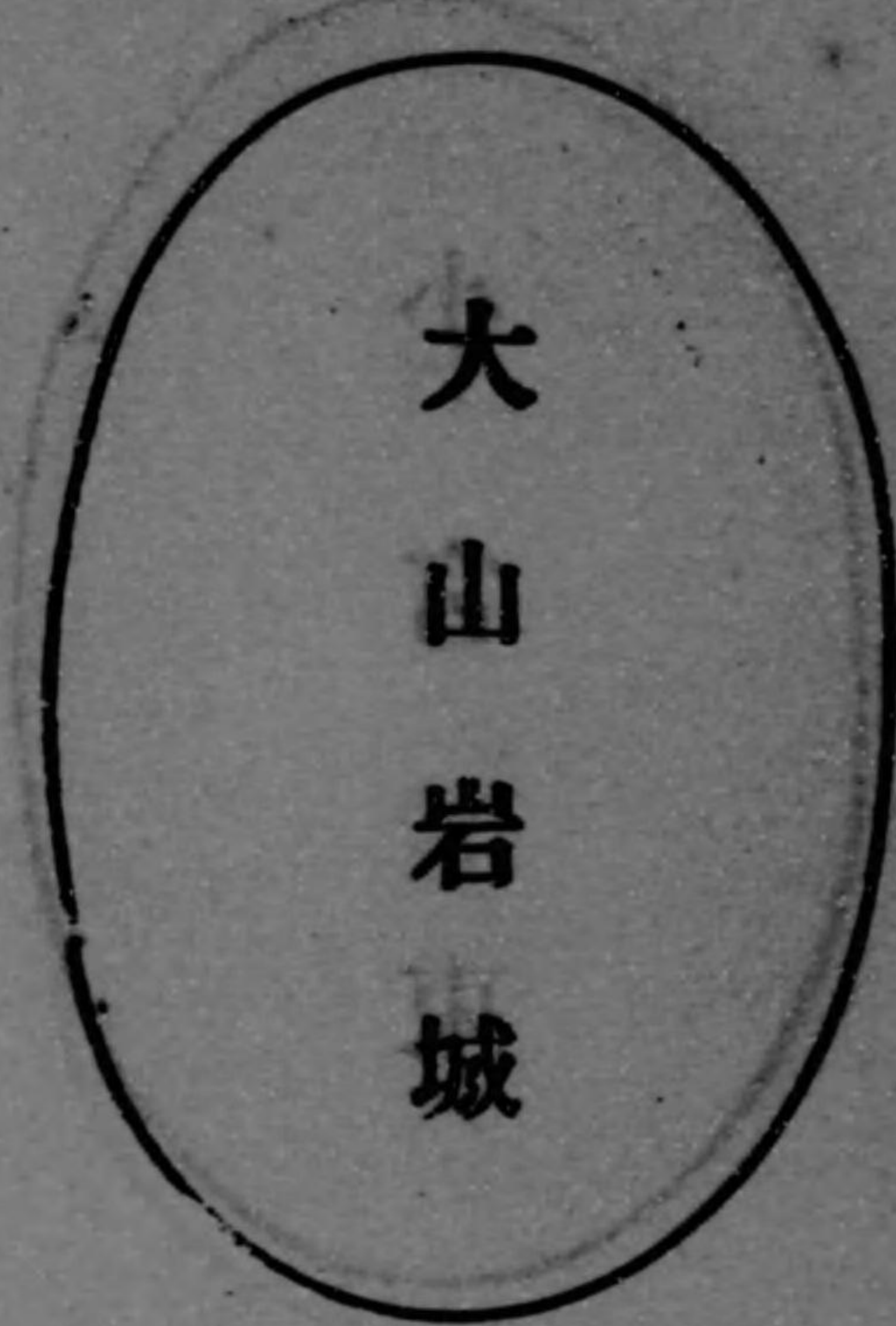


蘭牟田村 相良直也氏  
君は明治十七年四月五日蘭牟田村に生る、代々醫業にして資産家を以て知られたる長年氏の長男なり、醫學研究のため獨立學教會に入りて學び京都府立醫學專門學校に入り、大正元年卒業し大正二年一年志願兵として熊本聯隊に入營し、大正三年歸郷して開業今日に及べり、産業組合理事に現任し、大正十年全十四年の二期村會議員に當選し村治に盡しつゝあり。

蘭牟田村 湯之上 藏之助氏

君は明治二十年三月二日蘭牟田村に生る代々農を業とするも家計裕かならずして生計意の如くならずしが精勵の結果そのものゝ如き君はよく難苦に耐え奮闘の結果今日をなしたり全四十年熊本工兵第六大隊に入營し、全四十三年滿期歸郷す同時に報効農事小組合長に擧げられ、區長、農會議員を経て大正十四年村會議員に當選せり。

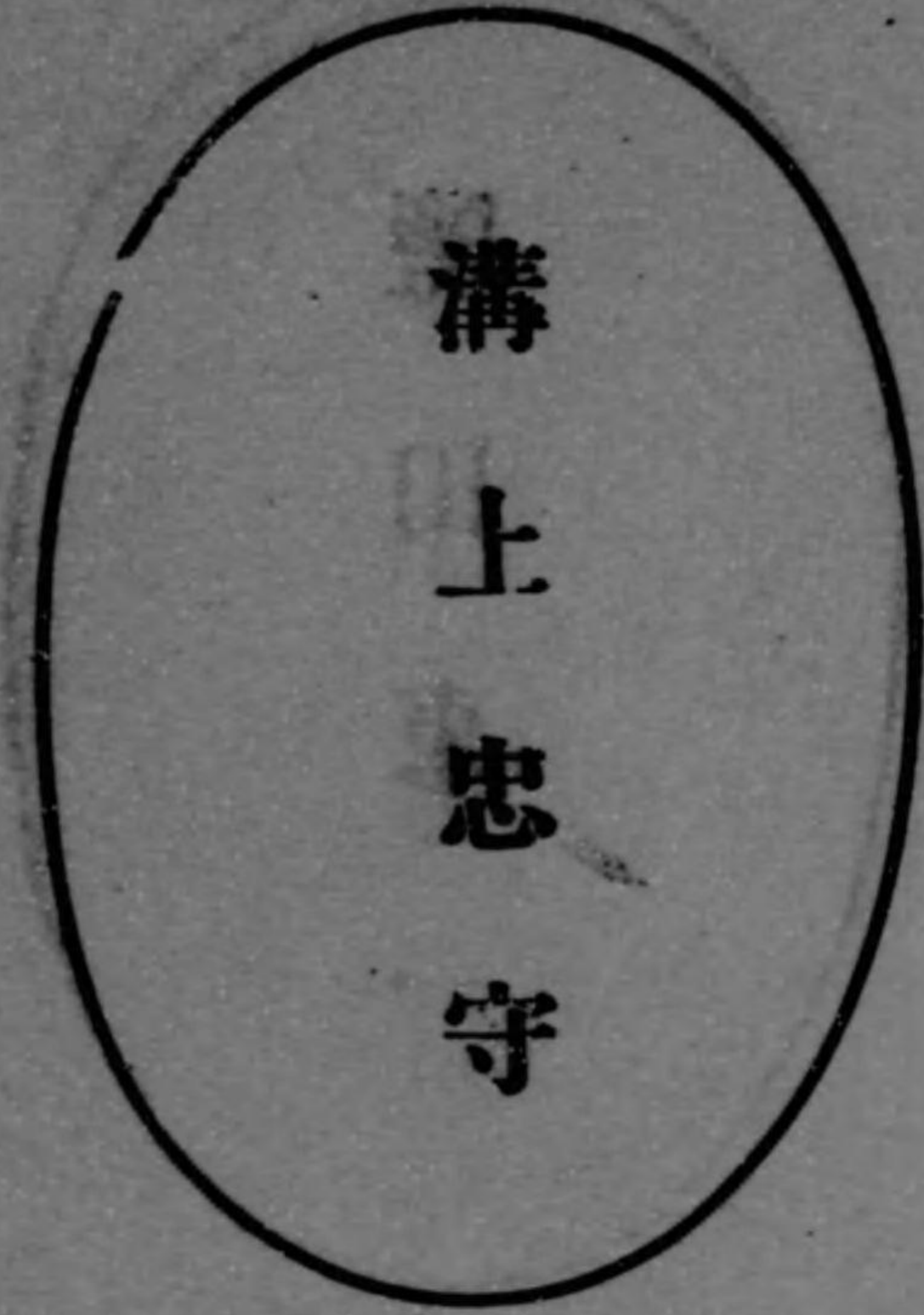
大山岩城



里村々長 大山岩城氏

君は明治二年六月十九日生れにして、小學校訓導として教鞭を執り學務委員たりしが大正十年九月全村長に當選し、二期に亘り選ばれて現任し村治に貢献する處尠なからず。

溝上忠守



里村助役 溝上忠守氏

君は明治三年八月三日下飯村に生る、收入役たりしが大正四年七月選ばれて助役となり三期通して現任せり。

○里村



○上飯村

鹽田 東一

上飯村長 鹽田 東一氏  
君は明治三年五月十五日上飯村に於て生る、小學校授業生として教鞭を執り居たりしも後、賀縣巡查を拜命し、本縣巡查となり、郡會議員に當選し中飯郵便局長、水産組合理事たりしが明治三十八年より四十三年迄村長に擧げられ大正十四年再び村長に當選村政刷新を計りつゝあり。

小宮 東

上飯村助役 小宮 東氏  
君は明治二十三年五月六日上飯村に生れ、兵庫縣及本縣巡查たる事久しく辭して後村役場書記となり大正十一年一月同村助役に推薦せらる。

下飯村長 江夏實英氏

君は明治十三年五月四日下飯村に生れ通信局書記たる事久しく、同村助役を経て大正十二年十二月村長に當選村治に努めつゝあり。

下飯村助役 橋口精熊氏

君は元治元年六月二十日下飯村に於て生れ、大正十四年四月十五日同村助役に擧げられ村長を補佐して村政の向上を計りつゝあり。

橋口 精熊

○下飯村





◎平佐村追加



平佐村 淵上源次郎氏

君は明治二年七月十八日平佐村に生る、小學校を卒へ農業に従事し居たるが其の丁年に達するに及び海兵を志願して其の希望を達し海軍に従事するもの多年除隊歸郷の後は再び農業を勵みしが終に區長、青年會長、衛生組長、農會議員等に推されて其の任を完ふす、大正十四年村會議員に當選、自治の爲めに努力し居れり

平佐村 下脇藤次郎氏

君は明治十九年十一月二十日平佐村に生る、小學校を卒業してのちは専ら農業に従事したるが區長、青年會長、農會議員、衛生組長等に任してよく其の任を果す、大正十四年村會議員に當選、村治の向上發展に對し特に留意する所ありて大に奮闘す



◎平佐村追加

平佐村 餅原孝之助氏

君は慶應二年正月二十七日平佐村に生る、曾つて全村役場書記として事務に執掌し其の職務に熱心なる事は夙に一般の認むる所なりしが辭任後は農事にいそしみ且つ各方面の事業に當りよく其の任務を遂行したり、大正十四年村會議員の改選に際り多數にて當選す尤も君は議員としては屢次之に任じ自治の爲め盡す所少なからず。

平佐村 陶山次郎吉氏

君は明治二十年十二月十六日平佐村に生る、小學校を卒業して後は養蠶業に従事し夙に優良の成績を收めつゝあり、目下蠶種の製造販賣を業とし盛大に其の經營をなす、養蠶組合職員、蠶種業組合職員、區長、青年會長等に任じよく其の任務を果す、大正十四年村會議員に當選、自治の爲めに奮闘しつゝあり

陶山次郎吉

出水郡



出水町

町長 藤目直治氏  
 助役 竹添長養氏  
 議員 伊藤祐祥氏  
 池田敬輔氏  
 堀岩次郎氏  
 遠竹孫右衛門氏  
 遠矢善助氏

小田原秀雄氏  
 萩原政廣氏  
 脇田仁之助氏  
 川口權平氏  
 吉川健次氏  
 田頭喜三氏  
 中川幸市氏

野間口猪太郎氏  
 野間口榮吉氏  
 窪助次郎氏  
 籠瀬市郎右衛門氏  
 山口彌九郎氏  
 丸尾政右衛門氏  
 松原市太郎氏

松永九右衛門氏  
 前田次郎助氏  
 真崎少一郎氏  
 坂元卯一氏  
 志賀龜彦氏

米之津町

町長 鳥飼慶四郎氏  
 助役 山元猛二氏  
 議員 飯尾榮助氏  
 岩元清信氏  
 石塚新右衛門氏  
 原清藏氏  
 二宮留藏氏

外國勸左衛門氏  
 鳥飼道夫氏  
 遠竹重方氏  
 大堀正雄氏  
 岡部喜久三氏  
 尾上宗右衛門氏  
 高尾寅喜氏

高田伊三郎氏  
 中野喜助氏  
 奈良國藏氏  
 村川万次郎氏  
 山之城岩男氏  
 山之城道一氏  
 淵上幸康氏

榎木嘉市氏  
 加藤貞夫氏  
 佐藤精一氏  
 崎元忠助氏  
 貴島秀俊氏

阿久根町

町長 楠田正義氏  
 助役 松下成享氏  
 議員 庵六兵衛氏  
 花木仲右衛門氏

◎出水郡



◎出水郡

濱崎休三郎氏  
榎庄右衛門氏  
遠矢覺次郎氏  
富永傳右衛門氏  
大磯 廉氏  
大田七助氏  
川畑傳藏氏

神之田儀右衛門氏  
中村覺左衛門氏  
中村武吉氏  
中野彌助氏  
中野庄之助氏  
中山熊雄氏  
牟禮新太氏

村山善次氏  
黒崎小右衛門氏  
山下早次郎氏  
松永八兵衛氏  
松下成享氏  
馬見塚清治氏  
福田十助氏

藤園七左衛門氏  
兒玉藤吉氏  
兒玉利和氏  
坂元静治氏  
湯田七郎左衛門氏  
盛永傳太郎氏

野田

村

村長 石澤盛雄氏  
助役 橋口純介氏  
議員 井上徳次郎氏  
今村清次郎氏

池田己之助氏  
西長助氏  
鶴田源兵衛氏  
來仙平太郎氏

山上勘左衛門氏  
前田八左衛門氏  
小園善助氏  
小村源四郎氏

坂元清助氏  
木山十一氏

高尾

野村

村長 伊牟田龜壽氏  
助役 岩永龜一郎氏  
議員 茨木仲之助氏  
池田瀬七郎氏  
橋元傳次氏

本城真吉氏  
鳥丸慶一氏  
富吉佐一郎氏  
千々岩春藏氏  
小山彌八郎氏

段原元輔氏  
土山榮藏氏  
鶴田壯一氏  
移迫十助氏  
天辰淺右衛門氏

安樂武次氏  
白濱常秋氏  
清水清助氏  
下田仙藏氏  
東島善藏氏

三笠

村

村長 宮原貫雄氏  
助役 柏木戸之進氏  
議員 石原隼人氏  
八郷仁助氏  
早水岩助氏

濱之上進氏  
西田戸次郎氏  
川口正八氏  
樫八重敏憲氏  
平万次郎氏

永山吉次氏  
野崎仁左衛門氏  
山村直美氏  
湯田慶氏  
三原藤次氏

宮原貫雄氏  
白濱多助氏  
島屋太次郎氏  
平松福氏

東長島

村

村長 木ノ上順市氏  
助役 竹之内英之丞氏  
議員 飯尾暉備氏  
岩内太助氏  
岩下駒之助氏

橋口喜三郎氏  
上藤七氏  
上實俊氏  
垂門助次郎氏  
竹ノ内榮之丞氏

中村善之助氏  
長岡四郎左衛門氏  
長野直治氏  
浦上安之助氏  
浦長次郎氏

兒島英盛氏  
阿多清顯氏  
宮内盛雄氏  
宮山市郎氏  
宮崎亮氏

西長島

村

村長 飯尾市次氏  
助役 豊田直衛氏  
議員 飯尾鉄彌氏  
遠矢孫一郎氏  
千龍清一郎氏

大川寛氏  
横道助市氏  
中野正登氏  
南條甚二郎氏  
向芳之助氏

宗方慶二氏  
黒田直衛氏  
山口戸兵衛氏  
兒玉芳助氏  
小城吉次氏

兒島休助氏  
桐野清二氏  
湯田伊之助氏  
本村直之氏

◎出水郡



◎出水郡

大川

村長 小原有徳氏  
助役 宮内又次郎氏  
議員 斐川清氏  
原 仁八氏

内村

帆北英助氏  
遠竹與一郎氏  
豊田猪八氏  
金丸信助氏

田島助十氏  
中山良秀氏  
長山榮吉氏  
山床武助氏

有村才次郎氏  
森仙二郎氏

斑目直治

君は明治五年三月十六日出水町に生る、小學校教員たる事久しくして町役場に入り助役に擧げられ、大正十三年十二月同町長に當選爾來町政の向上を計りつゝあり。

出水町長 斑目直治氏

竹添長養

君は明治十年六月六日出水町麓に生る、出水郡書記より十五銀行川内支店出水出張所員たりしが、大正十四年同町助役に推薦され町長を補佐して町政の刷新を計りつゝあり。

出水町助役 竹添長養氏

◎出水町



◎出水町

池田敬輔

君は明治二十年三月十日出水町上鯖淵に生る、出水小學校卒業後は農事に勵み、副業たる煙草作に向つて熱心研究を怠らざり耕作者の範をなす、のち青年會長、報効農事小組合長、煙草耕作組合總代、專賣局出水出張所評議員等に擧げられ、又出水澱粉株式會社專務取締役、出水製材株式會社監査役となひ、大正九年町會議員に當選し大正十三年再選さる。

出水町 池田敬輔氏

堀岩次郎

君は明治七年十二月出水町武本に生る、小學校卒業後は同町神田呉服店に入り、實直にして勤勉なれば主人の信頼厚く三十年より呉服部の擔當者として銳意その繁昌策を講じ現在の隆昌を見るに至れり、公設消防副組頭より組頭となり、大正十四年町會議員に當選せり。

出水町 堀岩次郎氏

出水町 荻野政廣氏

君は明治九年三月十九日熊本縣葦北郡水俣の丁嘉傳家に生れ荻野家を相續せし人、幼時伊佐郡葦刈小學校に學び、熊本醫學專門學校を卒業し大正二年現住地に城山堂病院を開く郡醫師會代議員、全理事、縣立出水中學校々醫、出水町衛生組合長、上鯖淵小學校後援會長に現任し大正十三年町會議員に當選せり。

出水町 川口權平氏



◎出水町

君は明治十八年十二月出水町武本に生る、小學校卒業後は専心農事に勵み餘念なく日露の役に補充兵として出征し、歸定と同時に歸郷す、報効農事小組合長、宇都之野世話人、國勢調査員等に擧げられ大正五年より引續き三期町會議員として當選し、煙草耕作組合評議員山林委員たり。



○出水町



出水町 吉川健次氏

君は明治十七年熊本市京町に生る、熊本九州學院に入りて學びしが都合に依り三年修業と共に退學し、九州日々新聞社發送部主任となり、全四十四年同社より出水通信販賣部主任として派遣され郡内一圓に亙りて活動し、大正五年鹿兒島朝日新聞社出水支局を擔當し後大阪朝日、大阪毎日兩新聞の出水通信販賣部を經營し同地方に於ける斯業權威者として知られ各觀光團等を組織して世相の普及を計る、大正十三年町會議員に當選し町政に努めつゝあり。

出水町 野間口 佐太郎氏

野間口 佐太郎

君は明治四年五月十五日出水町に生れ、出水小學校卒業後長崎醫學校に入學せしも病氣の爲め退學し煙草專賣局技手となり明治三十一年より十八年餘其職にあり、大正五年町農會長兼煙草耕作組合長となり大正十一年に至り、大正八年郡會議員及び全參事會員となり女學校建設に對しては其の功績るべきものあり、大正九年町會議員に當選し引き続き現在に至り能く町政に努力しつゝあり、其の他農會副會長小學校後援會長、信用組合長等に擧げらる、君は五男三女あり長男は第一師範學校卒業後全校附屬訓導、次男は川内中學校卒業後目下旅順工科學堂に在り三男四男は出水中學在學中なり。

窪 助次郎

出水町 窪 助次郎氏

君は明治五年八月二十四日出水町上鯖淵に生る、上鯖淵小學校卒業後は農業に勵み傍ら精米業を營む、軸谷信用組合監事全理事、國勢調査員、町農會議員等に擧げられ大正十三年町會議員に當選し、山林委員たり。

出水町 築瀨市郎右衛門氏

君は明治十四年一月一日出水町利助氏の長男に生れ、出水小學校卒業後鹿兒島博約義塾に入り明治三十八年卒業し福岡縣巡查拜命、勤績五ヶ年辭して歸郷、區長、青年會長、出水産業組合幹事となり大正七年には全町より推されて高尾野耕地整理組合出水代表者となり大正十三年十一月町會議員に當選現任し町政に努力しつゝあり、尙君の父利助氏は町制實施以前村會議員として大いに功ありし人なり、君は二男三女あり長男は出水中學校在學中君は農事の外副業として熱心に養蠶業を營めり。

○出水町



◎出水町



出水町 山口彌九郎氏

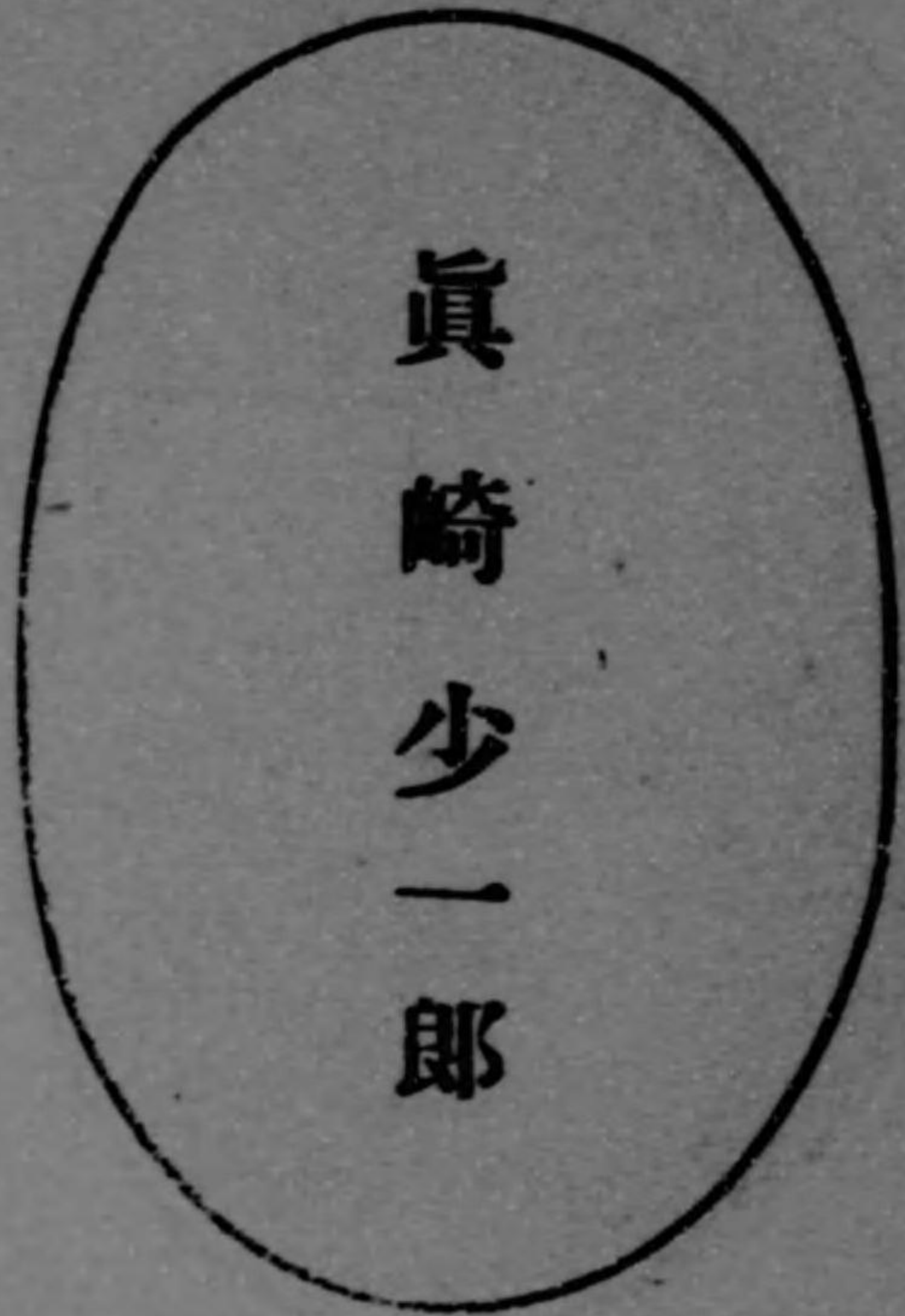
君は明治七年六月十六日麓に生る、小學卒業後縣立鹿屋農學校に入り卒業後は出水郡書記として奉職大正三年辭す、全年出水郡會議員に當選し副議長となる、大正七年再選さる大正五年、全九年、全十三年の三期町會議員に當選し學務委員たり。

出水町 丸尾政右衛門氏



君は慶應三年八月三十日出水町上鯖淵に生れ、出水小學校に學び父祖の業を繼ぎて農業を勵み、明治三十年出水村役場書記となり全三十九年辭す、全三十九年、大正元年、全五年、全九年、全十三年の四期町會議員に當選し、軸谷信用組合理事より組合長となり大正十三年辭す、町會議員としては土木委員に選ばれ、又た衛生組長合にも現任せり。

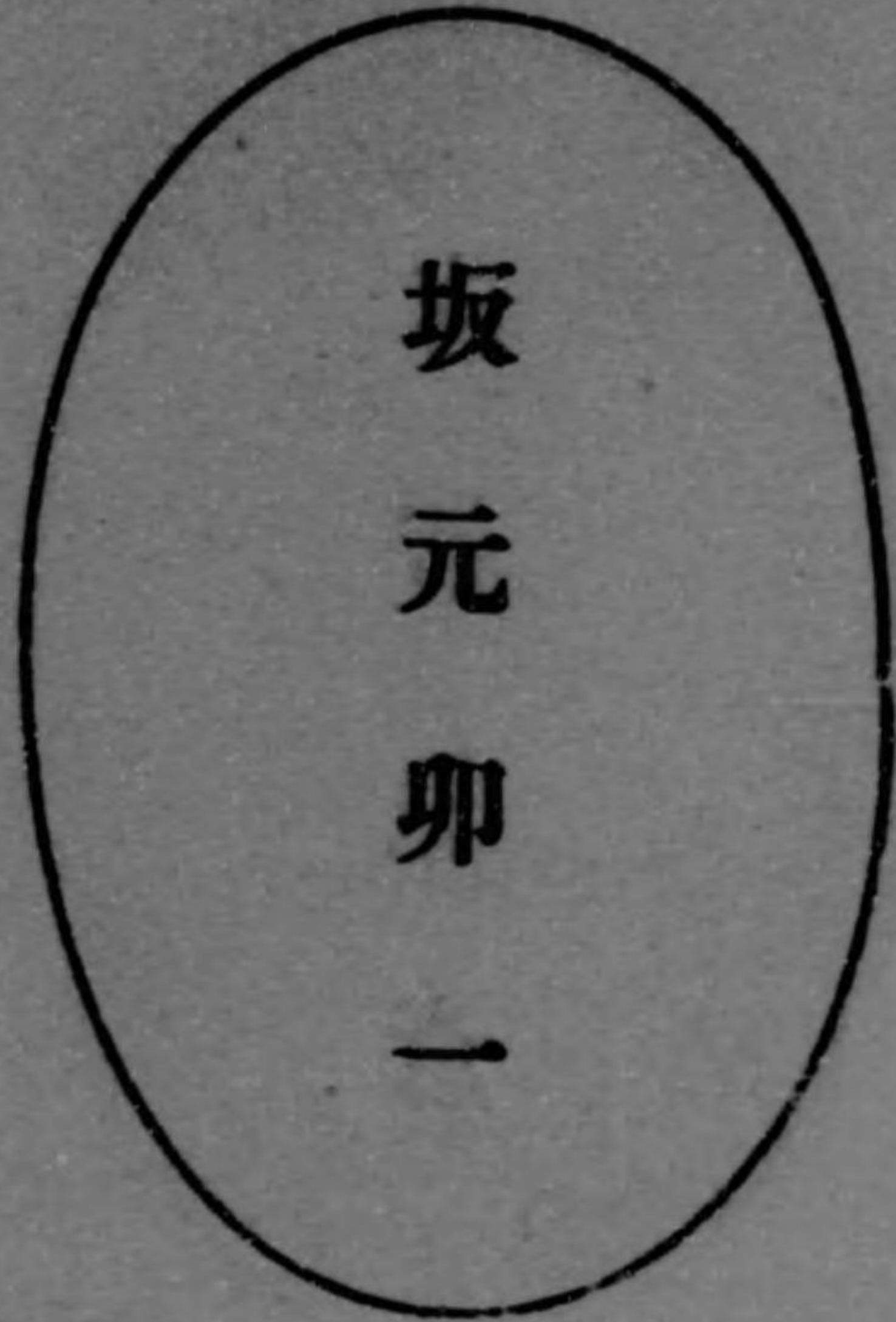
眞崎少一郎



出水町 眞崎少一郎氏

君は明治十年三月二十日出水町武本に生れ、出水小學校卒業後は博約義塾に學び檢定試験に合格して教員となり、上鯖淵上知識、丸塚、出水の各學校に教鞭を執る、大正元年辭す、西ノ口信用組合長にして大正五年、全九年、全十三年の三期町會議員に當選し學務委員、土木委員に選はる出水町衛生組合副組長に現任す尙ほ君は、大阪法曹界の花形として知られたる木場悦齋氏の令兄なり、

出水町 坂元卯一氏



坂元卯一

君は明治二十三年一月五日出水町武本市右衛門氏の長男に生れ、出水小學校を卒業し、區長、世話役たる事前後三回に亘る小組合長、衛生副組長、煙草耕作組合委員、小學校後援會役員等に擧げられ大正十三年町會議員に當選せり、君は三男三女あり、長男は出水中學校在學中。

◎出水町



◎出水町

志賀龜彦

君は明治八年四月出水町籠に生る、出水小學校卒業後は友を負ふて上京遊學すること久しく學を蠶業に修めて歸郷し、出水製糸場に入り勤務せしが大正五年全製糸場を自己經營となし、大正九年株式会社薩摩製糸に併合す、大正九年、大正十三年の兩度町會議員に當選し、學務委員、養蠶組合長、道路委員、財政委員等に現任、君はまた政友本黨鹿兒島支部幹事なり。

出水町 志賀龜彦氏

鳥飼慶四郎

米之津町長 鳥飼慶四郎氏

君は明治元年二月六日米之津町下知識に生る、本縣師範學校出身にして高尾野校に奉職する事久しく出水尋常高等小學校訓導兼校長に轉し、全四十三年日置郡書記となり、四十四年薩摩郡役所に轉任し、大正十一年五月川邊郡長に昇進、全十三年辭して歸郷、全十四年米之津町長に就任せり。

米之津町助役 元山猛二氏

君は慶應二年四月二十日米之津町下鯖淵に生れ、出水小學校を卒業し明治十九年長崎縣巡查を拜命し全二十五年山梨縣に轉じ全三十年辭して歸郷直ちに中出水村役場に入りて書記となる、全三十三年七月常務學務委員に擧げられ大正元年辭し大正二年再び村役場書記となり大正十四年米之津町助役に推薦せらる。

元山猛二

◎米之津町



◎米之津町



米之津町 飯尾 榮助氏  
君は明治十一年八月十一日米之津町下鯖淵に生れ、中出水小學校を卒業し、全二十九年中出水小學校履教員となり全三十一年辭して出水葉煙草收納所に入り全三十四年中出水村役書記となる、日露の役に補充兵として召集され出征せしが中途病に犯されて除隊歸郷す、日本窒素肥料會社水俣工場書記として約八ヶ年勤務し、明治四十三年、大正二年、全十年、全十四年の四期町會議員に當選し土木委員たり。

米之津町 岩元 清信氏



君は慶應二年十二月十二日米之津町下知識に生る、出水小學校卒業後今釜小學校履教員となり三ヶ年在職、明治十九年度兒島縣巡查を拜命し長崎縣、石川縣に轉じ二十五年歸國し、全年中出水村役場書記となり全四十一年助役に擧げらる、大正二年鹿兒島專賣局出水支所に奉職、再び助役に擧げられ大正七年中出水村長に就任し大正十年辭して農會長に推さる、大正六年、全十年、全十四年の三期町會議員に當選し學務委員、下鯖淵信用組合理事米之津漁業組合理事に現任せり、君は温厚の人にして信望あり大正十二年に縣會議員選舉に公認として立候補せしが惜敗したり。

米之津町 石塚 新石衛門氏



君は明治六年十一月十日出水郡三笠村柏木に生れしが後米之津町石塚家に入りて相續す、下出水小學校に學び全二十六年熊本騎兵第六聯隊に入營し日清の役に參加し全二十九年騎兵伍長に進み滿期歸郷す、日露の役には召集され熊本留守師團に在營す、出水郡畜産組合代議員にして大正十四年町會議員に當選す。

米之津町 原 榮藏氏



君は明治十一年八月二十五日米之津町下知識に生れ、中出水小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に屬み、下村青年會長下村區長、下村私設消防組頭、農會議員、下知識信用組合評議員、下知識耕地整理組合工事監督等に擧げられ大正十四年町會議員に當選す。

◎米之津町



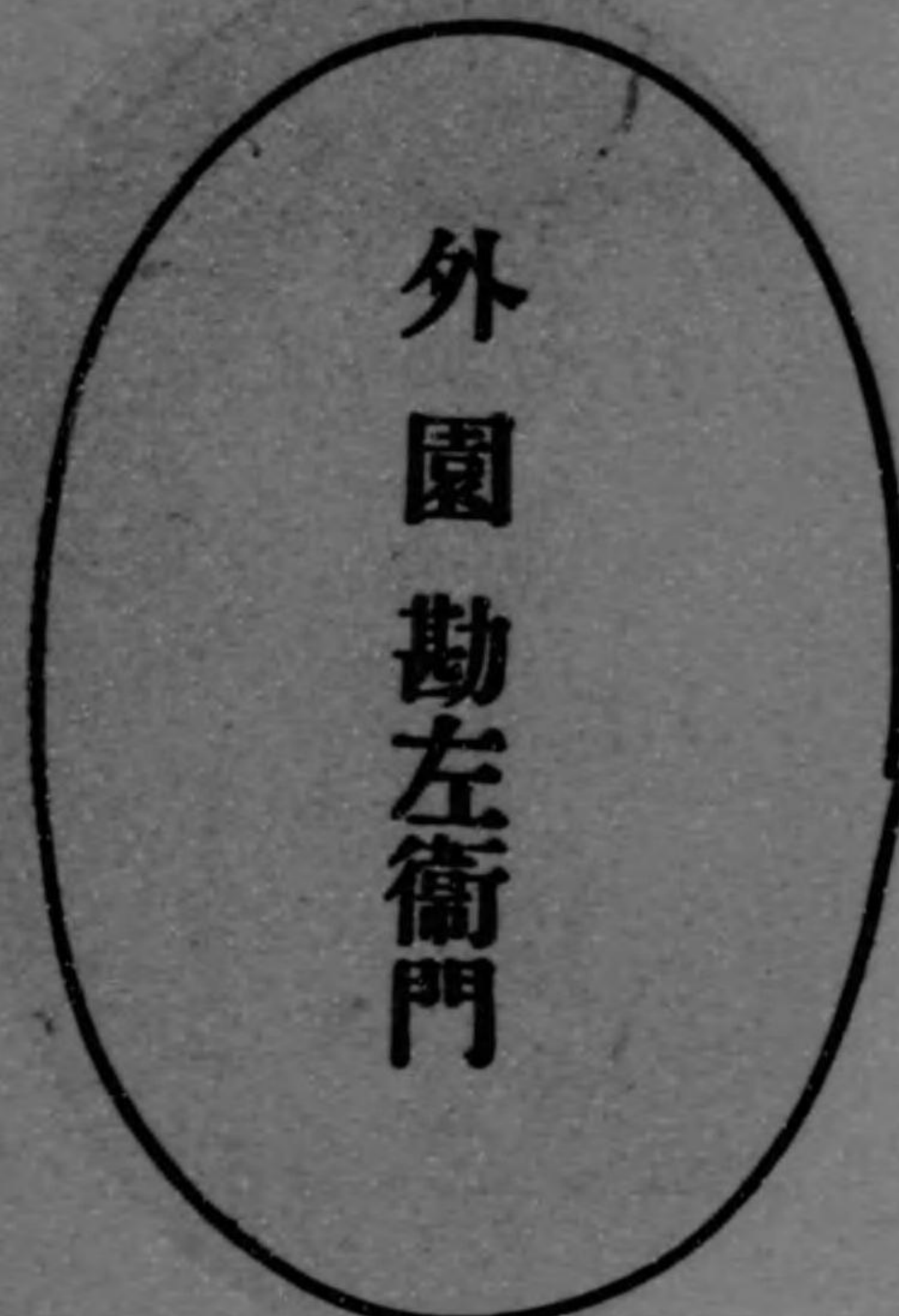
◎米之津町



米之津町 二宮 富藏氏

君は明治八年四月二日米之津町に生れ、高尾野小學校を卒業し博約義塾に學び全三十六年高尾野小學校教員となり、全三十七年鹿兒島縣尋常師範學校講習科に入り卒業後再び高尾野校に奉職、加世田校、中出水校、莊校、鶴川内校、米之津校に轉じ、大正四年辭じて家業に従事し高尾野中出水聯合耕地整理組合副組長に擧げられ、大正十四年町會議員に當選し學務委員として教育振興に努めつゝあり。

外園 勘左衛門



米之津町 外園 勘左衛門氏

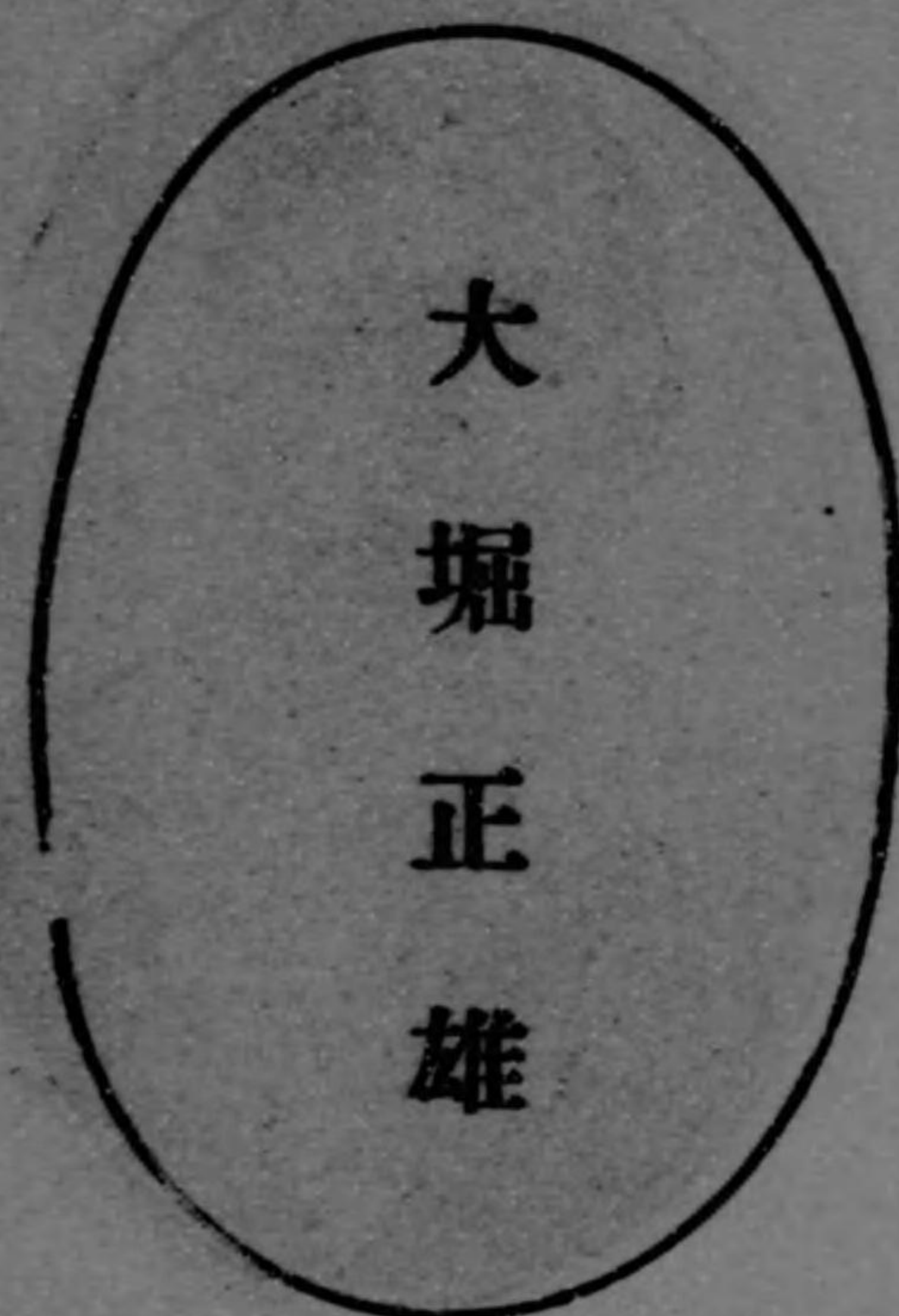
君は明治十九年七月十日米之津町下鯖淵に生る、小學校卒業後は専ら農業に勵み、朝隈青年會長、報効農事小組合長、朝隈區長、町農會議員、朝隈私設消防組頭、煙草耕作組合總代等に擧げられ大正十年、全十四年の兩度町會議員に當選し學務委員たり。

米之津町 遠竹 重方氏



君は明治二十八年四月二十八日米之津町下鯖淵に生る、鹿兒島縣立第二中學校卒業後長崎高等商業學校に入り大正七年同校を卒業し、全年名古屋に到り綿糸問屋に勤め居たりしが實兄の他界せしため歸郷し、大正八年米之津郵便局長に任命され大正十四年町會議員に當選せり、君は少壯なれど放膽細心明敏なればその將來なすあるの士として矚目され居れり。

米之津町 大堀 正雄氏



大堀 正雄

君は明治十八年九月十八日米之津町下知識に生れ、中出水尋常高等小學校を卒業後は家業に専念し傍ら養蠶に意を用ひ、福ノ江區長、養蠶組合長、國勢調査員に擧げらる、大正十四年町會議員に當選す。

◎米之津町



○米之津町



米之津町 岡部喜久三氏

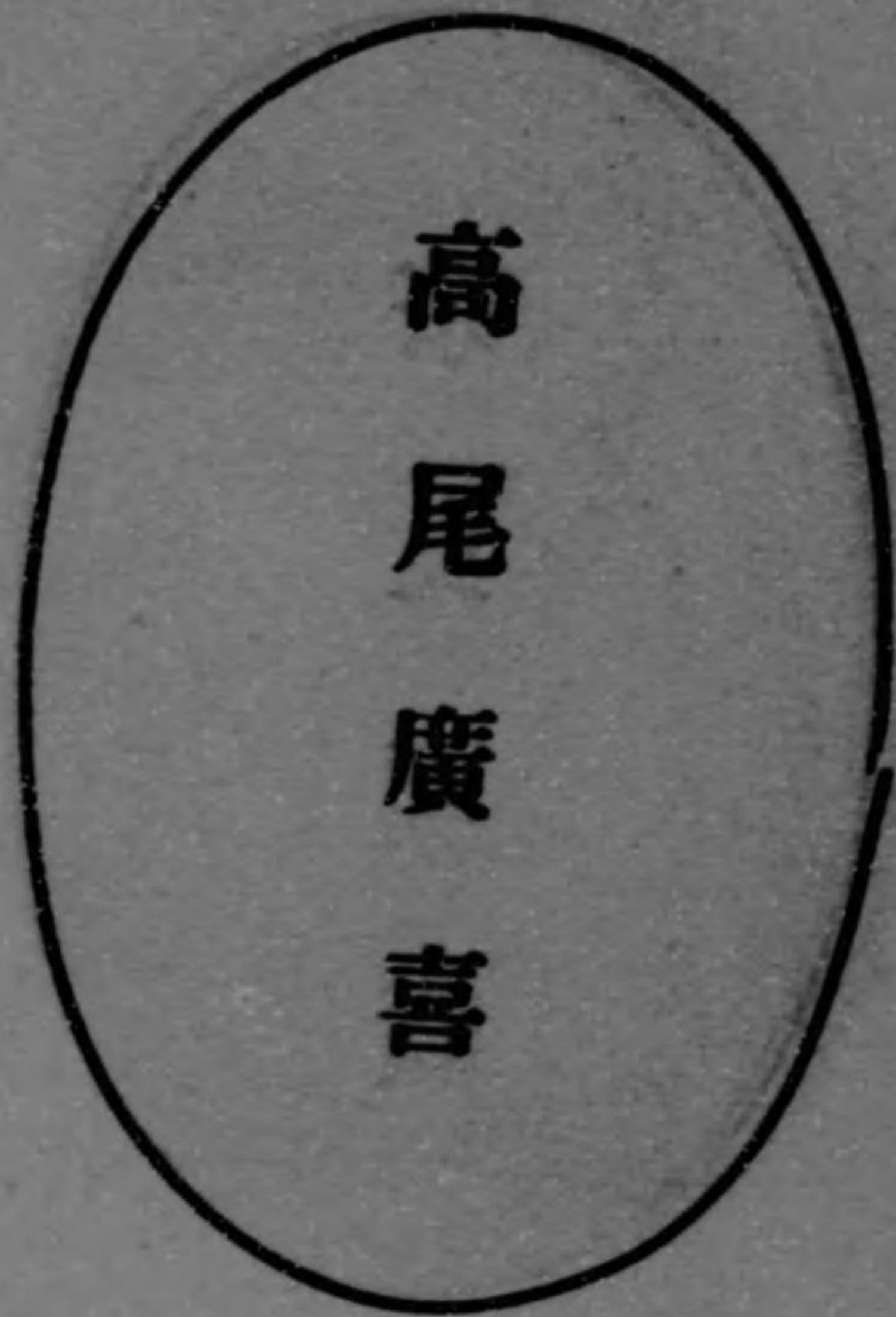
君は慶應二年十二月熊本縣天草郡龜場村に生れ、肥料商を志して現住地に移住開業せり、明治四十年三月十六日米之津郵便局設置と共にその局長となりて、大正七年迄奉職、のち上下水流耕地整理組合理事に擧げらる、大正六年、全十年、全十四年の三期を町會議員に當選し學務委員に選ばる、尙ほ君は鹿兒島肥料同業組合出水支部長、所得税調査委員たり。

米之津町 尾上宗右衛門氏



君は明治五年十二月廿八日米之津町下知識に生れ、小學校卒業後は漁業に従事す、名古屋長、名古屋私設消防組頭、米之津漁業組合理事等に擧げられ、大正十年町會議員に當選し大正十四年再選さる。

米之津町 高尾廣喜氏



君は明治二十一年八月二十一日熊本縣天草郡久武村に生れ、全二十七年現在地に轉住す、中出水小學校を卒業後米穀商を營み名護浦青年會長、漁業組合幹事、國勢調査員等に擧げられ、大正十年町會議員に當選し十四年再選さる。

米之津町 高田伊三郎氏



君は明治十四年三月二十三日石川縣江沼郡大聖寺町に生れ、縣立金澤第一中學に學び北海道立札幌中學に轉校し全三十二年同校を卒業、同年露語研究のため露國モスクワ大學普通研究科に入り全三十四年家事の都合に依り歸國す、全三十五年近衛騎兵聯隊に入營し日露戰役に出征して捕虜係を命ぜられ全三十九年滿期歸郷、勳七等青色桐葉章を下賜せらる、全年六月函館商業學校露語講師を囑託され全四十一年辭して大阪住友家に被雇銀行部、倉庫部に勤務、大正二年十月辭して關西大學法科に入り全五年同校卒業關西法學士の稱號を受け再び住友家に勤務、全七年辭して米之津莊に移住し代書業を營む、國勢調査員米之津町中部衛生組合副組長に擧られ大正十四年町會議員に當選す。

○米之津町



◎米之津町

中野喜助

米之津町 中野喜助氏  
君は明治十九年十月十二日米之津町下知識に生る、縣立鹿見島第一中學校を卒業全四十二年南米ペルーに渡りて全四十五年歸郷、大正元年一年志願兵として熊本野砲第六聯隊に入營し大正二年滿期歸郷、出水郡農會議員中部衛生組合長に擧げられ、大正八年出水郡會議員に當選し參事會員となる、大正六年、同十年、同十四年の三期町會議員に擧げられ下知識信用組合長、國勢調査員、學務委員等に任し尙ほ水産組合議員としては貢献する處あり、君はまた地方政客として重きをなし雄辯家として知らる。

奈良國藏

米之津町 奈良國藏氏  
君は明治十四年一月十五日米之津町下知識に生れ、出水尋常高等小學校を卒業す、君は郡内屈指の素封家として知られ公益事業には財を惜まず出資して内外の信望厚し、大正二年全六年、全十年、全十四年の四期町會議員に當選し稅務調査委員なり。

米之津町 村川方次郎氏

米之津町 村川方次郎氏

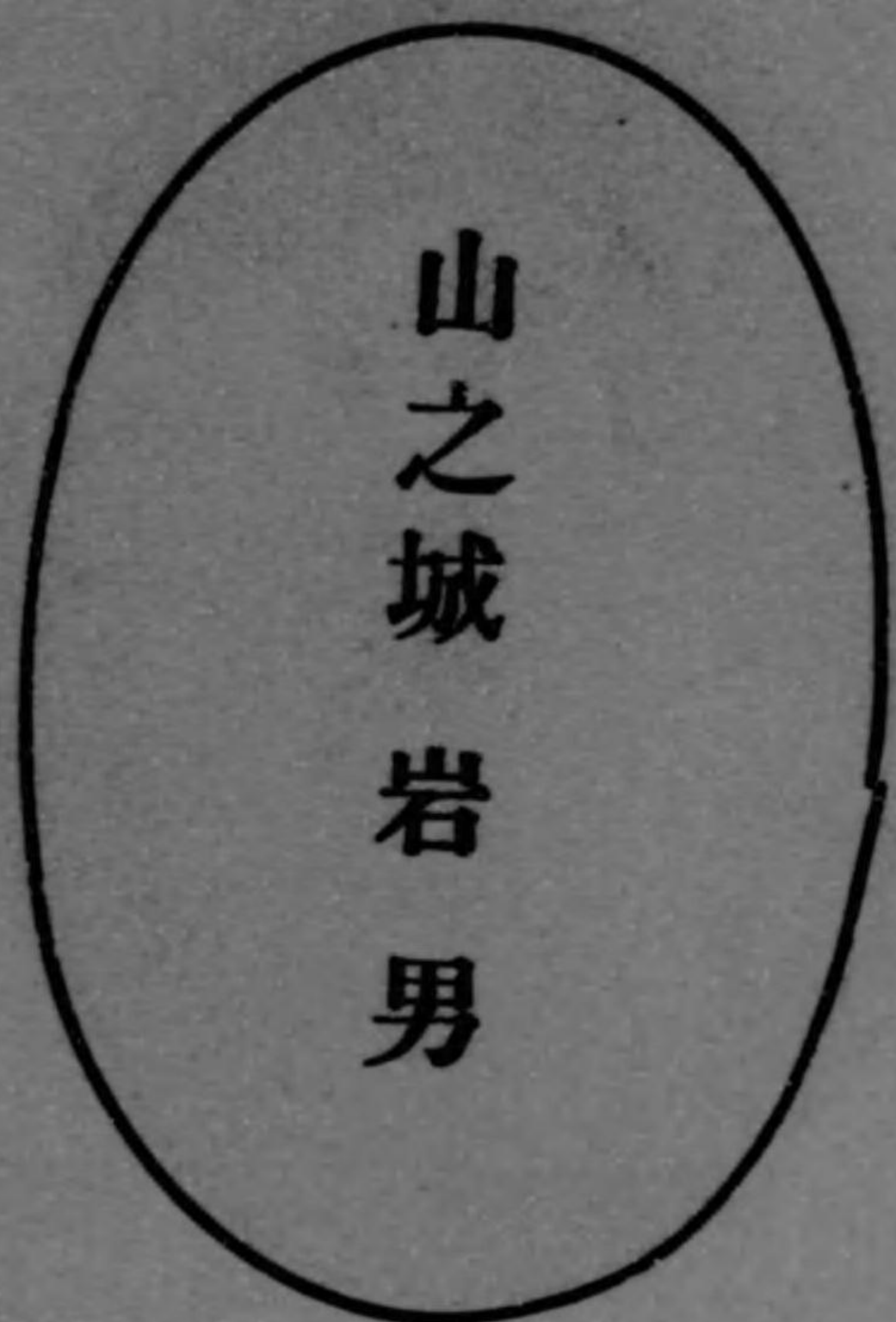
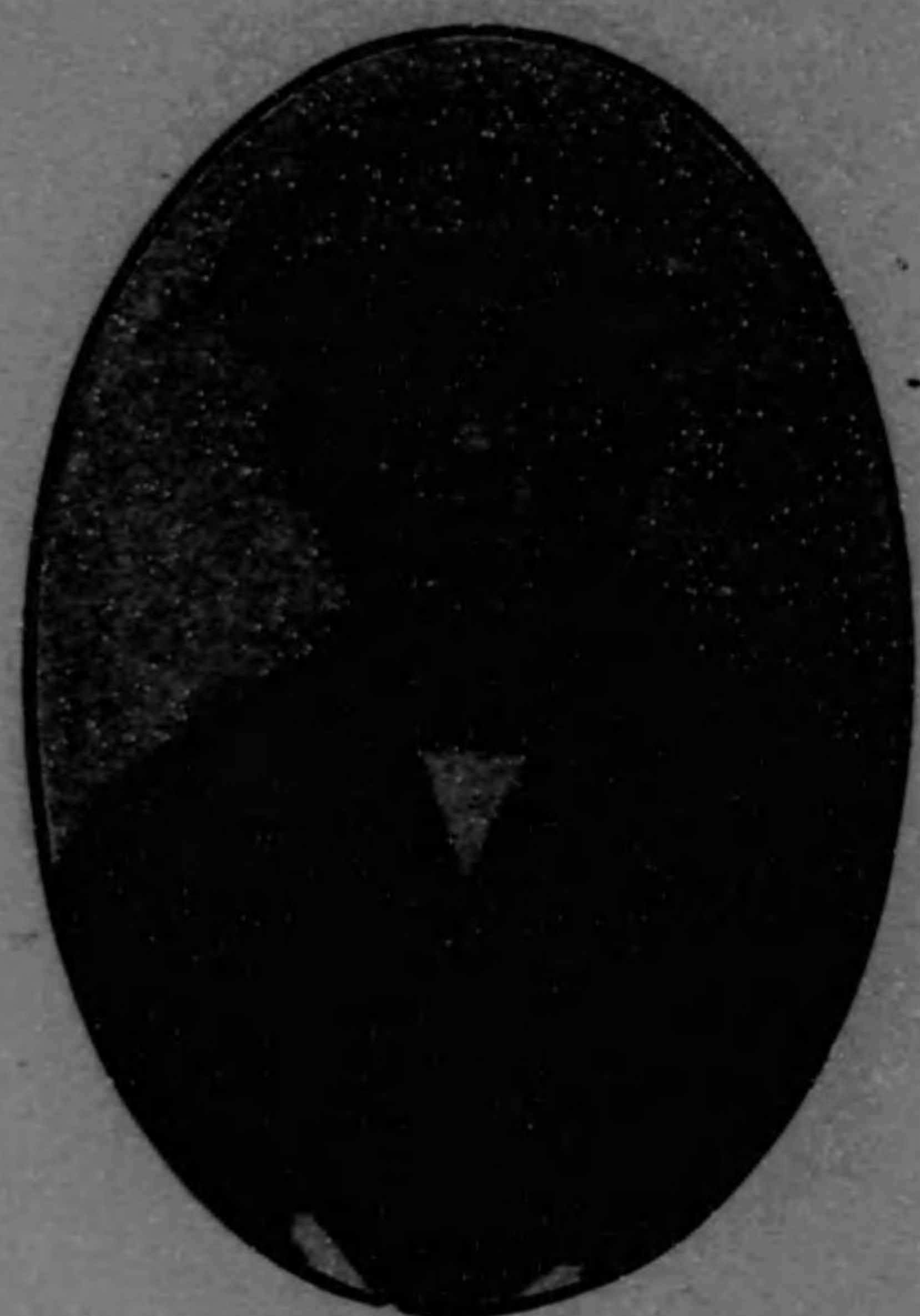
君は明治二十八年五月五日米之津町下知識に生れ、中出水小學校に學び、工業に従事す、大正四年熊本工兵第六大隊に入營し大正七年上等兵に進み下士適任證、善行證書を附與されて歸郷、名護浦私設消防組頭、國勢調査員に擧げられ、大正十四年町會議員に當選し會計検査委員たり。

米之津町 山之城岩男氏

君は明治二十二年十一月七日米之津町下知識に生れ、阿久根小學校を卒業し熊本鹿見島にて中等教育を受け、三十九年東郡に遊學し四十二年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し歩兵伍長に進級し歸郷す、大正十四年町會議員に當選し、町農會總代、米之津煙草耕作組合長に現任せり。

山之城岩男

◎米之津町





◎米之津町



米之津町 山之城道一氏

君は明治七年三月十五日米之津町下知識に生る、中出水小學校を卒え全二十七年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し日清戰爭に参加し全三十年滿期歸郷し農事に屬めり、日露の役に召集されて出征し歩兵軍曹に進み勳八等白色桐葉章を下賜さる、大正十年町會議員に當選し全十四年再選せしが全年又た國勢調査員にも擧げらる。



米之津町 淵上幸康氏

君は明治八年十月十三日米之津町米之津に生れ、出水小學校を卒業後は村尾重固氏に就きて漢學を學びのち尋常小學校本科准教員の免狀を受け、縣立鹿兒島尋常師範學校講習科を卒業し本科正教員の免狀を得、全三十一年中出水小學校に奉職し切通尋常小學校長となり、川床、脇本、野田、江内の各小學校訓導を経て伊唐小學校長となり、大正十年辭して家業に従事す、大正十四年町會議員に當選し税調査委員たり。

米之津町 榎木嘉一氏

君は明治十二年三月二十五日米之津町下崎淵に生れ、中出水小學校に學び全三十一年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營、全三十二年歩兵伍長に進み日露の役に出征し功に依り勳七等青色桐葉章並に一時金四百圓を下賜され凱旋と同時に歸郷す、全四十一年關東都督府兼外務省巡查を拜命し馬賊討伐に特務として勤務せしも大正七年病みて歸郷す、病氣全快するや大正八年朝鮮總督府巡查を拜命、忠清南道扶余警察署高等事務を取扱ひ不逞鮮人掃蕩に服務し性來の剛氣その手腕を發揮して賞與に與りし事一再ならず、大正十二年辭して歸郷只管農事に屬み、大正十四年町會議員に當選し學務委員たり。

米之津町 佐藤貞夫氏

君は明治四年十月十四日米之津町莊に生る、中出水小學校卒業後東都遊學を志し笈を負ふて上京東京濟生學舎を卒業し内務省衛生試驗所に奉職し後山梨縣警察醫に轉じ全三十年辭して歸郷醫院を開業せしが、全四十年鹿兒島縣檢疫醫として一年間勤務し再び歸郷開業せり、明治三十九年、大正二年、全六年、全十年、全十四年の五期町會議員に當選し學務委員、衛生組合長、全町四校の校醫たり、君は篆刻漆工に長しその製作せし逸品多し。

◎米之津町







米之津町 佐藤精一氏

君は明治十九年十二月十日大分縣南海部郡西上浦に生れ、後山口縣に赴きて林業を營みしが今を去る十七年前米之津町築港に來りて木炭業を開業せり、搜獲的事業を避けて堅實なる經營法は年と共に信用を得て、今日を築き上げ米之津屈指の資産家たらしめたり、君は公共的奉仕觀念に富み内外の徳望厚く大正十年町會議員に當選し全十四年再選され築港區長、部落協議員、鹿兒島縣木炭同業組合評議員たり。

米之津町 貴島秀俊氏



君は明治十九年三月六日米之津町下知識に生る、中出水小學校に學び縣立鹿屋農學校に入り全四十年同校を卒業し全一年志願兵として熊本歩兵第二十三聯隊に入營し全四十一年滿期歸郷す、全年日置郡伊作町農業技手として赴任し、全四十二年佐賀縣東松浦郡技手に轉じ大正八年辭して歸郷す、大正九年中出水村農會副會長に擧げられ大正十四年町會議員に當選し町農會總代たり。

阿久根町長 楠田正義氏



君は明治六年三月縣下出水郡阿久根町に生る、明治二十七年鹿兒島縣師範學校を卒業して直ちに阿久根尋常高等小學校に教鞭を執り、のち隼人、中出水尋常高等小學校訓導兼校長として青英の任に當る君が披群の精勵は認められ全卅六年鹿兒島縣屬に任し第三課勤務を命ぜらるゝに至る、斯くして大正三年に至るまで勤績、其の間小學校教員檢定委員會臨時委員、市町村立小學校教員恩給審査員、通常縣會議事參與、小學校教員檢定委員會常任委員、又鹿兒島縣教育會幹事を囑托せらる、大正三年十月鹿兒島縣川邊郡長に任ぜられ孜々として郡治に努力して郡民の輿望淺からず次いで始良郡長に榮轉し郡治に勤むるもの多年其の治績の見るべきもの少なからず、大正十三年辭任せしが阿久根町に於ては君の辭任と共に直ちに町長に推薦せり。



◎阿久根町

松下成享

阿久根町助役 松下成享氏  
君は明治二年十二月二十五日阿久根町大川に生る、全十九年大川小學校教員となり、全二十一年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し全二十三年滿期歸郷し全二十七年熊本縣巡査を拜命、偶々日清の役起るや召集されて出征し功に依り勳八等白色桐葉章を下賜され除隊後再び警察官となる、日露の役には再び召集され出征し勳七等青色桐葉章を下賜され、三度警察界に入り警部に任官し大正五年辭して歸郷す、大正六年阿久根町役場書記となり、全九年助役として勤務し全十四年町會議員となる。

阿久根町 奄 六兵衛氏

奄六兵衛

君は明治六年九月阿久根町多田に生る、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に屬み家運の隆昌を計り、今日あるを得たり、内田區世語人報効農事小組合長、衛生組長等に擧げられ大正六年、全十年、全十四年の三期町會議員に當選し内田耕地整理組合委員たり。



阿久根町 花木仲右衛門氏

君は明治七年五月阿久根町大川に生れ、燒酎醸造業を營み専心斯業に勵みて年と共に隆昌に向ひつゝあり、多年大川區長の任にありて其の盡す處少なからず、大正十四年町會議員に當選す。

阿久根町 植 庄右衛門氏



◎阿久根町

君は明治二十二年十二月二十五日阿久根町西目に生る、其は幼にして商業を營み目下西目信用組合理事たり、大正十四年町會議員に當選す。



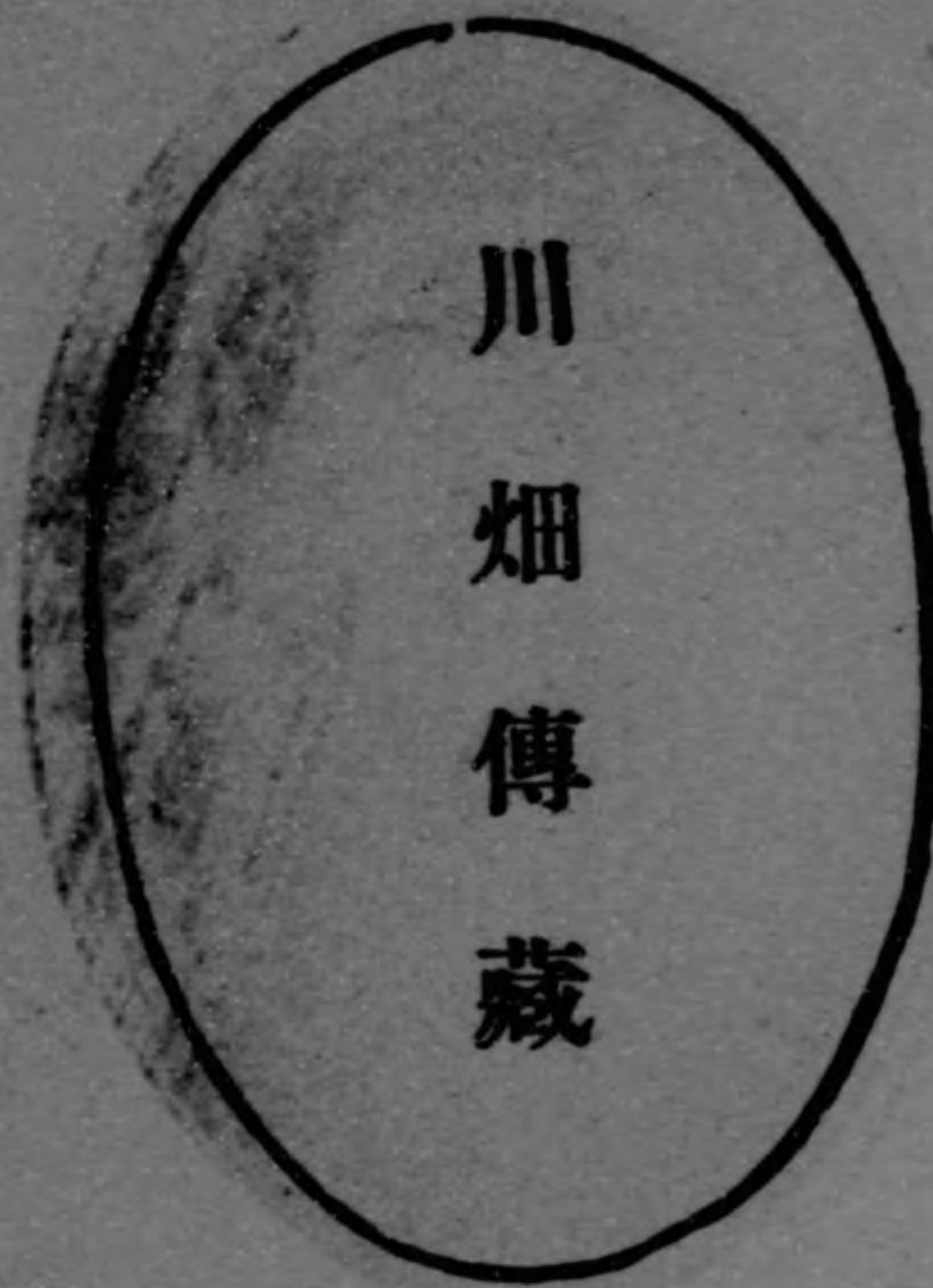
◎阿久根町



阿久根町 富永傳右衛門氏

君は嘉永五年正月六日阿久根町赤瀬川に生る、幼年の頃より父祖に従ひて農事に勵みしか、のち區會議員として多年同區のために貢献し、老年なれども尙ほ壯者を凌ぐ程の氣概ありて町政に與るもの多く、大正十四年の町會議員改選期に出馬し當選せり。

川畑傳藏



阿久根町 川畑傳藏氏

君は明治二年四月二日阿久根町大川に生る、全二十二年第六師團に入營し滿期後は只管農業に勵み居たりしが日清戰爭に召集されて出征、全三十年歸郷家事に従事せり、再び日露戰役に召集されて出征し一時金百五十圓を下賜さる、國勢調査員、大川信用組合理事、安全組合理、道路委員、養蠶組合理等に擧げらる大正十四年町會議員に當選す。

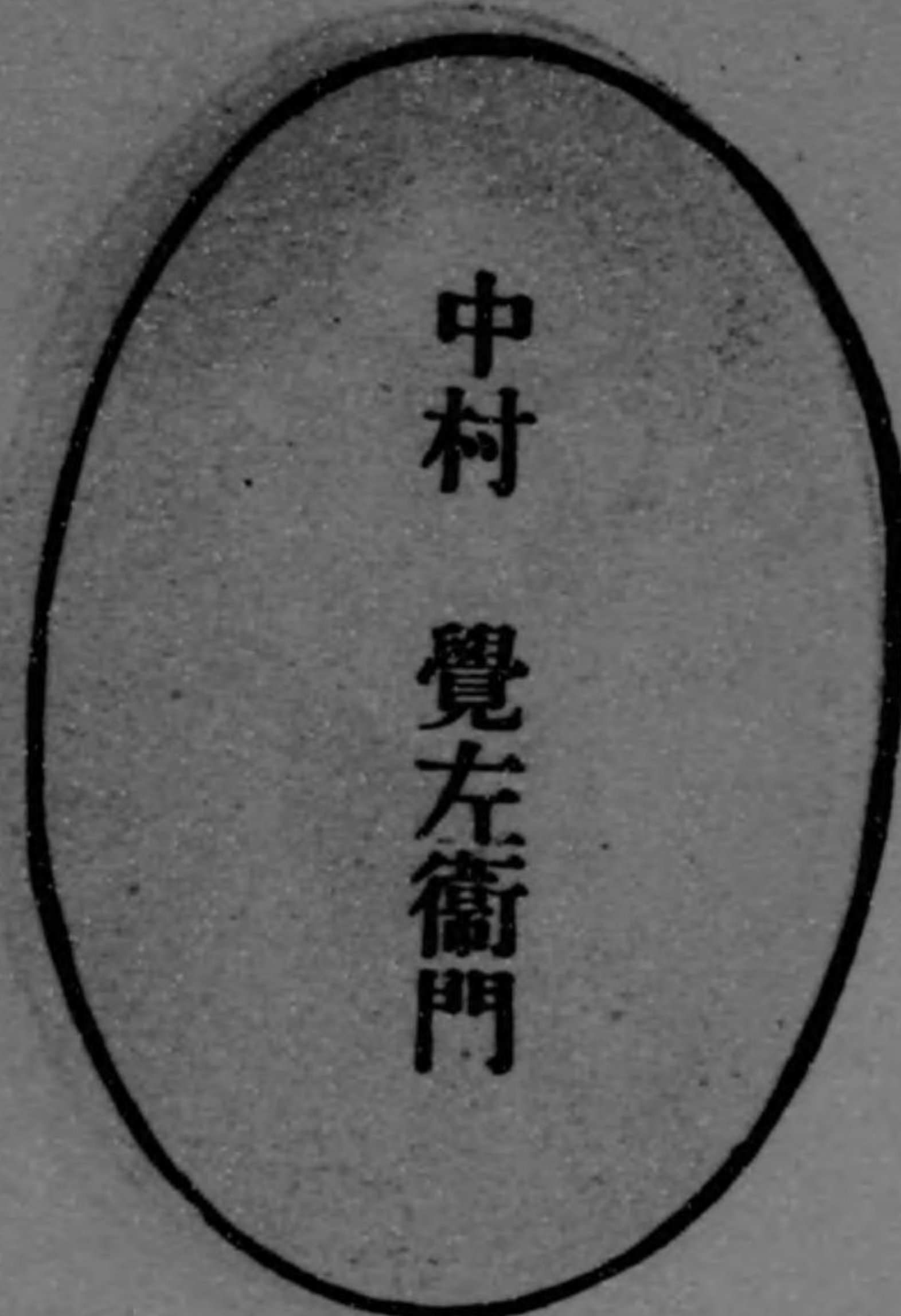
阿久根町 神之田儀右衛門氏

君は明治五年一月十六日阿久根町大川に生る、燒酎醸造家として知られ近年著しく其の品質の向上を見るに至り従つて醸造高も増石しつゝあり、報効農事小組合理、大川信用組合理事國勢調査員に擧げらる、明治四十三年、大正二年、大正六年、大正十年、大正十四年の五期町會議員に選ばれ大いに町政の刷新に努めつゝあり。

阿久根町 中村覺左衛門氏

君は明治四年五月十日阿久根町大川に生れ、燒酎醸造業を營ひその製品は飛鶴印として販出し各品評會に出品の都度その品質の優良なるを以て賞與を受く、君はまた教育に熱心なる人なるが、大正二年、全十年、全十四年の三期町會議員に當選せり。

◎阿久根町



中村 覺左衛門



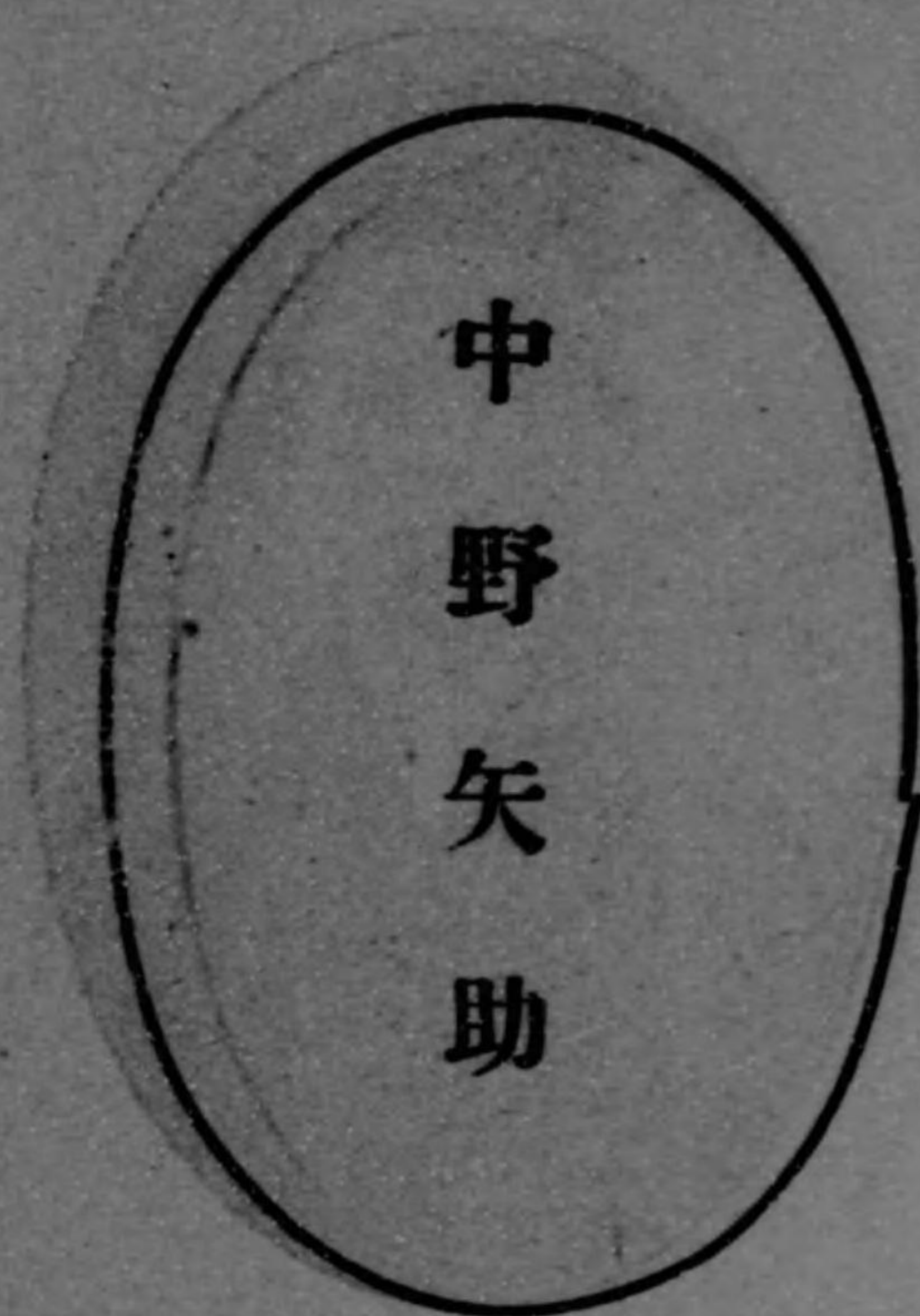
◎阿久根町



阿久根町 中村武吉氏

君は明治五年一月阿久根町に生る資性温厚にして熱慮断行の人、公共の爲めには犬馬の勞も惜しまず既往に盡せし處少なからず、青年時代より海陸運送業に従事し今日の隆昌を呈するに至れり、大正十一年出水郡會議員に選ばれ、大正十四年町會議員に當選し火防組合長に現任せり。

中野矢助



阿久根町 中野矢助氏

君は明治十一年一月三日阿久根町に生る、全三十一年熊本野砲第六聯隊に入營し、全三十三年上等兵に進級して滿期大川青年會長に擧げられ、日露の役に出征して功あり、伍長に進み次て軍曹に任ぜられ勳七等青色桐葉章並に一時金三百圓助金八拾圓を下賜さる、國勢調査員、村農會議員、大川信用組合理事等に擧げらる、大正二年、大正十年、大正十四年の三期町會議員に當選し、目下大日生命保險の代理店を營めり。

中野庄之助



阿久根町 中野庄之助氏

君は明治二十年一月二十日阿久根町鶴川内に生る、野田尋常高等小學校に學び卒業後は専心農事に屬み田代青年會長、報効農事小組合長、田代區長、田代信用組合理事、出水郡茶業組合委員、國勢調査員等に擧げられ、大正十四年町會議員に當選す。

阿久根町 牟禮新太氏

君は明治十二年九月五日阿久根町大川に生れ、小學校卒業後は父祖に従ひて農業を屬み、衛生部長、報効農事小組合長、牛ノ濱青年會賛助員、牛ノ濱區長、煙草耕作組合總代、町會議員、牛ノ濱地主總代、農事獎勵委員、技手代理、牛ノ濱信用組合會計、國勢調査員等に擧げらる、大正十四年町會議員に當選す、現在大川尋常高等小學校後援會副會長たり。

◎阿久根町





◎阿久根町



村山善次

君は明治十年九月二十五日阿久根町山下に生る、全三十三年長崎縣巡查を拜命し三十六年辭して歸り専ら農事に勵み報効農事小組合長、出水郡産牛馬組合阿久根支所長、出水郡畜産組合議員等に擧げらる、大正二年、大正十四年の二期町會議員に當選し、町農會議員、全評議員たり。

阿久根町 村山善次氏

阿久根町 黒崎小右衛門氏



君は明治十八年三月二十日阿久根町赤瀬川に生る、全三十七年熊本工兵第六大隊に入營し、日露戦争に出征し全四十年工兵伍長に昇進満期歸郷す、青年會長、國勢調査員、在郷軍人分會班長等に擧げられ、大正十四年町會議員に當選し、衛生組合代議員、安全組合長たり、その班長當時は帝國在郷軍人會長より賞状を受けし事あり。



阿久根町 山下早次郎氏

君は明治五年十二月五日阿久根町に生る、全二十五年近衛歩兵第二聯隊に入營し日清戦役に參加し凱旋と同時に歸郷、小牟田區世話人として青年會組織など公共的事業に盡力せしが再び日露戦役に召集されて出征し功ありて勳八等白色桐葉章を下賜さる、鹿兒島縣米穀検査員、全木炭検査員、新町世話人、報効農事小組合長等に擧げられ大正六年、大正十四年の兩度町會議員に當選す。

阿久根町 松永八兵衛氏

君は明治二十年八月十二日阿久根町大川に生る、全四十一年熊本野砲第六聯隊に入營し朝鮮守備に勤務し全四十三年善行證書を附與され歸休兵として除隊、牛ノ濱青年會長、報効農事小組合長、國勢調査員、牛之濱區長等に擧げられ、大正十四年町會議員に當選す、阿久根信用組合書記なり。

◎阿久根町





◎阿久根町



阿久根町 馬見塚清治氏

君は明治二十年四月八日阿久根町西目に生る、全四十年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し全四十二年滿期歸郷、鹿兒島縣巡查を拜命し數年にして辭し、大正九年出水郡々會議員に當選し大正十年、大正十四年の兩度町會議員に當選す、尙ほ大正九年、十四年の國勢調査員に擧げられ其の他學務委員、町出納検査委員、阿久根町衛生組合長、阿久根町農會議員、出水郡農會議員にして、衛生組合長としては大日本衛生會鹿兒島縣支部より感謝状を受けし事あり。

阿久根町 福田十助氏



君は明治十四年十月十日阿久根町西目に生る、全三十四年度鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營し臺灣守備の任に赴き、歩兵伍長に進み善行證書を授與さる、全三十九年滿期歸郷す、在郷軍人分會班長、報効農事小組合長、村税調査委員等に擧げられ大正十年、大正十四年、兩度の改選に町會議員として當選し現在西目信用組合長たり。

阿久根町 藤園七左衛門氏



君は明治十七年一月五日阿久根町西目に生る、全三十六年世保海兵團に入團し日露戰役には第二艦隊に屬し出雲艦に乘組みて參加し功ありて勳八等白色桐葉章を下賜さる、全四十四年滿期歸郷し青年會長、在郷軍人分會班長、衛生組長、飛松區長、出水郡畜産組合代議員、安全組合長、國勢調査員等に擧げらる、大正十年、大正十四年の兩期町會議員に當選す。

阿久根町 兒玉藤吉氏



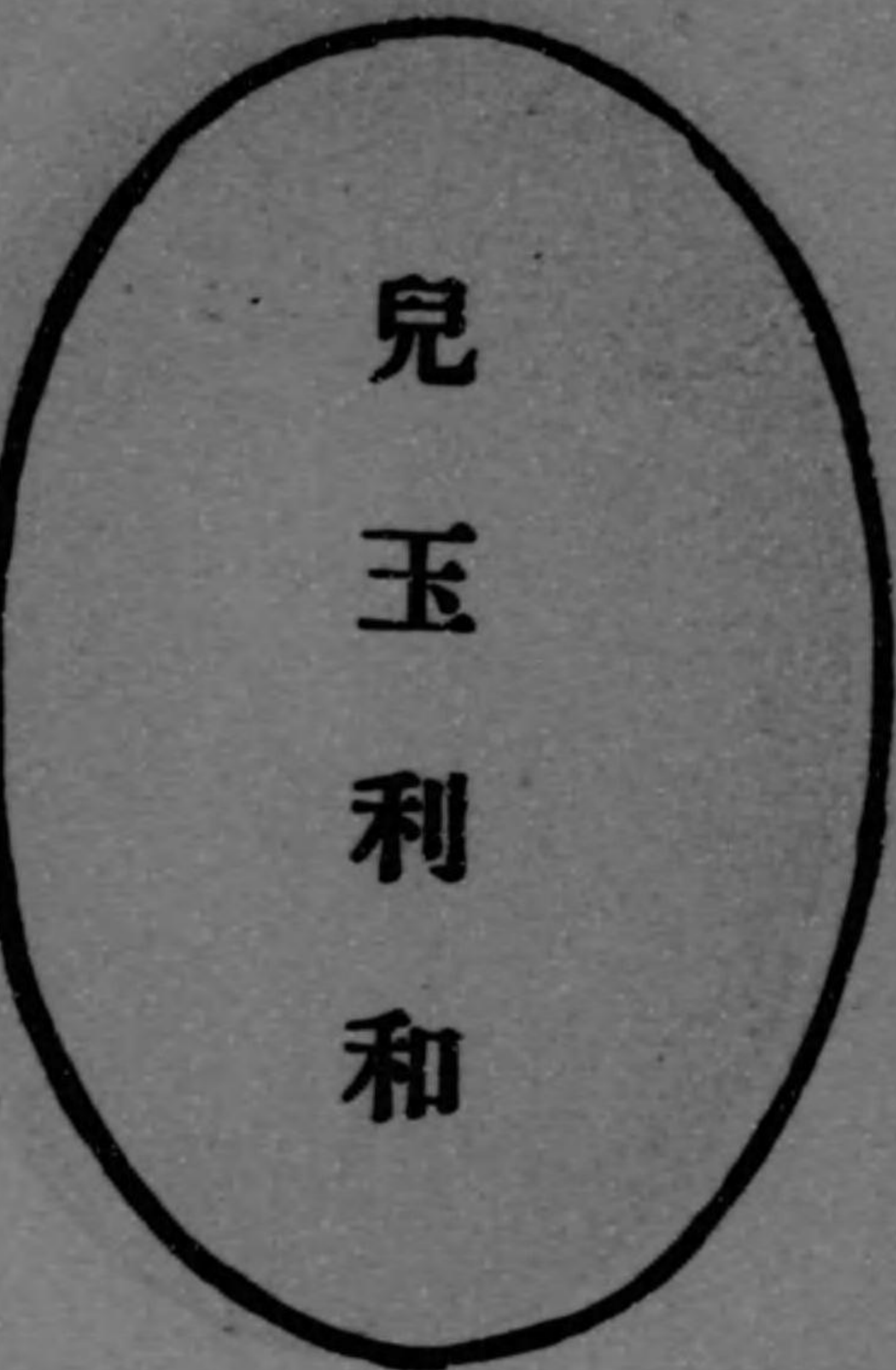
君は明治十一年十二月阿久根町波留本田家に生れ、大正七年兒玉家に入りて相續す、明治三十一年鹿兒島歩兵第四十五聯隊に入營、全三十三年上等兵に進みて滿期歸郷す、全三十四年一月全町山下小學校に履教員たりしが全年九月鹿兒島縣巡查を拜命し加世田、宮之城、出水の各警察署に勤務し大正二年辭して歸郷、大正十一年出水郡會議員に當選し、大正十四年町會議員に當選す、君は日露の役に出征し歩兵軍曹に進み勳七等青色桐葉章並に一時金百五拾圓を下賜さる。

◎阿久根町



◎阿久根町

兒玉利和



阿久根町 兒玉利和氏  
君は明治二十九年十二月三日阿久根町鶴川内に生れ、小學校卒業後は専心農事に勵み居たりしが、向學の念止み難く國民中學會の講義録によりて勉學し、阿久根青年會鶴川内支部長報効農事小組合、桑原城區々長、煙草耕作組合、世話人、町農會總代等に擧げらる、大正十四年町會議員に當選せり。

阿久根町

湯出七郎左衛門氏

君は明治十一年五月三日阿久根町大川に生る、全三十一年度兒島歩兵第四十五聯隊に入營し全三十二年十二月伍長に進み全三十四年善行證書を授與され滿期歸郷す、日露戰役には第六師團衛生隊附として出征し軍曹に進級功に依り功七級金鷲勳章勳七等青色桐葉章を下賜さる、國勢調査員に擧げられ學務委員、土木委員、阿久根町出納検査員、大川信用組合長、大川小學校後援會長等をつとむ、明治四十三年、大正二年、大正六年、大正十年、大正十四年の五期町會議員に選ばれ町政の向上に貢献する處少なからず。

盛永傳太郎



阿久根町

盛永傳太郎氏

君は明治十二年十月七日阿久根町山下に生れ、全三十二年度兒島歩兵第四十五聯隊に入營し全三十四年歩兵伍長、全三十五年軍曹に進み日露戰役に出征して殊勳あり、歩兵曹長に進級し功七級金鷲勳章、勳七等青色桐葉章を下賜さる、全四十年熊本聯隊區司令部附となり全四十一年八代聯隊區に轉じ全四十二年二月善行證書を附與されて滿期歸郷す、全四十三年阿久根町役場書記となり大正四年辭して出水郡產馬組合阿久根支所長に就任し、大正十四年辭す、大正九年より十四年迄在郷軍人阿久根分會長に擧げらる、全十四年町會議員に當選す。

◎阿久根町



○野田村

石澤盛雄

野田村長 石澤盛雄氏

君は明治八年十一月二十日野田村に生る、大正九年一月十七日同村長に擧げられ二期を通して現任しよく村治に盡しつゝあり。

野田村助役 橋口純介氏

橋口純介

君は明治七年五月十五日野田村に生る、村助役、村長、収入役等に歴任して徳望特に厚く大正三年再び助役に擧げられ四期を通して現任せり。

井上徳次郎

野田村 井上徳次郎氏

君は明治十六年一月六日野田村下名に生る、全三十六年露本第六師團に入營し日露戦役に出征して凱旋と同時に歸郷し、報効農事小組合長、併井區長たること久しく、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる。

野田村 今村清次郎氏

君は明治十五年六月八日野田村上名にて篤志家として知られる喜助氏の長男に生る、農業及び木材商を管む、部落世話人、報効農事小組合長、煙草耕作組合評議員、學務委員、國勢調査員、養蠶組合長、村農會議員等に擧げられ大正十年全十四年の兩度村會議員に當選す、尙ほ青年會、婦人會の顧問たり、君も亦父君の性を受け篤志家として知らる、武道獎勵として武徳會に多額の寄附をなし又た祐信寺には金二千五百餘圓の釣鐘堂及び釣鐘を寄進せり。

○野田村





○野田村

池田已之助

野田村 池田已之助氏

君は明治三年五月十八日野田村上名に生る、肥料雜穀商を營ひその堅實なる營業振りは年と共に信用を得て、區長、學務委員に擧げられ大正十四年村會議員に當選し尙ほ現村農會議員たり、君の養子種吉氏は熊本農學校出身にして伊佐郡教育界に在る事十ヶ年貢獻尠ならず種々の紀念品を受け目下野田村補習學校教師たり。

西長助

野田村 西長助氏

君は明治十一年十月十日野田村上名に生る、幼年の頃より父祖に従ひて農事に屬み、報効農事小組長、區長、煙草耕作組合評議員等に擧げらる、大正十年村會議員に當選し全十四年再選さる。

野田村 鶴田源兵衛氏

君は慶應三年六月八日野田村に生る、資性温厚篤實にして殊に向學心の旺なる人、五男四女悉く學業に就かしめたり、代々農家にして部落世話人、報効農事小組長、部落會計係、煙草耕作組合評議員、養蠶組合委員等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選せり。

野田村 來仙平太郎氏

君は明治八年十二月八日野田村下名に生れ、郡内屈指の資産家にして野田小學校を卒え田多聞世話人たる事約十ヶ年明治四十四年郡會議員に當選し全三十六年、全三十九年、全四十二年、大正二年、全六年、全十年、全十四年の七期村會議員に當選し村治に盡す處あり、學務委員、所得税調査委員、村農會議員にして大同生命保險會社の代理店を營めり。

○野田村





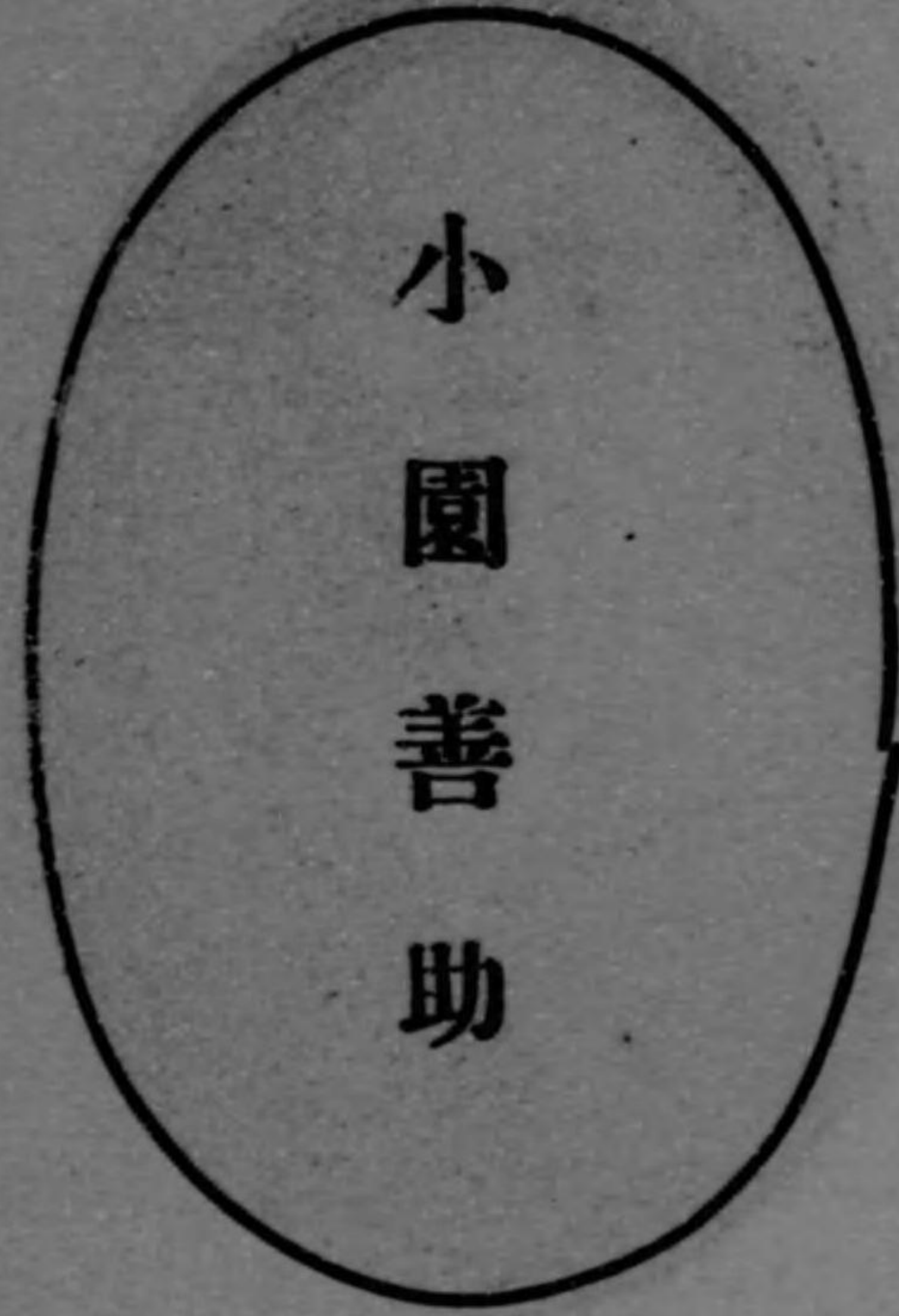
◎野田村



野田村 山上勘左衛門氏

君は明治十三年十二月二十七日野田村下名に生る、小學校を卒え全三十七年戦時補充兵として長崎要塞砲兵隊に入營し全三十八年出征し凱旋と同時に歸郷一時金百五拾圓を賜る、併井區世話人、報効農事小組合長、衛生部長、併井耕地整理組合理事等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選す。

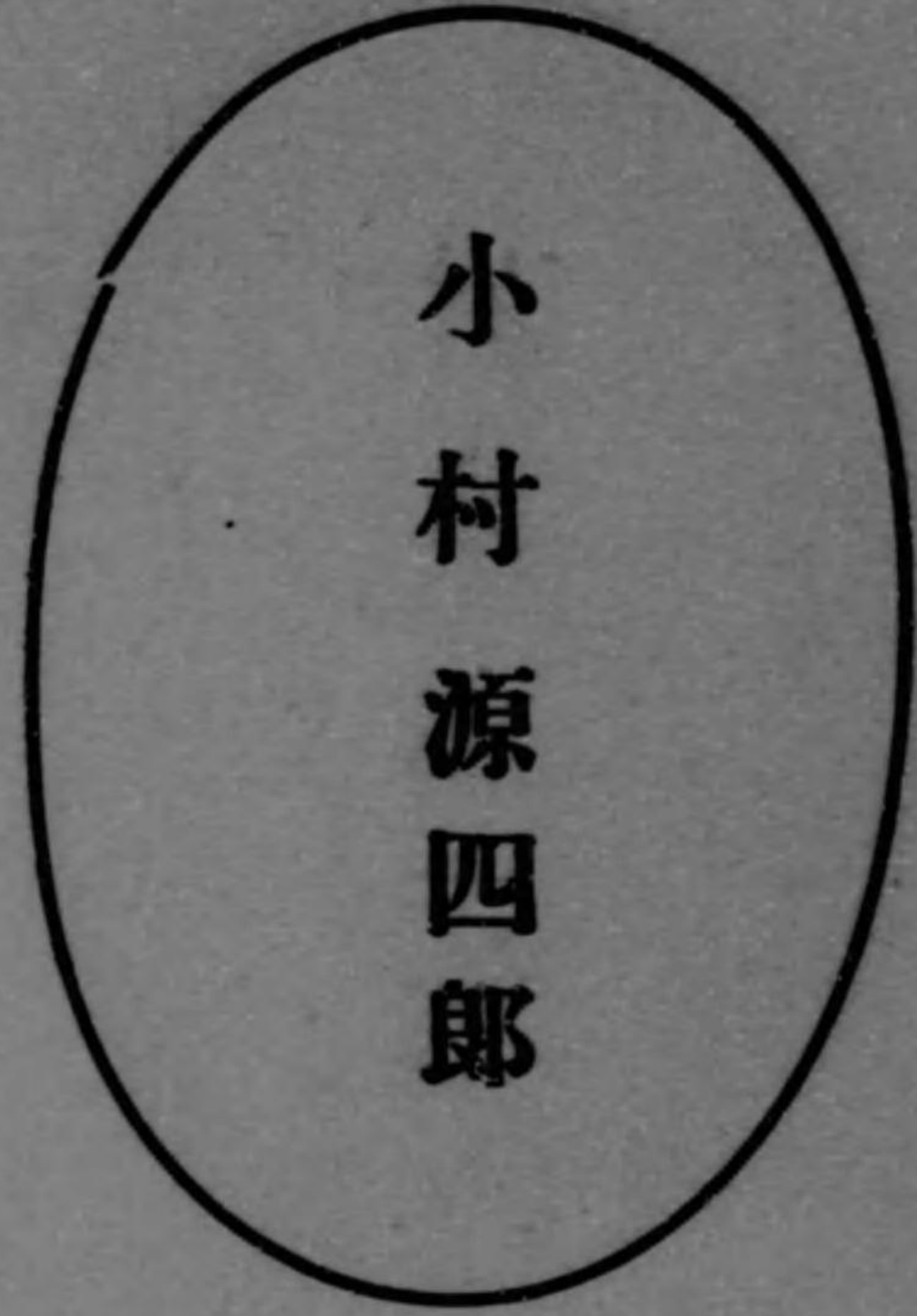
小園善助



野田村 小園善助氏

君は明治二十七年一月二十七日野田村下名に生れ、小學校を卒え、鹿兒島縣立鹿屋農學校に學びて全十四年卒業、大正三年一年志願兵として熊本野砲第六聯隊に入營し大正五年三等獸醫に進み正八位に叙せらる、歸郷後は現在地に獸醫業を開き、村農會總代、村農會評議員、在郷軍人分會長に擧げらる、大正十四年村會議員に當選す。

小村源四郎



野田村 小村源四郎氏

君は明治十三年野田村上名に生る、小學校卒業後は父祖の業を承けて農業に従事し家運の隆昌に努め、青木世話人野角耕地整理組合理事等に擧げられ大正二年、全六年、全十年、全十四年の四期村會議員に當選す、嘗つて報効農事小組合顧問として功勞あり、郡長より表彰されし事あり、土木委員たり。

野田村 木山十一氏

君は明治十五年九月九日野田村上名岡家に生れしが、後下名木山家の養子となる縣立鹿屋農學校に學び全三十四年同校を卒業し全三十五年熊本輜重兵第六大隊に入營し全三十七年日露戦に出征し功に依り勳八等白色桐葉章並に一時金貳百圓を下賜さる、全三十九年野田村書記となり、全四十二年野田村養蠶教師となり阿久根町、米之津町に轉じ大正十年辭して、大正十一年三月中西銀行出水支店野田出張所に勤務、大正十四年村會議員に當選す。

◎野田村





伊牟田 龜壽

高尾野村長 伊牟田 龜壽氏

君は明治二十四年九月五日高尾野村に生る、村書記たりし事久しく、大正十五年十一月同村々長に當選せり。

高尾野村助役 岩永 龜一郎氏

岩永 龜一郎

君は慶應三年三月二日生にして、小學校教員、學務委員、助役農會長等に歴任し又た村長として三期間も勤めて村治に盡したる事あり、大正十二年五月再び助役に擧げられたり。

高尾野村 池田瀬七郎氏

池田 瀬七郎

君は明治十年五月一日高尾野村上水流に生る、農業及び養蠶を管じ、青年會長、區長、煙草耕作組合總代、衛生組合長、報効農事小組合長等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選す、上水流産業組合理事、出水郡苗木同業組合代議員、小學校後援會委員等に現任せり。

高尾野村 橋元傳次氏

橋元 傳次

君は明治七年三月十五日高尾野村大久保に於て生る、小學校卒業後は父祖に従ひて農業に従事し、傍ら養蠶を管じ、部落世話人、養蠶組合委員、衛生組合長、煙草耕作組合、部落組長等に擧げられ、大正十四年村會議員に當選せり、君に五男四女あり長男は養蠶校を卒業して蠶種製造業を管じ、三男は五高在學中なり。

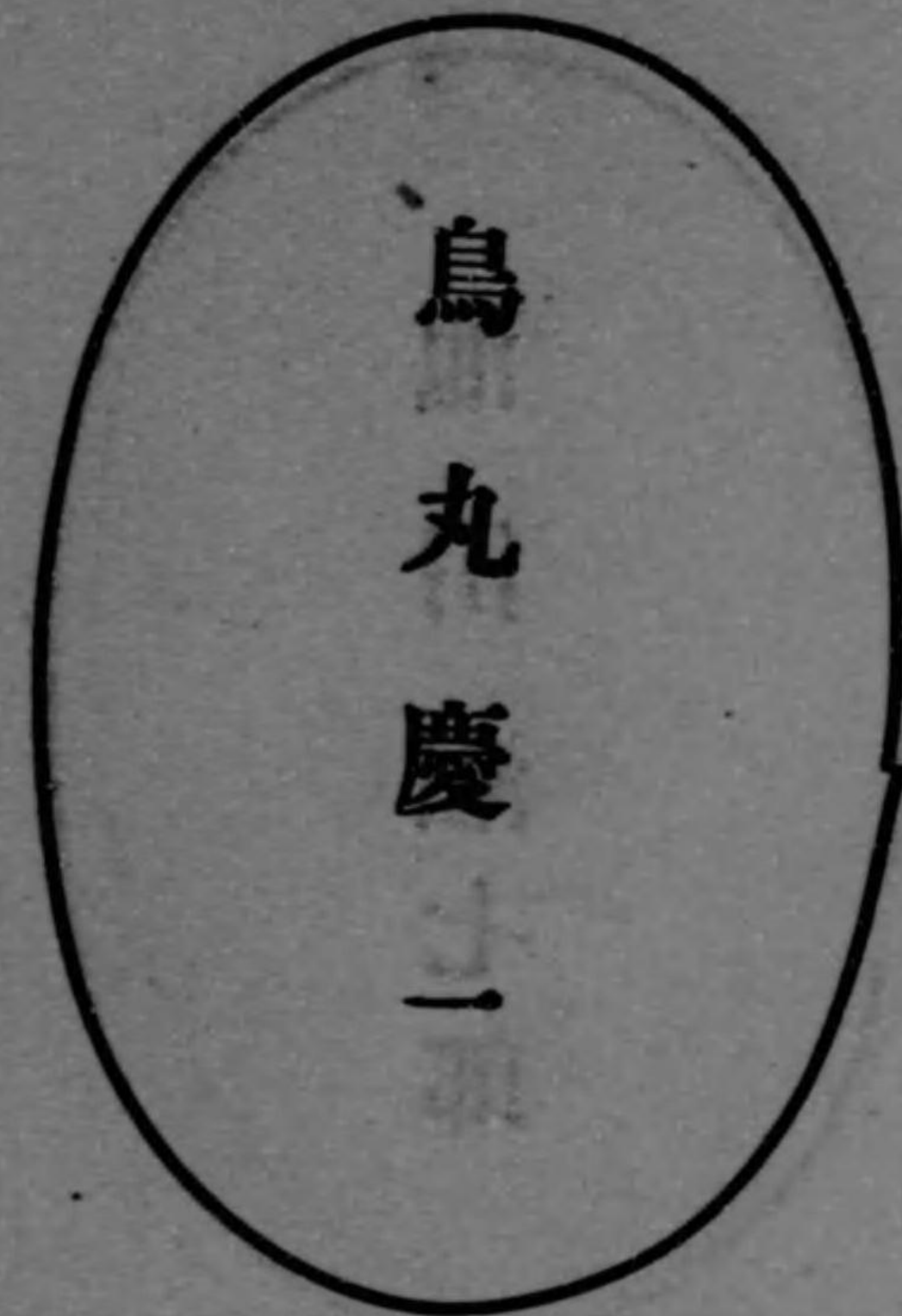


◎高尾野村



高尾野村 本城貞吉氏  
君は明治二十年十二月六日高尾野村下高尾野に生る、父淺右衛門氏眼病のため家計意の如くならず、所有田畑も他人の手に渡りしを幼心にも再び之を我が手に入れんもの志を起し寸暇を惜しみて刻苦勵精、時には他に使役される等具さに辛酸を嘗め漸くにして今日を築き上げたり、明治四十一年熊本歩兵第二十三聯隊に入營し全四十四年滿期歸郷、區長、青年會長、在郷軍人分會評議員、全區長、林野委員等に擧げられ大正十年村會議員に當選し、全十四年再選せり、在郷軍人としては郡より表彰されし事あり。

鳥丸慶一



高尾野村 鳥丸慶一氏  
君は明治十八年三月三十日高尾野村大久保の木下家に生れしが後鳥丸家に養子となり相續す、農業の傍ら養蠶を營み、養蠶組合理事、區長、報効農事小組合長、産業組合評議員、高尾野村養蠶三ヶ年五十万圓計畫遂行委員等に擧げらる、大正十四年村會議員に當選し林野委員としてその造林に多大の盡力をなしつゝあり。

高尾野村 富吉佐一郎氏



君は明治二十年三月十日高尾野村唐崎に生る、商業を營み傍ら養蠶、農業もなせり、區長、學務委員、高尾野産業組合理事となり、二回共國勢調査員に擧げらる、大正六年、大正十四年の兩度村會議員に當選せしが養蠶業三ヶ年五十万圓計畫委員たり、君は牛皮を縣下一般より購入し主として阪神地方に移出しつゝあり。

高尾野村 小山彌八郎氏



君は明治十九年三月二十四日高尾野村下山に生る、小學校卒業後長崎師範學校に入り、全四十二年卒業同時に長崎尋常小學校訓導となり全四十四年郷里、高尾野校に轉じ大正元年辭す、全年出水稅務署に入り大正二年熊本煙草專賣局に轉じ大正六年辭して歸り高尾野村役場書記となり大正十年辭す、中出水、高尾野兩村聯合耕地整理組合評議員に擧げられ、高尾野村養蠶組合理事に現任す、大正十四年村會議員に當選せしが君は養蠶業に熱心なり。

◎高尾野村



◎高尾野村

土山榮藏

高尾野村 土山榮藏氏  
君は明治二十三年一月六日高尾野村大久保に生る、農業の傍  
苗木商を営めるが、放膽細心にして奮闘家なり、區長たる事  
三期、その青年會長たる時勤儉力行を奨め金二千七百圓の基  
本金を造成し目下其の顧問たり、高尾野産業組合理事、養蠶  
組合理事、出水郡苗木同業組合長、高尾野養蠶五十萬圓發行  
計畫の理事等に現任し、大正十年村會議員に當選し大正十四  
年再選さる。

高尾野村 天辰淺右衛門氏

君は明治九年八月高尾野村字柴引仙右衛門氏の三男に生る、  
農業の傍ら養蠶を營む、煙草耕作組合長に擧げられ多年の間  
區長に任ず、又た養蠶三ヶ年五十萬圓計畫委員たり、大正十  
四年村會議員に當選す、君は温厚にして徳望あり、官有林村  
有林の植付山林整理に従事する事二十餘年に及ぶと。

高尾野村 安樂武次氏

君は明治十九年四月三日高尾野村柴引の舊家伊兵衛氏の長男  
に生る、小學校卒業後は父祖の業を繼ぎて農事に屬み青年會  
長、區長、出水高尾野耕地整理委員等に擧げらる、大正十四  
年村會議員に當選せり、自治の爲めに大に努力しつゝあ  
り。

高尾野村 白濱常秋氏

君は安政六年八月十五日高尾野村税所家に生れしが後白濱  
八氏の養子となり相續す、明治二十年より出水郡書記となり  
學務、兵事、庶務、稅務の各係として執務する事十九ヶ年、  
又た村長に推されて八ヶ年就任し其の他郡農會副會長として  
十ヶ年に及ぶ、大正十四年村會議員に當選せり、日露の役に  
勳八等白色桐葉章を下賜さる、又大正七年勳七等青色桐葉章  
を下賜さる、現高尾野郵便局長は君の長子なり。

◎高尾野村

